佐賀県文化財調査報告書第62集

上場の文化財(I)

昭和56年3月

佐賀県教育委員会

上場の文化財(I)

昭和56年3月

佐賀県教育委員会

はじめに

この調査報告書は、佐賀県農業基盤事業の施行に先がけて、国庫補助金を得て実施した確認調査の記録であります。

東松浦上場地方は、火山灰の堆積が貧弱であり、遺跡の遺構や遺物包含層が流出してしまっている個所が多くありますが、全国でも有数の旧石器時代から縄文時代の遺跡群地帯であり、その数は1,000個所にものぼると推定されます。

ここでは、昭和52年度以来、上場地方で県教育庁文化課が調査してきた旧石器時代・縄文時代の10遺跡の概要、遺跡の保存地域について報告します。また、上場地方においては、20数年来、踏査や発掘調査が地道に続けられてきていますが、上場の旧石器・縄文時代を総合的に理解するために、遺跡の概要をまとめてみました。

尚、調査及び資料提供につきましては、文化庁、九州農政局上場水利事業所、県農林部をはじめ、関係機関、関係諸氏の御協力をいただき、ここに厚くお礼を申し上げます。

おわりに、本報告書の御活用を期待して発刊のことばといたします。

昭和56年3月31日

佐賀県教育委員会

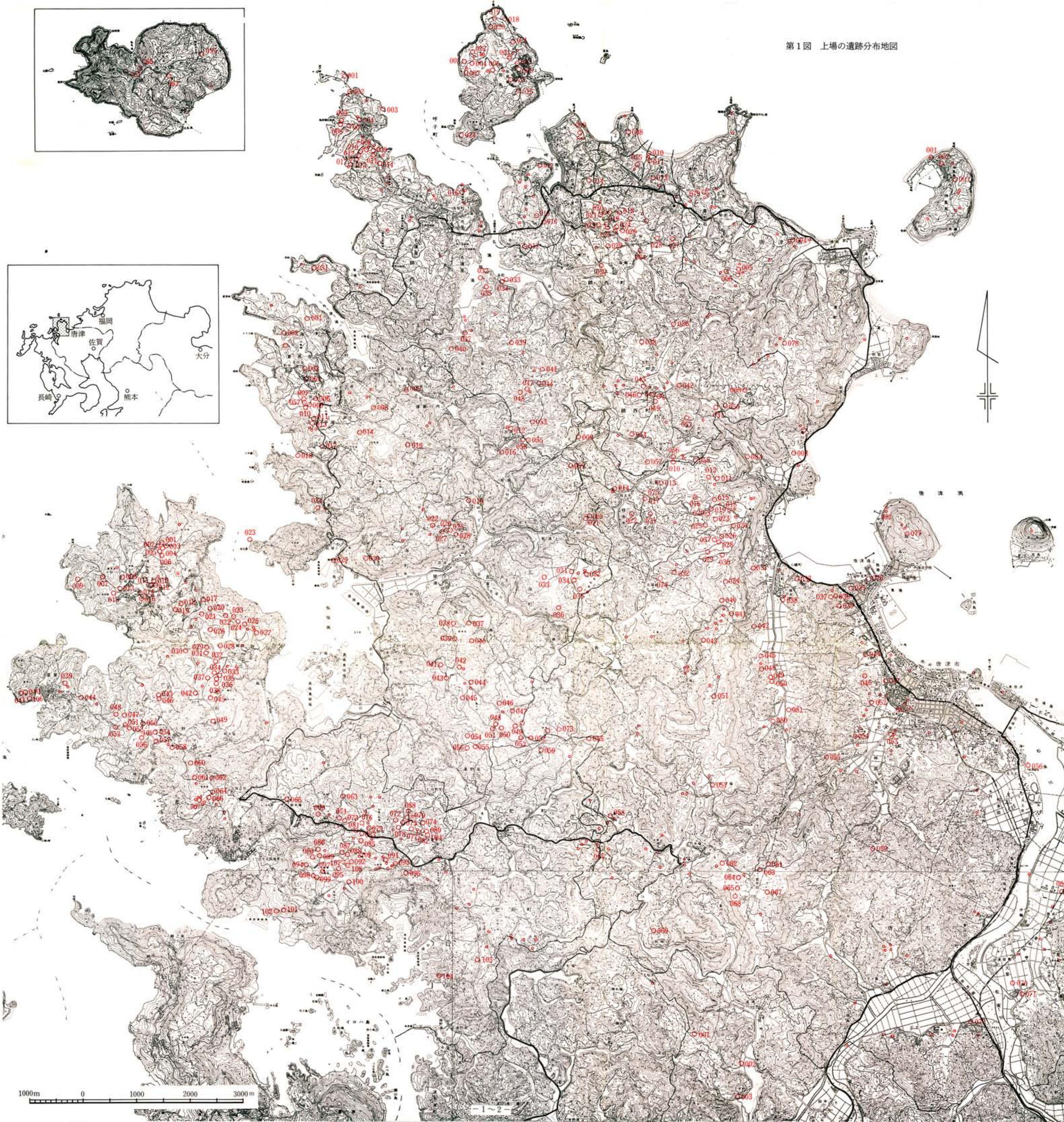
教育長　古藤　浩

上場の文化財（Ⅰ）

も　く　じ

上場地区の遺跡分布地図…… 1
発掘調査の経過……15
1．川原田遺跡……17
2．荒谷遺跡……30
3．尾山遺跡……35
4．ニツチ（丹土）遺跡……38
5．コッポ遺跡……44
6．高地木場遺跡……52
7．敷田遺跡……59
8．かんねお遺跡……66
9．田頭遺跡……73
10．畦木場遺跡……76
おわりに……79
あとがき……80

第１図　上場の遺跡分布地図



唐津市

地図番号	遺跡名	時代	種別	所在地	出土遺物	備考
001	学校東古墳群	旧石器、縄文 古墳中期前葉	遺物散布地 墳墓	湊大字神集島字宮崎2779	ナイフ形石器、石刃、スクレイパー、石鏃 短甲、鉄刀、短刀、鉄鏃、人骨	唐津市史、まつうら復刊9号
002	かぐめじ古墳	古墳	〃	〃 字かぐめじ2761	須恵器、装身具類	佐賀県の遺跡
003	鬼塚古墳群	〃	〃	〃 字鬼塚	金環、玉類、鉄器、須恵器	唐津市史
004	鼓古墳群	弥生、古墳	〃	湊字鼓	集落跡、墳墓、弥生前期甕棺、土器、石器、金環、鉄斧、須恵器	唐津市史
005	雲透B	縄文	集落跡	尾形石字前田	小形掻器、炉跡、縄文系土器片	県教委、唐津市史
006	〃 A	旧石器	遺物包含層	〃	細石核、剥片、ナイフ形石器、石鏃	県教委
007	鳩川	縄文、弥生	遺物散布地	鳩川字長部田	石鏃	
008	鳩川	古墳	〃	浦字門前	土師器、須恵器	県遺物台帳
009	兎田	旧石器	〃	枝去木野中兎田	ナイフ形石器、細石刃、スモールブレイド	県遺物台帳、唐津市史
010	猿口	旧石器、縄文、弥生中期	〃	〃 馬部字猿口	細石刃、ナイフ形石器、スモールブレイド、スクレイパー、土器片	唐二中資料室
011	野原	旧石器、縄文	〃	浦字野原雨溜	円柱形細石核、細石刃、円錐形石核、彫器、石鏃、剥片鏃、スクレイパー、石核、ポイント、石斧、掻器	唐二中資料室、唐津市史
012	雨溜	弥生	〃	〃	土器、石器	〃
013	枝去木伍町第二	旧石器	〃	枝去木馬部1915	ナイフ形石器、スモールブレイド、剥片	県遺跡台帳
014	枝去木分校入口	旧石器、縄文	遺物包含層	〃 字平山	ナイフ形石器、石核、台形石器、船底形石器、石刃、捺形紋土器片、石鏃、押型文土器片	県遺跡台帳、唐津市史、佐賀県の遺跡
015	黒龍	旧石器	遺物散布地	〃 字黒竜	細石核、細石刃、ナイフ形石器、台形石器、石刃	唐二中資料室、唐津市史
	〃	縄文	〃	〃 〃	石鏃、スクレイパー、石錐、剥片鏃、磨石、磨製石斧、土壌、石匙	県遺跡台帳、佐賀県の遺跡
016	女山	旧石器、縄文、弥生	〃	〃 馬部女山	ナイフ形石器、スモールブレイド、石鏃、布痕、土器片	県遺跡台帳
017	伍町	弥生	〃	〃 馬部1915	土器片	県遺跡台帳
018	八幡溜中島	旧石器	〃	佐志字八幡	ナイフ形石器、石刃、細石核、石核	県遺物台帳
019	八幡第一	縄文	〃	〃 〃	石鏃	県遺跡台帳
020	〃 第三	〃	〃	〃	石鏃	県遺跡台帳
021	辻	旧石器	〃	枝去木矢倉	石斧、スモールブレイド、ナイフ形石器、細石核、ブレイド	県遺跡台帳、佐賀県の遺跡
022	牟田辻	〃	〃	〃 909	ナイフ形石器、スモールブレイド、台形石器、剥片、押型紋土器	県遺跡台帳、唐津市史
	〃	縄文	集落跡	〃	石鏃、打製石斧、磨製石斧、曽畑式及び綱目紋の土器片	県遺跡台帳
023	八幡社	〃	遺物散布地	佐志字八幡	石鏃	県遺跡台帳
024	松尾	旧石器、縄文	〃	〃 松尾	ナイフ形石器、台形石器、石刃、石鏃	県遺跡台帳
025	吉田	旧石器、縄文	〃	〃 吉田	ナイフ形石器、フレイク、石鏃、押型文土器、半磨製石斧、石鏃、掻器	県遺跡台帳

026	佐志田	旧石器	墳墓	佐志字笹野尾	刃器状剥片、細石刃、スクレイパー、ナイフ形石器、石刃	唐二中資料室、唐津市史
	佐志田	縄文	遺物散布地	〃	尖頭状石器、石鏃、石匙、石錐	唐二中資料室、佐賀県の遺跡
027	笹の尾	旧石器	遺物包含地	〃	ナイフ、彫器、船底型石器、石刃、細石刃、細石核、尖頭器、刃器状剥片、スクレイパー	唐二中資料室、唐津市史
	〃	縄文	〃	〃	石鏃、石匙、石斧、装飾具破片、押型文土器、曽畑式土器、黒川式土器、山の寺式土器、尖頭状石器、掻器、磨製石斧、磨石	唐二中資料室、唐津市史
	〃	弥生	遺物散布地	〃	土器片、弥生中期土器、石器	県遺跡台帳、唐津市史
028	笹の尾南	旧石器、縄文	〃	〃	ナイフ形石器、細石刃、細石核、削器、三稜尖頭器、石鏃、石匙	
029	一本松	縄文、弥生	〃	佐志字一本松490	石斧、石匙、石鏃、弥生土器片	県遺跡台帳
030	一本椿	旧石器、縄文	〃	〃 字日焼	石刃、石核、細石刃、石鏃、剥片鏃、スクレイパー	唐二中資料室
031	経塚	弥生、古墳	〃	佐志田大字佐志南字経塚3742	弥生土器片、石器、須恵器	県遺跡台帳
032	一本松南	旧石器、縄文、弥生	〃	〃 一本松	石核、尖頭状石器(Sa)、ナイフ形石器、船底形石器、細石核、磨石、石鏃、石斧、弥生土器片	唐二中資料室、唐津市史
033	二中	弥生	〃	〃 八幡町	遠賀川、須玖式土器片	県遺物台帳
034	石ヶ元	旧石器、縄文	〃	〃 石ヶ元	細石刃、石刃、ナイフ形石器、石鏃、半磨製石斧	唐二中資料室
035	妙見	古墳	墳墓	西唐津妙見7022	須恵器、人骨、鉄刀	県遺物台帳、唐津市史
036	中ノ瀬2号	〃	〃	〃 中の瀬6787	須恵器、鉄器	県遺物台帳、唐津市史
037	〃 1号	〃	〃	〃	勾玉、管玉、ガラス小玉、耳環、直刀、刀子、鉄鏃、鉸、鎌、鑿先、須恵器、土師器	県遺物台帳
038	中山	〃	〃	中山五本松560	金環、鉄器、玉類	県遺物台帳
039	権現谷	〃	〃	西唐津三丁目権現谷6632	須恵器、装身具、金環	県遺物台帳、唐津市史
040	タワタシ	旧石器、縄文	遺物散布地	佐志字石ヶ元	ナイフ形石器、台形石器、石刃、剥片、石鏃、掻器、磨石、山の寺式土器	県遺物台帳、唐津市史
041	橋掛田	旧石器、縄文	〃	〃 字橋掛田	細石刃、Uフレ、石核、刃器状剥片、有柄石鏃、剥片鏃、打製石斧	唐二中資料室、唐津市史
042	下戸	古墳	墳墓	〃 下戸1438	土師器、管玉、ガラス小玉、土器、石鏃、炉跡	県遺物台帳
043	炮烙瀬	旧石器	遺物散布地	〃 字橋掛田	細石刃、Uフレ、ナイフ形石器(切出し形)、スモールブレイド	唐二中資料室
	〃	縄文、弥生	〃	〃	石鏃、横形石匙、弥生土器片	県遺物台帳
044	二夕子	古墳	墳墓	二夕子4950日赤病院内	須恵器	県遺物台帳
045	惣原北1～4号	〃	〃	佐志字惣原1621	倣製珠文鏡、管玉、小玉、直刀、刀子、鉄鏃、ガラス小玉、須恵器、高杯	県遺物台帳
046	温石山西	縄文、弥生	遺物散布地	菜畑字温石山	尖頭状石器、弥生土器片、石斧	
047	桜の馬場	弥生後期	墓地	桜馬場4丁目	方格規矩鏡、有鉤銅釧、巴形銅器、広鋒銅鉾、ガラス小玉、鉄刀	唐津市史
048	惣原南1、2号	古墳	墳墓	佐志惣原1642	小形竪穴式石室、鉄丹、管玉、勾玉、ガラス小玉、鉄剣、刀子、鏃、斧	県遺物台帳
049	女山1号	古墳	墳墓	佐志字井尻女山	倣製四獣鏡、管玉、ガラス小玉	県遺物台帳

050	女山2号	古　　墳	墳　　墓	佐志字井尻女山		唐津市史
051	犬の馬場	縄　　文	遺物包含地	後川内字犬の馬場	細石刃	唐津市史
052	菜　　畑	縄文、弥生	〃	菜畑字松円寺字八反田	縄文、弥生土器、石包丁、石斧、石剣、骨格器、木製品、獣骨、炭化米	田島龍太氏(松浦文連)、瀬戸俊春氏
053	一中前	弥　　生	遺物散布地	町田	石包丁、管玉	瀬戸俊春氏
054	西　　浦	〃	〃	西浦	土器片	唐一中
055	寺　　崎	〃	遺物包含地	神田町大字西浦字六反田2469	弥生式中・後期土器片、須恵器	佐賀県の遺跡
056	松浦川下流	〃	遺物出土地	百人町松浦川下流佐用姫岩付近	石包丁	佐賀県の遺跡
057	馬場野ゴルフ場	縄文、弥生	遺物散布地	竹木場字馬場	山形押型文土器、弥生後期土器、石匙、石鏃、楕円押型文土器	唐津市史
058	東　　山	旧石器	〃	東山縫城	ナイフ形石器、石核、剥片尖頭器	小野　博氏
059	〃	弥生中期	遺物包含地	〃 山口	土器片	
060	東山雨溜	縄　　文	遺物散布地	〃 雨溜	石鏃、剥片、ナイフ形石器	唐津市史
061	管牟田5	〃	〃	管牟田字杉谷	石鏃、剥片	県教委
062	杉谷溜	〃	〃	〃	石鏃、石斧	県教委
063	管牟田4	〃	〃	〃	石鏃、剥片	県教委
064	管牟田3	弥　　生	遺物散布地	〃	弥生中・後期土器片	県教委、唐津市史
065	〃 2	縄　　文	〃	〃	石核、石鏃、剥片	県教委
066	中　　原	弥生(前、中期)	遺物包含地	中原	前期甕棺、中期土器	唐津市史
067	荒　　谷	旧石器、縄文	〃	管牟田字荒谷	曽畑式土器、石鏃、掻器	唐津市史、県教委
068	管牟田1	縄　　文	遺物散布地	〃 字杉谷	石鏃、剥片	県教委
069	熊ノ峰北	旧石器、縄文	〃	熊ノ峰	ナイフ形石器、細石刃、細石核、石鏃	
070	城　　原	弥　　生	遺物包含地	久里城原	弥生土器片	
071	池の内古墳	古　　墳	墳　　墓	久里大字池の内字倉瀬戸	甕棺破片	佐賀県の遺跡
072	中　　尾	弥　　生	墓　　地	大字山本字中尾	勾玉、管玉、細形銅剣、中期甕棺、弥生中・後期土器、石器	佐賀県の遺跡、唐津市史
073	竹　　迫	旧石器	遺物包含地	大良字竹迫	ナイフ形石器、石刃	佐賀県の遺跡
074	名場越	〃	〃	枝去木大字名場越	ナイフ形石器	佐賀県の遺跡
075	五反田	〃	〃	〃 大字馬部字五反田	ナイフ形石器、スクレイパー、ブレイド	佐賀県の遺跡
076	西唐津海底	旧石器、縄文	遺物出土地	西唐津築港	ナイフ形石器、爪形文土器、曽畑式土器、隆帯文土器、阿高式土器、骨器、クルミ、シイ、獣骨	佐賀県の遺跡
077	大島山頂	〃	遺物散布地	大島	蛋白石製ナイフ形石器、石鏃	佐賀県の遺跡
078	十連溜	縄　　文	〃	湊町字十連	石鏃、剥片	佐賀県の遺跡
079	神　　崎	縄文、弥生	〃	〃 尾形石字神崎	弥生後期土器片、石鏃、石斧	佐賀県の遺跡
080	見借第一号	〃	遺物包含地	見借大字松ノ木天神山3980	弥生式土器片	佐賀県の遺跡
081	〃 二号	〃	遺物散布地	見借字谷口	弥生中・後期土器片	佐賀県の遺跡

082	三　号　地	縄文、弥生	遺物包含地	大島大字西貯炭場	弥生中・後期土器片	佐賀県の遺跡
083	山　下　町	弥生中期	甕棺埋蔵遺跡	山下町大字5丁目1212の1	須玖式甕棺	佐賀県の遺跡
084	赤太郎茶屋	〃　後　期	遺物包含地	浦字赤太郎6227	弥生中・後期土器、石器	佐賀県の遺跡

呼　子　町

地図番号	遺跡名	時代	種別	所在地	出土遺物	備考
001	加部島Ⅶ	旧石器	遺物散布地	加部島	ナイフ形石器	まつうら復刊14号
002	〃　Ⅲ	縄文	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
003	〃　Ⅵ	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
004	〃　Ⅱ	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
005	〃　Ⅴ	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
006	〃　Ⅰ	〃	〃	〃	石鏃、三角鏃	まつうら復刊14号
007	〃　Ⅳ	〃	〃	〃	台形石器、石鏃	まつうら復刊14号
008	友　崎	縄文	〃	小友	石斧、石鏃、剥片	
	小友古墳	古墳中期	墳墓	小友友崎	土師器、須恵器	
009	尾の上古墳群	古墳	墳墓	尾の上	須恵器	
010	大友甕棺	弥生	墓地	大友畑田9017の1	貝釧(イモ貝、ゴホウラ)、管玉、丸玉、貝製胸飾	大友遺跡概報
011	大友B	弥生中期	遺物包含地	〃	小甕、土器片	
012	殿の浦西	縄文	遺物散布地	字殿の浦西	石斧	まつうら復刊12号
013	大友古墳	古墳	墳墓	大友	須恵器片	
014	愛　宕	縄文	遺物散布地	愛宕町	石鏃、剥片	
015	殿の浦岡B	旧石器	〃	字殿の浦岡	円柱型細石核	
016	〃　A	〃	〃	〃	ナイフ形石器、細石刃	瀬戸俊春氏
017	唐津北高北	縄文	〃	〃	石斧、石鏃	
018	甕　塚	古墳	墳墓	加部島鉢の底	須恵器、鉄刀、鎗先、鉄刀子、鉄鏃、勾玉、管玉、小玉、銅鏡、耳環	佐賀県の遺跡
019	鉢の底古墳	〃	〃	加部島　〃		
020	御手洗古墳	〃	〃	加部島		
021	狐　塚	〃	〃	〃　鉢の底		
022	鬼の口古墳	〃	〃	加部島		
023	永田古墳	〃	〃	〃		
024	二軒屋古墳	〃	〃	〃		
025	平竹古墳	〃	〃	〃		

鎮西町

地図番号	遺跡名	時代	種別	所在地	出土遺物	備考
001	波戸大平	縄文	遺物散布地	波戸字大平	石鏃	まつうら復刊12号、県教委
002	大平B	古墳	〃	〃	須恵器片	〃
003	波戸	〃	〃	〃 字丸尾	須恵器片	
004	大平C	縄文、弥生	遺物包含地	波戸字大平	石鏃、石斧、板付Ⅰ式土器片	県教委
005	井樋田C	旧石器	〃	〃	舟底型細石核	県教委
006	〃 B	縄文	〃	〃	石鏃、石斧、石匙、磨石	県教委
007	〃 A	〃	〃	〃	石鏃	県教委
008	永田A	〃	集落跡	名護屋字永田	石鏃、石匙、石錐	県教委
009	鳥ノ巣	縄文、弥生	墓地	〃	石鏃、石匙、石錐、石斧、弥生中期甕棺、擂器、石包丁、石鎌	県教委、唐津市史
010	永田C	縄文、古墳	集落跡	〃	須恵器、石鏃、石匙	県教委
011	〃 B	縄文	〃	〃	石錐、石鏃、石匙	県教委
012	永田E	旧石器	遺物散布地	〃	台形様石器	
013	淀野丘	縄文	〃	名護屋淀野	石斧、石鏃	
014	永田D	〃	集落地	名護屋字永田	石斧、石鏃	
015	小副谷	縄文、弥生		丸田字大神	石鏃、石包丁、弥生土器片	
016	古里	旧石器、縄文	遺物散布地	名護屋方柄	ナイフ形石器、細石刃、石鏃	
017	淀野海岸	縄文後期	〃	各護屋淀野	土器片、スクレイパー	
018	中野V	縄文	〃	中野字出口	石鏃	まつうら復刊14号
019	〃 Ⅵ	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
020	中野Ⅲ、Ⅳ	〃	〃	〃	石鏃、刃器状剥片	まつうら復刊14号
021	中野	縄文、弥生	遺物包含地	〃	土器片、石鏃、石斧、石錐、サイドブレイド、磨石、石皿	県教委
022	〃 ⅡのA	〃	遺物散布地	〃	石鏃	まつうら復刊14号
023	中野鬼塚	古墳	墓墳	中野字村前	須恵器片	
024	中野ⅠのB	縄文	遺物散布地	〃	石鏃	まつうら復刊14号
025	〃 ⅡのB	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
026	〃 ⅠのA	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
027	赤木ⅠのB	〃	〃	大字赤木	石鏃	まつうら復刊14号
028	〃 ⅠのA	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
029	横竹Ⅰ	〃	〃	横竹	刃器状剥片	まつうら復刊14号
030	〃 Ⅱ	〃	〃	〃	石鏃	まつうら復刊14号
031	串崎A	〃	〃	串字串崎	石鏃、石斧、石槍	

032	清水浜	縄文	遺物散布地	野元字清水浜	石鏃、石匙	
033	赤松海岸	縄文後期晩期	遺物包含地	石室字赤松	石鏃、石斧、石錐、土器片、獣骨	打上中
034	赤松B	旧石器	遺物散布地	〃	石刃、石核	
035	清水	縄文	遺物散布地	野元字清水釜蓋	石鏃、石斧	
036	山頭	弥生中期	墓地	打上字山頭	甕棺	
037	野元	縄文	遺物散布地	野元字前田	石鏃、剥片	
038	田頭	旧石器	〃	打字田頭	ナイフ形石器、台形様石器、剥片	原口泱泰氏
039	小久保	旧石器、縄文	〃	石室字小久保	ナイフ形石器、半磨製石斧、石鏃	佐賀県の遺跡
040	一堂	縄文	〃	野元字鬼木一堂	石鏃、石匙	
041	山田平	〃	〃	石室字山田平	石鏃、剥片	
042	山口茶屋	〃	〃	菖蒲字菖蒲	石鏃	まつうら復刊14号
043	中川原	旧石器 縄文、弥生	〃	加倉字中川原	ナイフ形石器、細石刃、磨石、スクレイパー 磨製石鏃、弥生土器片	瀬戸俊春氏、唐二中
044	〃 B	旧石器	〃	〃	細石核	
045	早田東	縄文	〃	菖蒲字早田	石鏃	瀬戸俊春氏
046	藤原	旧石器、縄文	〃	〃	ナイフ形石器、台形石器、細石刃、細石核、石鏃	瀬戸俊春氏、唐二中
047	棚田	縄文	〃	石室字棚田	石鏃、剥片	県教委
048	丸林	旧石器、縄文	遺物包含地	〃 字丸林	細石刃、石鏃、石刃	〃
049	早田南	旧石器、縄文	遺物散布地	菖蒲字早田	ナイフ形石器、凹石、石鏃、石錐	瀬戸俊春氏
050	八床入口	旧石器、縄文	〃	〃 字広田	ナイフ形石器、細石刃、石鏃	
051	八床I	縄文	〃	八床字平倉	石鏃	まつうら復刊14号
052	かんねお	縄文晩期、弥生中期	集落地	岩野字橋ノ元	土器、石鏃、石匙、石錐、剥片	県教委
053	畦木場	旧石器	遺物散布地	石室畦木場	細石核、ナイフ形石器、石刃、石核	原口泱泰氏
054	畑地営農指導所	旧石器、縄文	〃	菖蒲字渕頭	ナイフ形石器、尖頭状石器、石鏃、掻器、石斧	唐津市史、佐賀県の遺跡
055	畦木場B	旧石器	遺物散布地	石室畦木場	細石刃、ナイフ形石器、スモールスクレイパー	瀬戸俊春氏
056	原	旧石器、縄文	遺物包含地	高野字原	ナイフ形石器、台形石器、石鏃	まつうら復刊14号
057	早田	旧石器、縄文	遺物散布地	菖蒲字早田	ナイフ形石器、細石刃、台形石器、石刃、石鏃	原口泱泰氏、瀬戸俊春氏
058	巻原	旧石器	〃	高野字原	細石刃、細石核、ナイフ形石器、彫器、石核	瀬戸俊春氏
059	馬場辻	縄文	〃	馬渡島字馬場辻	石鏃	多久工校郷土研究部、末盧国
060	切立	旧石器	遺物包含地	〃 字柳の谷	ナイフ形石器、掻器、彫器、石核、ブレイド、剥片	多久工校郷土研究部、末盧国
061	平石	縄文	遺物散布地	〃	石匙	末盧国
062	学園跡	弥生	〃	〃 字二夕松	弥生式土器（壺、甕）、土師器	末盧国
063	赤川原	旧石器、縄文	〃	八床字平倉	ナイフ形石器、フレイク、石鏃	佐賀県の遺跡
064	塩鶴	弥生	遺物包含地	塩鶴字村田	石斧、土器片	佐賀県の遺跡

玄 海 町

地図番号	遺跡名	時代	種別	所在地	出土遺物	備考
001	野田古墳	古墳	墳墓	今村字野田		
002	岩盛古墳群	古墳	〃	普音寺字古節木	須恵器	佐賀県の遺跡
003	普恩寺	古墳	〃	〃 字門前	勾玉	佐賀県の遺跡
004	花の木	旧石器	遺物散布地	諸浦字入川内	ナイフ形石器、剥片	まつうら復刊8号
005	大橋	縄文晩期	遺物包含地	今村字大橋	土器片、石鏃	県教委
006	甲頭溜東	縄文	遺物散布地	普恩寺字塔谷	石鏃、剥片	まつうら復刊16号
007	〃 西部遺跡群	旧石器、縄文	〃	〃	ナイフ形石器、Uフレ、刃器状剥片、円盤形石器、石鏃、石核、石核、調整剥片	まつうら復刊16号
008	釜蓋	縄文	遺物包含地	今村字釜蓋	スクレイパー	県教委
009	甲頭溜西	〃	遺物散布地	普恩寺字塔谷	石鏃、剥片	まつうら復刊16号
010	〃 南	旧石器、縄文	〃	〃	ナイフ形石器、円盤形石器、石刃、スポール、石核、石鏃、刃器状剥片	まつうら復刊16号
011	値賀中学校西	旧石器	〃	平尾字敷田	Uフレ、ナイフ形石器、彫器	まつうら復刊16号
012	小加倉北	縄文	〃	小加倉字小前田	石鏃	瀬戸俊春氏
013	平尾西遺跡群	旧石器、縄文	〃	平尾字平尾	ナイフ形石器、Uフレ、石刃、円盤形石器、刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊16号
014	槌山	縄文	〃	今村字槌山	石槍、石鏃	県教委
015	大橋南	〃	〃	〃 字大橋	石鏃	瀬戸俊春氏
016	小加倉南	旧石器	〃	小加倉字小前田	ナイフ形石器、石刃、石核	瀬戸俊春氏
017	浜野浦岡	縄文	〃	浜野浦字クツ越	石鏃	
018	〃B(浜)	〃	〃	〃 字浜	石鏃、石錐、スクレイパー	
019	犬吠南西	〃	〃	有浦下字犬吠	剥片	まつうら復刊16号
020	日の出松	旧石器	〃	有浦上字日の出松	舟底形石器、ナイフ形石器	まつうら復刊13号
021	〃	縄文	〃	〃	石鏃、石斧、石匙	まつうら復刊13号
022	花の木	旧石器		石田字花の木	台形様石器、細石刃、ナイフ形石器、石鏃、石斧	まつうら復刊8号、唐津市史
023	高岩海岸	縄文	遺物散布地	仮屋字高岩	石鏃	
024	わくど岩岩陰	〃	遺物包含地	大園字大石元	石鏃、カヌカイト製剥片	
025	花の木東I	〃	遺物散布地	有浦下字前田	刃器状剥片	まつうら復刊16号、第5遺跡
026	〃 II	〃	〃	〃	剥片	まつうら復刊16号、第6遺跡
027	花の木南	旧石器、縄文	〃	〃 花の木	彫器、石鏃、削器、石刃	まつうら復刊16号、第1～4遺跡
028	〃 東III	〃	〃	〃 字前田	削器、石刃、ナイフ形石器、石鏃、石斧、Uフレ	〃
029	三島神社	縄文	〃	石田字三島	剥片	

030	大久保	縄文	遺物散布地	石田字大久保	石鏃	瀬戸俊春氏
031	日の出松西	旧石器	〃	有浦上字クレ石	台形石器、台形様石器	
032	日の出松溜A	〃	〃	〃 字日の出松	細石刃、石刃、横型スポール、石鏃	まつうら復刊16号
033	大平北第2	縄文	〃	〃 字滝の上	石鏃	まつうら復刊16号
034	日の出松溜B	〃	〃	〃 字日の出松	石鏃	まつうら復刊16号
035	日の出松溜C	〃	〃	有浦上字日の出松	石鏃	まつうら復刊16号
036	大平北第1	旧石器、縄文	〃	藤平字大平	打面調整剥片、石鏃	まつうら復刊16号
037	諸浦溜北	縄文	〃	轟木字一の坂	剥片鏃	まつうら復刊16号
038	〃 西	旧石器	〃	〃 字尾付	刃器状剥片	まつうら復刊16号
039	諸浦溜南第二	縄文	〃	〃	石匙	まつうら復刊16号
040	諸浦溜第一	旧石器	〃	〃 柳山	刃器状剥片	まつうら復刊16号
041	三枚溜北西	縄文	〃	牟形字宇土	石鏃、フレイク	まつうら復刊16号、9号
042	〃 北	旧石器、縄文	〃	〃 字稗田	ナイフ形石器、トラピゾイド、グレイバー、細石刃、石鏃	まつうら復刊16号
043	〃 西	縄文	〃	〃 字牧の地	剥片	まつうら復刊16号
044	〃 北東	旧石器	〃	轟木字成川原	Uフレ	まつうら復刊16号
045	轟木溜西	〃	〃	牟形字牧地	Uフレ	まつうら復刊16号
046	大島溜北	縄文	〃	田代字平床	石鏃	まつうら復刊16号
047	〃 東	旧石器、縄文	〃	田代字水谷	石核、打面調整剥片、石刃、削器、刃器状剥片、細石刃、石核調整剥片	まつうら復刊16号
048	大島東第一	縄文	〃	牟形字大鳥	剥片	まつうら復刊16号(大島東第一)
049	〃 第四	〃	〃	〃	揉切器、石鏃	まつうら復刊16号
050	〃 第三	旧石器	〃	〃	石核、彫器、削器、石刃、刃器状剥片、細石刃、Uフレ	まつうら復刊16号(大島東第一)
051	〃 第二	縄文	〃	〃	石鏃、剥片鏃	まつうら復刊16号(大島第二)
052	野高山西	旧石器	〃	〃	ナイフ形石器、石刃、刃器状剥片	まつうら復刊16号
053	野高山西(第一)	〃	〃	〃	打面調整剥片、刃器状剥片	まつうら復刊16号、(第一遺跡)
054	湯野尾下溜第三	縄文	〃	湯野尾字山口	石核	まつうら復刊16号
055	湯野尾下溜第二	〃	〃	〃	揉切器	まつうら復刊16号
056	〃 第一	旧石器	〃	〃	刃器状剥片	まつうら復刊16号
057	敷田	旧石器、縄文	遺物包含地	普恩寺字上の口1154	ナイフ形石器、台形様石器、サイドスクレーパー、石鏃	佐賀県の遺跡
058	牟田	旧石器、縄文	〃	小加倉字牟田	ナイフ形石器、石鏃、土器片	佐賀県の遺跡
059	白畑西	旧石器	遺物散布地	有浦上三石	ナイフブレイド、トラピーズ、ブレイド	佐賀県の遺跡

肥　前　町

地図番号	遺跡名	時代	種別	所在地	出土遺物	備考
001	納所小北部	旧石器、縄文	遺物散布地	大字納所字西辻	Uフレ、石核、石核調整剥片、刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊15号、第Ⅳ、Ⅴ遺跡
002	納所小北部遺跡群	旧石器	〃	〃　字晴気	Uフレ	まつうら復刊15号、第Ⅰ遺跡
003	納所小北部	旧石器、縄文	〃	〃　字杉山	台形石器、Uフレ、刃器状剥片、石鏃、掻切器	まつうら復刊15号、第Ⅲ遺跡
004	納所小北部遺跡群	旧石器	〃	〃　字晴気	台形石器、Uフレ、細石刃	まつうら復刊15号、第Ⅰ遺跡
005	〃	〃	〃	〃	ナイフ形石器、削器	まつうら復刊15号、第Ⅰ遺跡
006	納所小北部	旧石器、縄文	〃	〃　字杉山	台形石器、円盤形石器、削器、Uフレ、細石刃、石鏃	まつうら復刊15号、第Ⅰ、Ⅱ遺跡
007	長田瀬西遺跡群	縄文	〃	〃　字長田	フレイク	まつうら復刊15号
008	〃	〃		〃	石鏃、刃器状剥片、Uフレ	まつうら復刊15号
009	納所字荒崎	旧石器、縄文	包含地墓地	〃　字荒崎	剥片、ナイフ形石器	
010	納所小西遺跡群	旧石器	遺物散布地	〃　字松の木	Uフレ、台形石器、ナイフ形石器	まつうら復刊15号
011	〃	〃	〃	〃　字芝生	Uフレ	まつうら復刊15号
012	〃	縄文	〃	〃	剥片	まつうら復刊15号
013	長田瀬周辺遺跡群	旧石器	〃	〃　字長田	Uフレ、刃器状剥片	まつうら復刊15号
014	納所小西遺跡群	縄文	〃	〃　字曲辻	石鏃	まつうら復刊15号
015	長田瀬周辺遺跡群	旧石器、縄文	〃	〃　字神田代	台形石器、石核、円盤形石器、Uフレ、刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊15号
016	納所小西遺跡群	旧石器	〃	〃　字曲辻	刃器状剥片、ナイフ形石器、台形石器、Uフレ	まつうら復刊15号
017	龍田	旧石器、縄文	遺物包含地	〃　字竜田	ナイフ形石器、石鏃	佐賀県の遺跡
018	納所小東遺跡群	縄文	遺物散布地	〃　字山口	フレイク	まつうら復刊15号、第Ⅳ遺跡
019	〃	〃	〃	〃　字山口	フレイク	まつうら復刊15号、第Ⅰ、Ⅱ遺跡
020	西七津江	旧石器、縄文	〃	〃　字西七津江	ナイフ形石器、フレイク、石鏃	県教委
021	山中	旧石器	遺物包含地	〃　字山中	ナイフ形石器	〃
022	鶴牧北部第Ⅵ	旧石器、縄文	遺物散布地	鶴牧字七ツ江	ナイフ形石器、Uフレ、石鏃、刃器状剥片	まつうら復刊15号 七津江先土器遺跡、佐賀県の遺跡
023	〃	〃	〃	〃　字山頭	彫器、円盤形石器、台形石器、Uフレ、石鏃、細石刃	まつうら復刊15号、第Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ遺跡
024	〃　第Ⅲ	〃	〃	〃	台形石器、石核、削器、Uフレ、円盤形石器、石鏃、刃器状剥片	まつうら復刊15号
025	〃　第Ⅰ、Ⅱ	〃	〃	〃　字吹上	ナイフ形石器、Uフレ、細石刃、刃器状剥片	まつうら復刊15号
026	山の上南	縄文	遺物包含地	入野字山の上	石鏃、剥片	
027	山の上	〃	遺物散布地	〃	ナイフ形石器、台形様石器、石核、石鏃	
028	田の平	旧石器、縄文、古墳	遺物包含層	〃　字田の平	ナイフ形石器、石鏃、土師器	県教委
029	日南田代松の木	旧石器、縄文、弥生	包含地、墓地	納所字松の木	石鏃	佐賀県の遺跡
030	深田	縄文	遺物包含地	入野乙字深田	石鏃	佐賀県の遺跡

031	押　　川	旧石器、縄文、弥生	包含地、墓地	納所字押川	ナイフ形石器、石鏃、石斧、磨石、石皿、弥生前期甕棺、甕	佐賀県の遺跡、県教委
032	鶴牧西	縄　　文	遺物散布地	鶴牧字二反田	石核、細石核、ナイフ形石器、台形様石器、石鏃、スクレイパー	
033	鶴　　牧	〃	〃	〃	石鏃、剥片	県教委
034	鍋　　釜	〃	〃	入野字コッポ藪	石鏃、スクレイパー	
035	鶴牧南部第III	旧石器、縄文	遺物散布地	大字鶴牧字井ノ頭	Uフレ、刃器状剥片、円盤形石器、石鏃、石核	まつうら復刊15号
036	〃　第II	縄　　文	〃	〃	剥片	まつうら復刊15号
037	コ　ッ　ポ	旧石器、縄文	遺物包含地	入野字コッポ藪	ナイフ形石器、押型紋土器、縄文晩期土器、石鏃、石斧、スクレイパー	県教委
038	鶴牧南部第I	旧　石　器	遺物散布地	鶴牧字井ノ頭	円盤形石器、	まつうら復刊15号
039	馬場の辻	縄　　文	〃	星賀字馬場辻	石鏃、掻器	まつうら復刊15号、唐津市史
040	権現山南	〃	〃	〃 字岩野	Uフレ	まつうら復刊15号
041	〃	〃	〃	〃	フレイク	まつうら復刊15号
042	丹　　土	旧石器、縄文	遺物包含地	入野字ニツチ	ナイフ形石器、彫器、石刃、縄文晩期土器、石鏃、スクレイパー、剥片	県教委、唐津市史
043	於呂溜北部第II	縄　　文	遺物散布地	〃 字西ノ川	Uフレ	まつうら復刊15号
044	伊仲遺跡群	旧　石　器	〃	星賀字後山	石核、削器	まつうら復刊15号、第I、II遺跡
045	入野東部	旧石器、縄文	〃	入野コッポ藪	刃器状剥片、Uフレ、石核、調整剥片、台形石器、細石刃、石核、石鏃	まつうら復刊15号
046	於呂溜北部第I	〃	〃	〃 字西ノ川	ナイフ形石器、Uフレ、刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊15号
047	犬頭北部第I	旧　石　器	〃	〃 字中江	彫器	まつうら復刊15号
048	犬頭北部第II	旧石器、縄文	〃	星賀字空田代	削器、石鏃	まつうら復刊15号
049	尾　　山	旧石器、縄文	遺物包含地	入野字尾山	ナイフ形石器、石刃	県教委
050	入野小西第II	〃	遺物散布地	〃 字宮久保	彫器、刃器状剥片、石刃、台形石器、ナイフ形石器、石鏃	まつうら復刊15号
051	犬頭溜北西部周辺	旧　石　器	〃	星賀字大野	円盤形石器、ナイフ形石器、削器、Uフレ、刃器状剥片	まつうら復刊15号、第II遺跡
052	〃	縄　　文	〃	〃	フレイク	まつうら復刊15号、第III遺跡
053	〃	旧石器、縄文	〃	入野字新田辻	Uフレ、台形石器、細石刃、石核、石鏃	まつうら復刊15号、第I、II遺跡
054	入野小西第I	〃	〃	入野字宮久保	Uフレ、削器、刃器状剥片、ナイフ形石器、石核、石鏃	まつうら復刊15号
055	楠　　谷	旧　石　器	〃	切木字楠谷	細石刃、細石核	小野博氏、唐津市史
056	犬頭溜東部	旧石器、縄文	〃	入野字新田辻	刃器状剥片、Uフレ、石鏃	まつうら復刊15号、第I～IV遺跡
057	入野小南	縄　　文	〃	〃 字逢坂	刃器状剥片	まつうら復刊15号
058	音の元古墳	古　　墳	墳　　墓	〃 字音の元		県教委
059	加　　藤	縄　　文	遺物散布地	切木字加藤	石鏃、剥片	
060	磯　　道	旧　石　器 縄文中期	遺物包含地	入野字磯道	ナイフ形石器、台形石器、細石刃、彫器、細石核、石核、阿高式土器、石鏃、スクレイパー、尖頭器	県教委
061	田　　尾	旧石器、縄文	〃	〃 字田尾	ナイフ形石器、スクレイパー、石斧、石匙、剥片、石鏃	〃

062	古保志気西第Ⅰ	旧石器、縄文	遺物散布地	新木場字古保志気	台形石器、細石核、調整剥片、石鏃	まつうら復刊15号
063	名目草	古墳	〃	〃 字鎌田	須恵器	まつうら復刊15号
064	古保志気西第Ⅱ	縄文	〃	〃 字古保志気	フレイク	まつうら復刊15号
065	反田溜	〃	〃	〃 字太五郎谷	フレイク	まつうら復刊15号
066	古保志気西第Ⅲ	旧石器、縄文	〃	〃 字古保志気	円盤形石器、Uフレ、細石核調整剥片、刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊15号
067	日焼原	縄文	〃	田野字日焼原	石鏃、石匙、スクレイパー	
068	仁田野尾5	旧石器、縄文	〃	仁田野尾字影	ナイフ形石器、石鏃、石匙	小野博氏、瀬戸俊春氏
069	古田溜	縄文	〃	大字新木場字放四郎川	剥片	まつうら復刊15号
070	仁田野尾2	〃	〃	仁田野尾字影	押型文土器、スポール	小野博氏、瀬戸俊春氏
071	塔木池西	旧石器、縄文	〃	新木場字山頭	ナイフ形石器、細石核、細石刃、台形石器、石鏃	まつうら復刊15号、第Ⅰ遺跡
072	仁田野尾3	旧石器	〃	仁田野尾字影	円盤形石器、ナイフ形石器	まつうら復刊15号
073	塔木池西	縄文	〃	新木場塔ノ木	フレイク	まつうら復刊15号、第Ⅱ遺跡
074	サカセ溜1	旧石器、縄文	〃	万賀里川字平石	細石刃、細石核、石鏃	瀬戸俊春氏、小野博氏、県教委
075	仁田野尾1	縄文	〃	仁田野尾字影	石鏃、縄文系土器片、弥生中期土器片	小野博氏、瀬戸俊春氏
076	塔木池東方	〃	〃	新木場塔の木	刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊15号
077	仁田野尾6	〃	〃	仁田野尾字影	石鏃	
078	〃 4	〃	〃	〃	石鏃、スクレイパー、石匙	小野博氏、瀬戸俊春氏
079	八折栄	旧石器、縄文	〃	万賀里川字八折	刃器状剥片、Uフレ、台形石器、細石核、石鏃	まつうら復刊15号、瀬戸俊春氏
080	サカセ溜3	縄文	〃	〃 字上ノ川	石鏃	瀬戸俊春氏、小野博氏、県教委
081	小萬 2	〃	〃	新木場字小萬	石刃、石鏃	瀬戸俊春氏
082	サカセ溜2	〃	〃	万賀里川字平石	石鏃	瀬戸俊春氏、小野博氏、県教委
083	小萬 1	旧石器、縄文	〃	新木場字小萬	ナイフ形石器、台形石器、台形様石器、細石刃、削器、スクレイパー、半磨製鏃、石鏃	瀬戸俊春氏
084	サカセ溜4	〃	〃	万賀里川字上ノ川	細石刃、細石核、台形様石器、石鏃	瀬戸俊春氏、小野博氏、県教委
085	上倉溜周辺	旧石器	〃	新木場字萬田代	細石刃、ナイフ形石器、石刃	小野博氏、県教委
086	八斗蒔 1	縄文	〃	〃 字八斗蒔	剥片	まつうら復刊15号、第Ⅱ遺跡
087	〃 4	縄文	〃	〃 字川原田	剥片鏃	
088	〃 6	旧石器、縄文	〃	〃 字八斗蒔	石核、石鏃	
089	〃 北	縄文	〃	〃	三角鏃、刃器状剥片、削器、剥片鏃	まつうら復刊15号、第Ⅰ遺跡
090	〃 9	旧石器、縄文	〃	〃	ナイフ形石器、刃器状剥片、石鏃	まつうら復刊15号、第Ⅲ遺跡
091	大浦溜周辺	旧石器、縄文	〃	万賀里川字甚手田	ナイフ形石器、細石刃、石鏃、石核	
092	八斗蒔 5	縄文	〃	新木場字川原田	剥片鏃	
093	小太郎	旧石器	〃	万賀里川字小太郎	ナイフ形石器、台形石器、細石刃	
094	小堤	縄文	〃	新木場字小堤	石鏃、刃器状剥片、Uフレ	まつうら復刊15号、第Ⅳ遺跡

095	八斗蒔溜南部第III	旧石器、縄文	遺物包含地	新木場字川原田	ナイフ形石器、Uフレ、石鏃	まつうら復刊15号
096	生　　石	旧　石　器	〃	大浦字生石	II・III・IV・V層包含層、ナイフ形石器、台形石器、細石刃、石核	県教委
		縄文晩期	遺物散布地		石鏃、剥片	
097	八斗蒔溜南部第II	旧石器、縄文	遺物包含地	新木場字高地木場	円盤形石器、台形石器、彫器、石鏃	
098	〃　第I	〃	遺物散布地	〃	刃器状剥片、Uフレ、削器、細石核調整剥片、台形石器、細石刃、不定形剥片、石鏃、剥片鏃	まつうら復刊15号
099	高地木場1	旧石器、縄文	遺物包含地	〃	ナイフ形石器、石刃、石鏃、石斧、石匙	県教委
100	頭無溜周辺	縄　　文	遺物散布地	瓜ヶ坂字頭無	石匙、スクレイパー、石鏃、剥片鏃	
101	百田岩陰	縄文早、前、中、後、晩期	遺物包含地	〃　字百田	II層磨石、石鏃、III層石皿、後期土器片、IV層石匙、石鏃、前期土器、VII層早期土器片	小野博氏、県立博物館
102	玄蕃ヶ岩洞穴	縄　　文	遺物散布地	〃	剥片、削片	小野博氏
103	中浦南	縄　　文	〃	杉野浦字上場	石鏃、剥片	
104	河　　原	〃	〃	〃　河原	〃	
105	深田古墳	古　　墳	墳　　墓	入野字宮久保		佐賀県の遺跡
106	向江山古墳	〃	〃	星賀字向山	須恵器、耳環	肥前町「ふるさとの歴史」
107	八斗蒔2	縄　　文	遺物散布地	新木場字八斗蒔	Uフレ、石鏃	
108	〃　3	旧石器、縄文	〃	〃	ナイフ形石器、細石刃、スクレイパー、石核、Uフレ、石鏃	
109	川　原　田	〃	遺物包含地	〃川原田	ナイフ形石器、細石刃、細石核、剥片尖頭器、石鏃	県教委

北波多村

地図番号	遺跡名	時代	種別	所在地	出土遺物	備考
001	下千田	旧石器	遺物散布地	下平野字下千田	石匙、ナイフ形石器、キールドスクレイパー	県遺跡台帳、唐津市史
002	蔵　谷	縄　　文	〃	〃　字蔵谷	石鏃	県遺跡台帳
003	前　田	〃	〃	〃　字前田	石鏃、石匙、原石	県遺跡台帳

1．発掘調査の経過

上場地区では、国営上場農業水利事業と県営畑地帯土地改良事業に伴う、農地造成、農地区画整理、農道・水路敷設、ダム工事等が昭和48年より着工されてきている。県教育庁文化課、当該市町村教育委員会では、この工事に先立って、埋蔵文化財保護の見地から事業区内の埋蔵文化財調査を行なってきた。

(1) 発掘調査団

担　当	佐賀県教育委員会		
事務局	佐賀県教育庁文化課		
調査主任	木下　巧	県教育庁文化課文化財調査第二係長	
調査員	堀川義英	県教育庁文化課文化財調査第二係	
	天本洋一	〃	
	森田孝志	〃	嘱託（昭和55年度上場担当）
	西田和巳	〃	〃（昭和54年度）
	川崎吉剛	〃	〃（昭和54年度）
調査補助	田島龍太	〃	補助員（昭和53・54年度）
調査準補助	山上　龍	〃	準補助員（昭和52年度）
	寺田和正	〃	〃（昭和55年度）

協　力　山崎猛夫氏、富桝憲次氏、河児哲司氏、坂本司氏、小野博氏、瀬戸俊春氏、九州農政局上場水利事業所、唐津農林事務所上場開発室、唐津・肥前・鎮西・玄海・呼子・北波多各市町村教育委員会並びに開発課、唐津東高郷土研究部及びＯＢ会。

(2) 発掘調査の経過

県教育庁文化課調査第二係は農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財調査を担当し、国営、県営による上場開発事業に伴う文化財調査を昭和52年より実施してきた。開発事業施行計画書に基づいて、踏査、確認調査、本調査で対処してきている。本調査を実施した肥前町「生石遺跡」（昭和52年度）、唐津市（牟田辻遺跡」、鎮西町「中野遺跡」（昭和53年度）の文化財調査報告書は刊行してきたが、ここでは今までに報告書として発表できなかった分をまとめてみた。

2．上場台地の位置と環境

佐賀県の西北部に、掌を開いたように玄海灘に突き出しているのが東松浦半島、通称「上場台地」である。この半島から壱岐、対馬を経て朝鮮半島、大陸につながるルートは最も近距離であり、古くから日本列島の西玄関口であったと推察される。

上場台地を地質的にみると、玄武岩が広く面状に噴出して、第三紀層を覆った平坦な台地であり、この玄武岩山地が浸蝕をうけて細長い谷ができた頃、地盤が沈降して、現在みられるような複雑な海岸線があらわれたとされている。つまり湾入部が古い谷で、岬や島はその峰にあたっていた場所であるといえる。上場台地上の高い地点は、石高山の262mを最高に、野高山の260m、熊の峯228mなどがあげられるが、約200mラインの広い準平原状の高原が波状的に広がっている卓状台地といえる。

この上場台地上全面にわたって遺跡が存在するが、旧石器時代、縄文時代の遺跡が殆どであり、半島周縁部には弥生時代、古墳時代の遺跡もみられる。遺物散布地まで含めるとその数は1,000個所にものぼるものと推定される。

3．上場の遺跡調査

遺跡、遺物散布量とも豊富な上場地区において、富桝憲次、河児哲司、山崎猛夫、志佐惲彦、原口泱泰、松尾吉高、田島龍太、山上龍、奈良崎和典、瀬戸俊春、坂本司、小野博、中里紀元、吉田勝彦、竹内宏、唐津東・西高郷土研究部、市郡小中学校の郷土クラブ各氏によって20数年来、踏査、発掘調査が行われてきた。また、地元部落の愛好家によって表採遺物が所蔵されている例も多い。しかし、残念ながら相当多くの遺物が持ち去られているのも確かである。

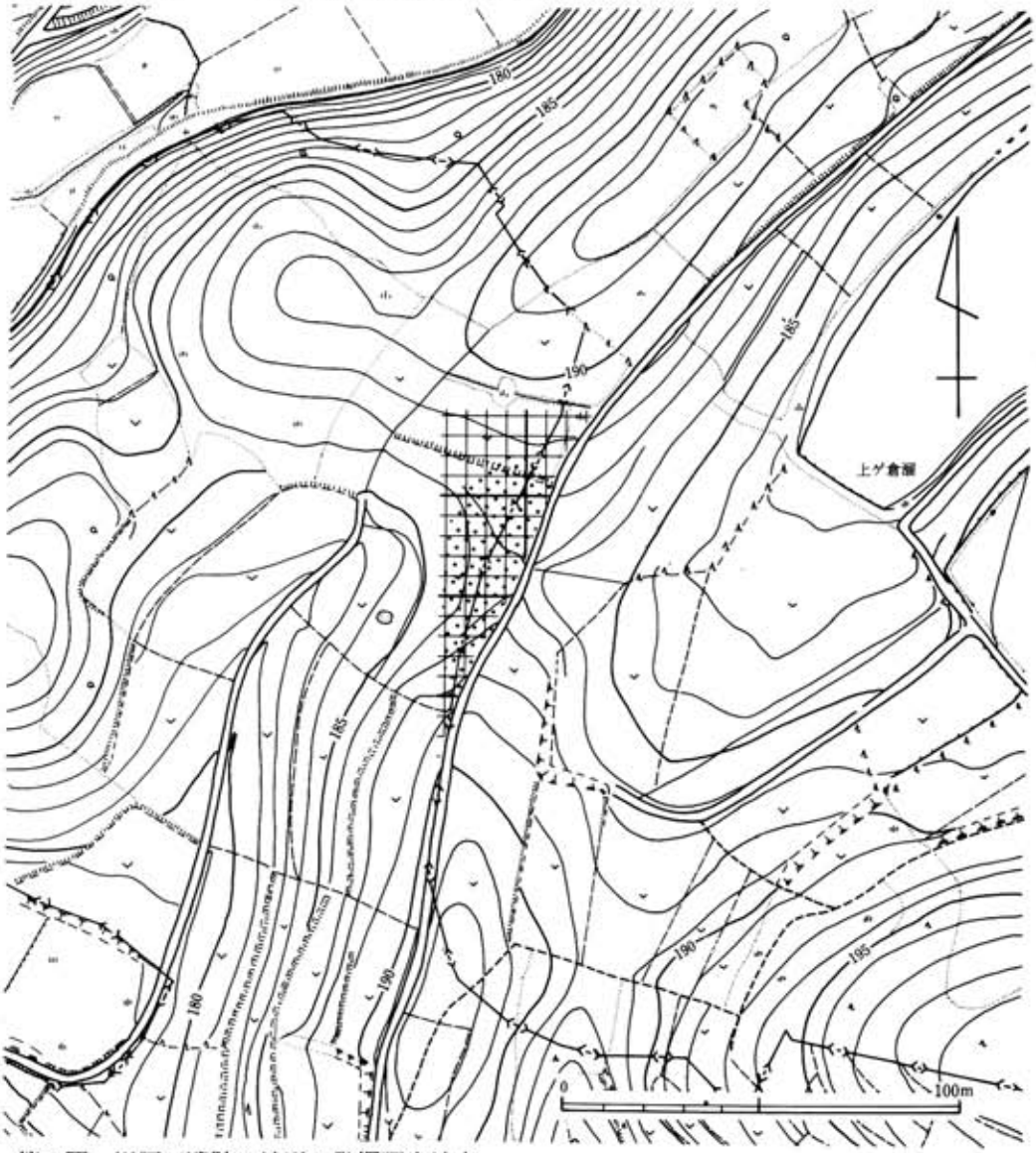
近年の諸開発で、従来の自然、地形が大きく変貌し、遺跡の立地条件もとらえにくくなってきている。これらの開発に対処していく上でも、早急に上場全体の遺跡について集約せねばならない。ここでその概要を記しておきたい。

八斗蒔遺跡群

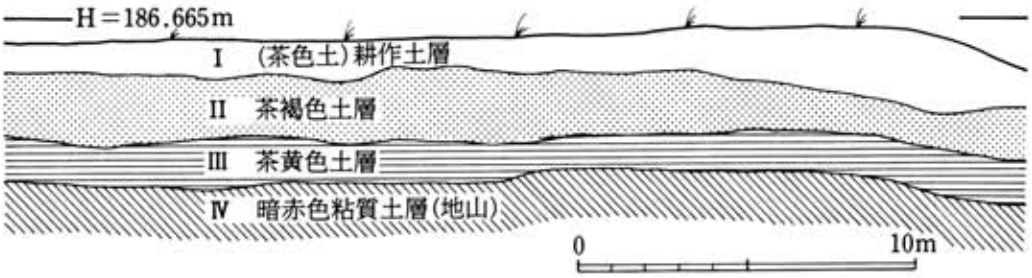
1　川原田遺跡

所　在　地　　東松浦郡肥前町大字新木場字川原田1688の17番地、字万田代1690の1番地

確認調査年月日　　昭和54年7月9日～7月19日



第2図　川原田遺跡の地形と発掘調査地点

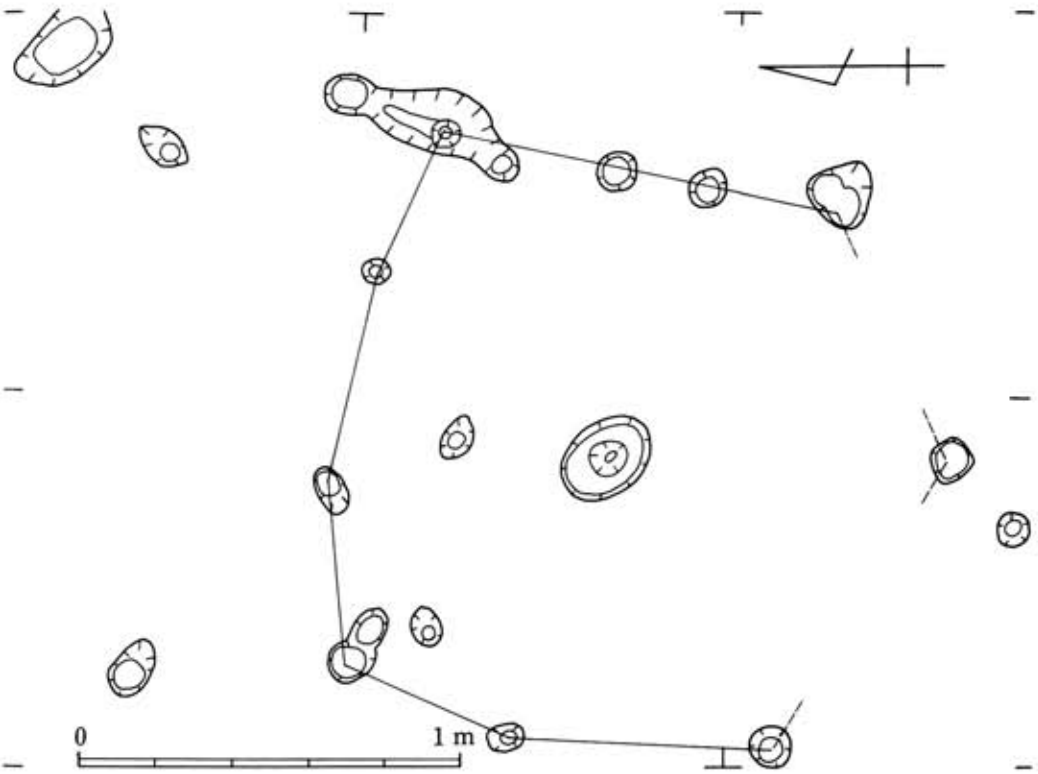


第３図　川原田遺跡　４Ｃ北壁の土層断面図

八斗蒔遺跡群は上場台地の西南端に位置する。標高180～210mの台地上の八斗蒔溜、上ゲ倉溜、大浦溜、仁田野尾大溜の周辺に旧石器時代から縄文時代の遺跡が集中している。

川原田遺跡は、坂本司、小野博、瀬戸俊春各氏らの踏査により、剝片尖頭器、厚手の縦長剝片が出土する遺跡として、従来から注目されてきた遺跡である。

昭和54年施行の県営畑総事業「八斗蒔換地区」の工事に先行して、昭和54年４月６日～７日に踏査を実施し７地点の遺物散布密集地を確認した。その第７地点が川原田遺跡である。遺跡は上倉溜南西部、低丘陵鞍部の南向きの緩斜地に広がり、範囲は約100m²と推定される。



第４図　川原田遺跡　Ⅱ区ＳＫ01建物跡

(%)

器種 / 層序	ナイフ形石器	剝片尖頭器	台形石器	Mブレイド	ブレイド	石核	細石核	フレイク他	計
II層上層	2 (0.7)	3 (1.0)	0 (0.0)	18 (6.0)	12 (4.0)	7 (2.3)	1 (0.3)	256 (85.7)	299 (100)
下層	3 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (4.6)	2 (1.2)	2 (1.2)	1 (0.6)	157 (90.7)	176 (100)
III層上層	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (94.4)	18 (100)
下層	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
表土層	3	1	0	4	11	4	0	−	−

第2表　川原田遺跡　層位別出土遺物組成表

1．川原田遺跡の土層と出土遺物

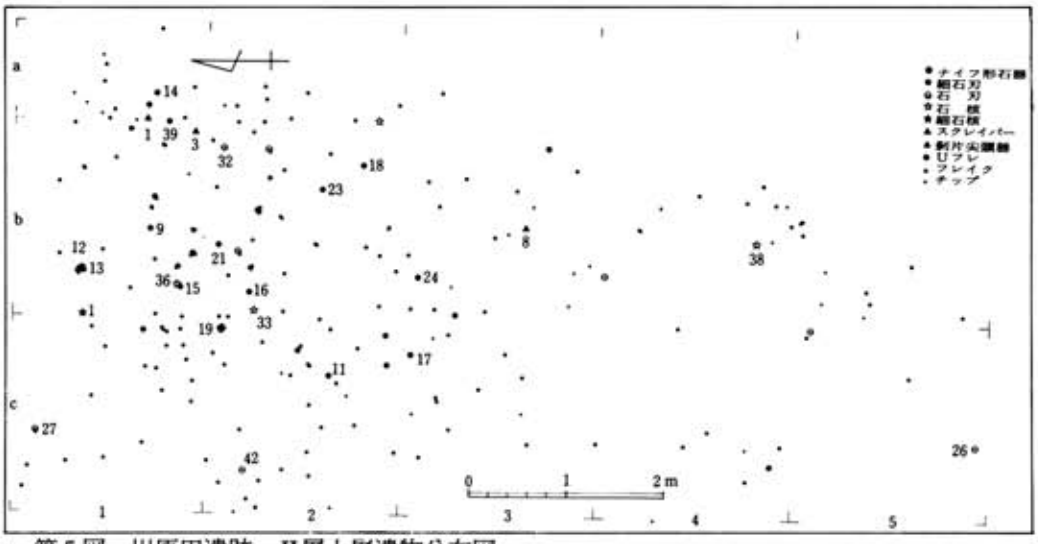
確認調査で検出した7区の土層は第3図の通りである。第II層（30〜40cm）の茶褐色土層と第III層（20〜25cm）の茶黄色土層が旧石器時代の遺物包含層である。層位毎の出土遺物は第2表に示したが、II層上層からの出土が多く、III層上層からも検出されたが、III層下層からは全く検出されなかった。

2．遺　構

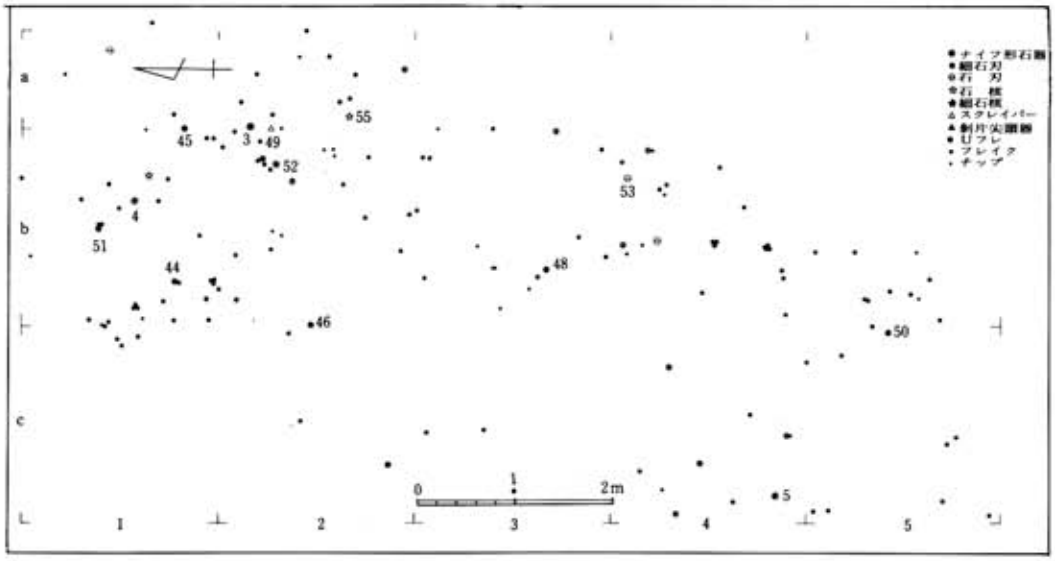
4D区を中心として第4図のような柱穴群がII層上層で検出された。土壙の覆土からの出土遺物はなく時期不明であるが、周辺の遺物から見て縄文時代の建物跡と推察される。

3．出土遺物

旧石器時代　〔第7図〕（II層上層）　ナイフ形石器1、黒曜石製薄手縦長剝片を素材にしている。刃部を明確には作出していない。2両端部が切断されている。左縁基端部にのみブラン

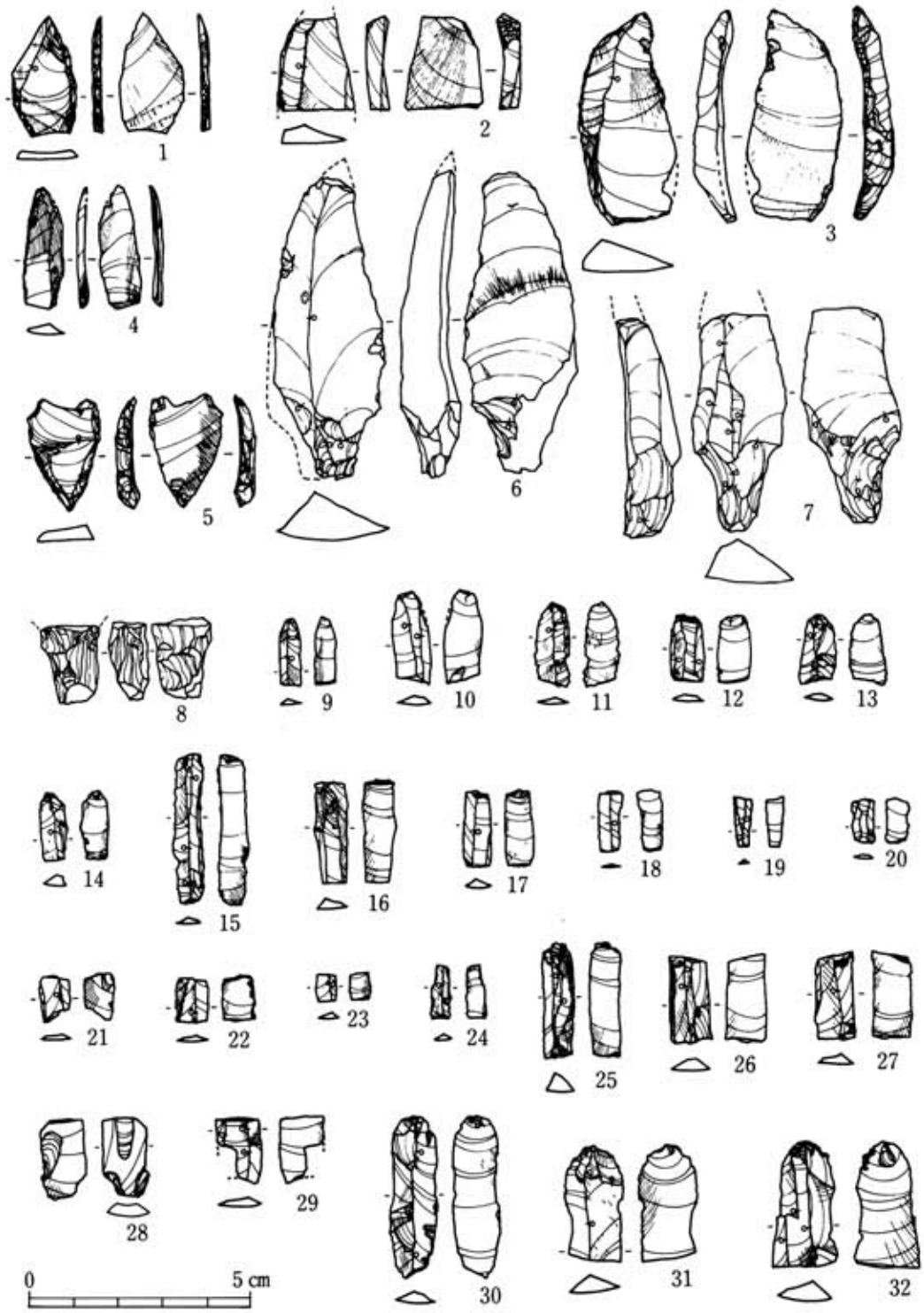


第5図　川原田遺跡　II層上層遺物分布図

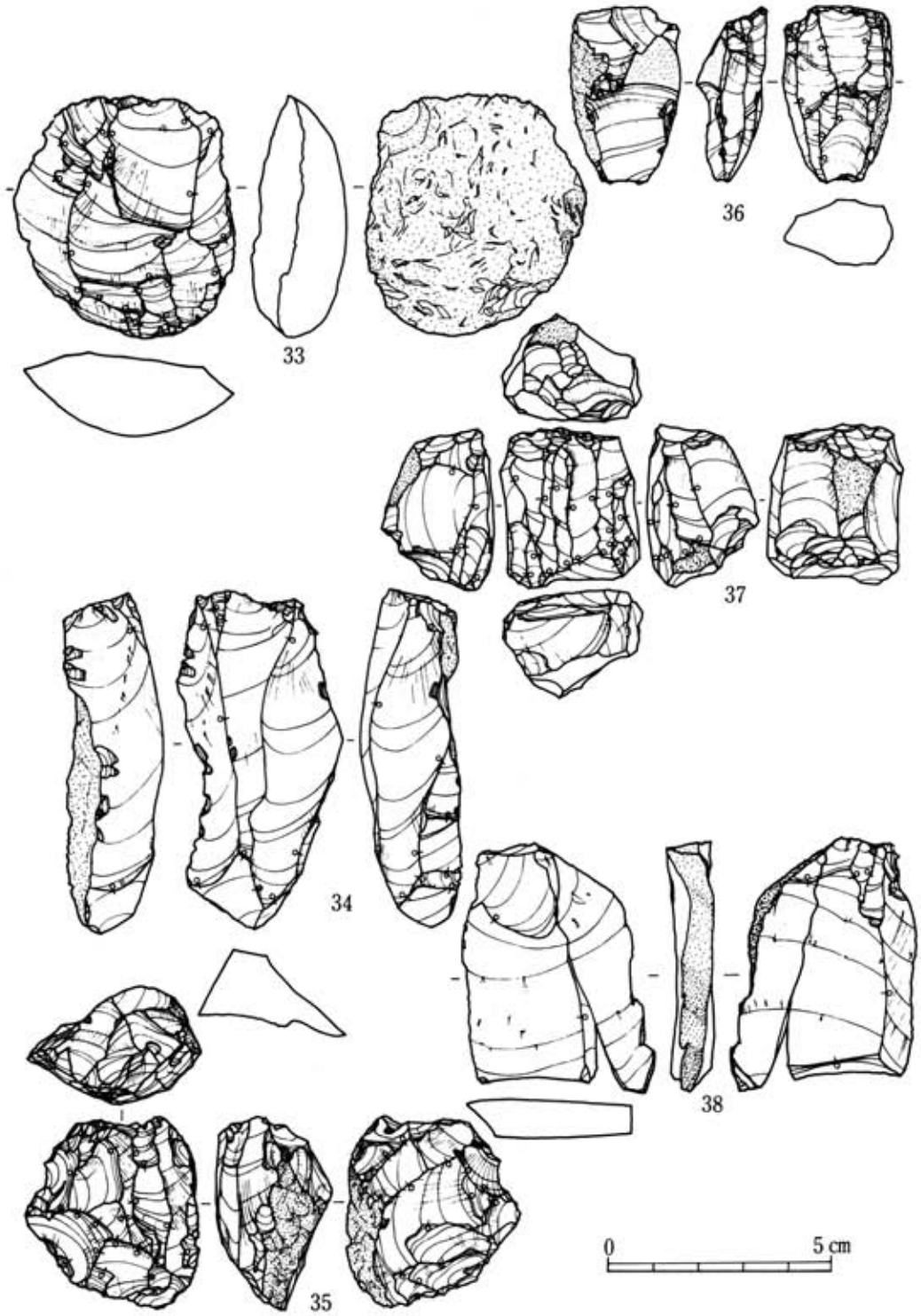


第６図　川原田遺跡　II層下層遺物分布図

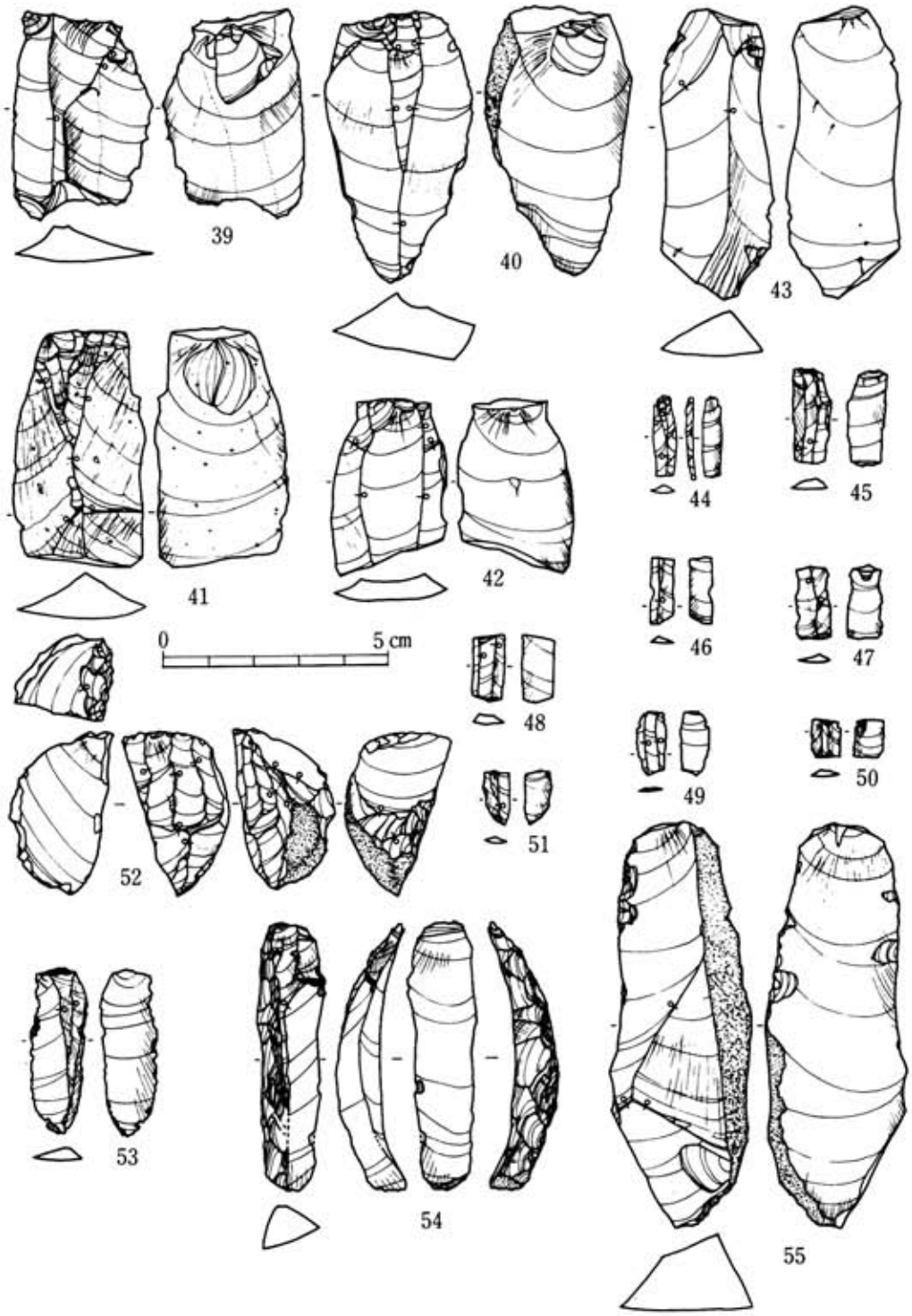
ティング加工が残る。６～８は剥片尖頭器と呼ばれるナイフ形石器である。６は東浜系の黒曜石製の縦長厚手剥片を素材にしている。基部左右側辺に加工を施している。尖端部にキズ痕と思われる小剥離痕が残る。両側縁に横位からの使用剥離痕がみられる。７も同石質の厚手細身の剥片を素材にして基部両辺を深く加工し、打瘤除去も施している。先端部が折断されている。右辺に使用痕がある。８も同石質で、基部のみが残存している。９～24はマイクロブレイドで、９～14は頭部、15～24は中間部である。９は現器長で15㎜、器幅５㎜、15は現器長34㎜、器幅７㎜を測る。25はブレイド。26～29はスモールブレイド。30～32はブレイド。33～36は石核。33は黒曜石の円礫を石材にし、打面調整がない。34は角礫の黒曜石を石材にし、打面調整を行い縦長の刃器状剥片を剝ぎ取っている。35、36とも黒曜石の円礫が石材。37は細石核で黒曜石の円礫を用い、剥離面調整をもち両設打面の角柱形を呈す。38～43は刃器状剥片や剥片。38は接合資料。41は安山岩製の刃器状剥片。（II層下層）３～５はいずれも黒曜石製のナイフ形石器。３は左辺基部側に表裏両面より加工を施す。４は細身小型。５は基部が尖る切出形を呈すタイプと思われる。44～51は細石刃、44は末端部を折断している。45～49は中間部、50は末端部である。II層下層からは剥片尖頭器の出土はなかった。52は細石核で主剥離面をもつ厚手の剥片を素材にして、打面調整を施し、単設打面より剥離を行っている。53は石刃で使用痕が確認される。54は打面再生剥片。55は厚手大形剥片で使用痕がみられる。（表土層）〔第８図〕の４は安山岩製の剥片尖頭器である。厚手縦長剥片を素材にし、基部の両辺と左縁に左右対称になるよう調整を施している。打瘤除去を行い主剥離面は平坦に加工している。57～59は細石刃で57は頭部、58、59は中間部である。60は安山岩製のブレイド。61は東浜系黒曜石製のＵフレである。



第７－１図　川原田遺跡　出土遺物実測図



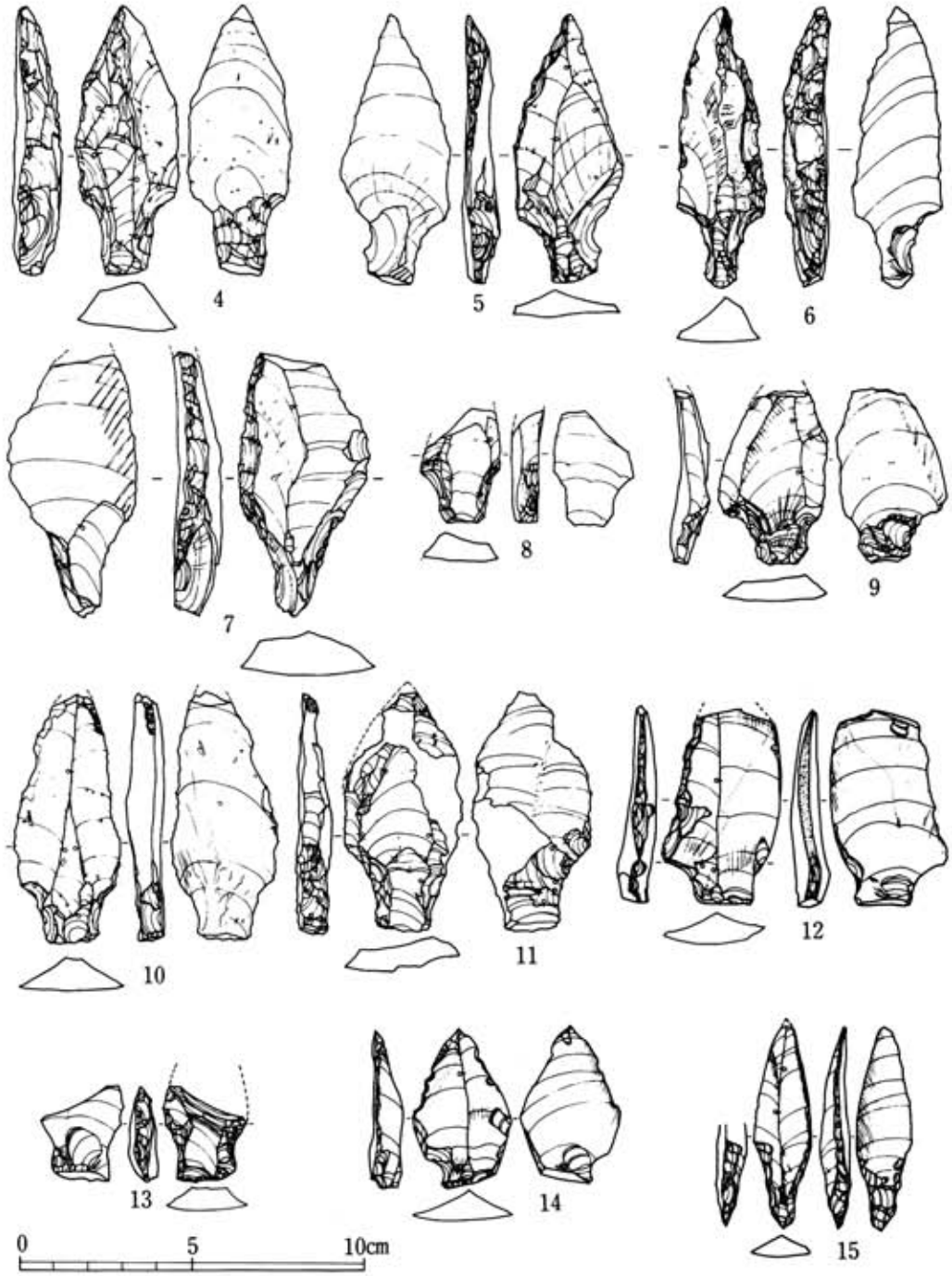
第７－２図　川原田遺跡　出土遺物実測図



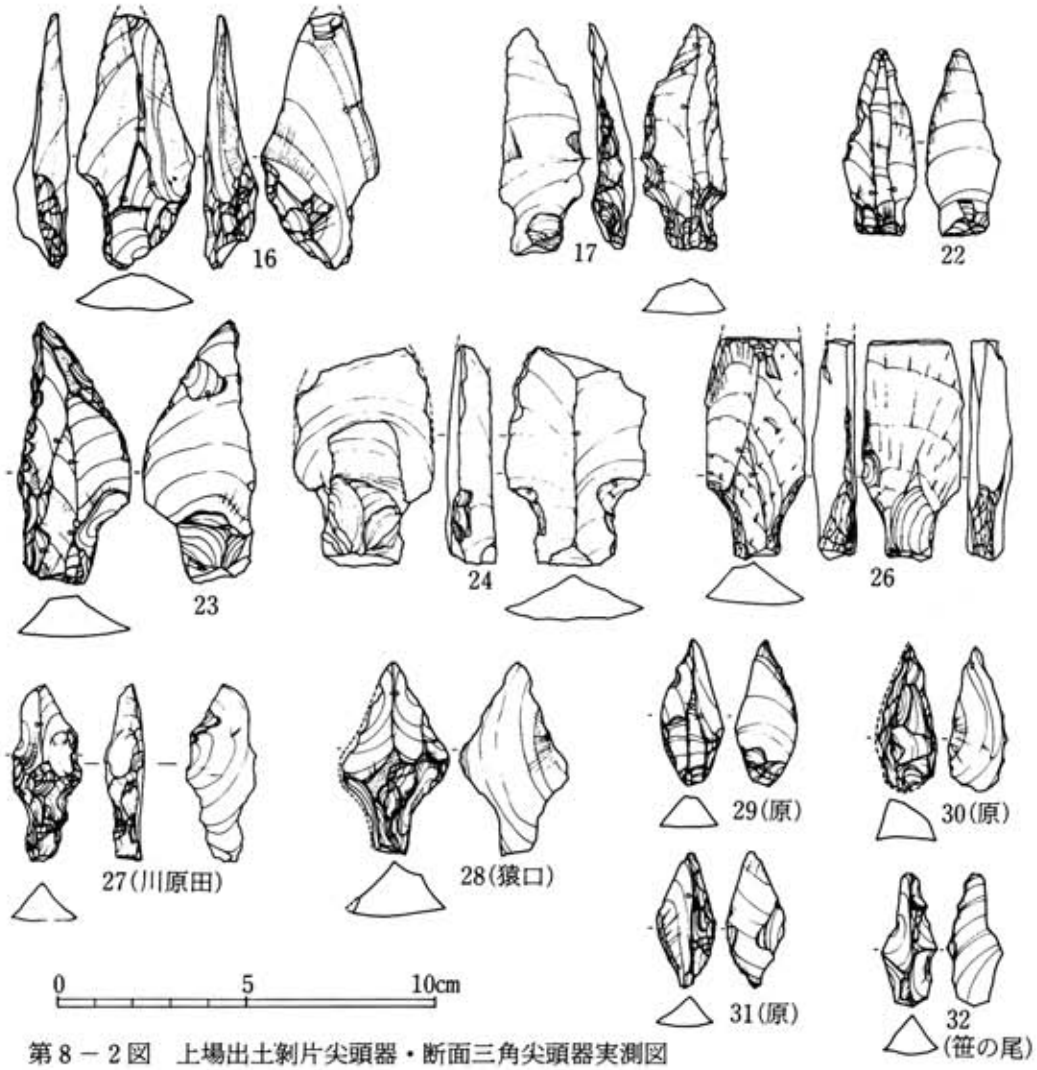
第７－３図　川原田遺跡　出土遺物実測図

第3表　　上場地区出土剝片尖頭器一覧　　（　）のない番号は8図の遺物番号と一致している。

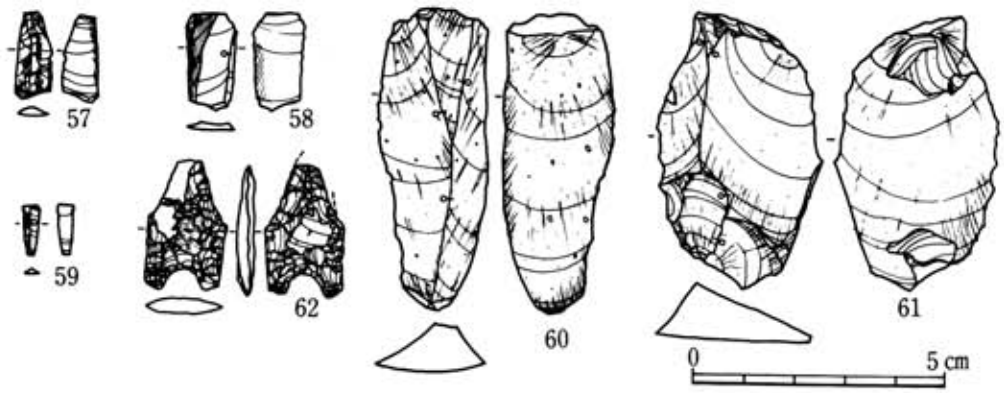
番号	遺跡名	出土層	実測図	石種	加工痕 尖端部	加工痕 側辺	加工痕 基部	計測 最長(cm)	計測 最幅(cm)	計測 重さ(g)	備考	
(1)	八斗蒔川原田	II層上層	第7－1図6	黒曜石	――	右 加工無し 左 使用痕有	右左 加工有	67.80	24.80	14.6	打瘤除去、中央部の稜(一条) 大きく右曲する	県教委調査
(2)	〃	II 層	〃 7	〃	――	右 加工無 左 右辺使用痕	右左 荒い加工無	48.10	20.45	9.3	打瘤除去	〃
(3)	〃	II層上層	〃 8	〃	――	――	右左 加工有	－	－	－		〃
4	〃	I 層	第8－1図	サヌカイト	欠除するが左辺は尖頭近くまで加工有	右 加工無し 左 荒い加工有	右左 荒い加工	76.20	29.65	27.8		〃
5	〃	表採	〃	黒曜石	左のみ加工有	左のみ加工有	右左 加工月	76.55	30.80	7.1	完形薄手	瀬戸俊春氏
6	〃	〃	〃	〃	少々欠	右 加工有 左 両面使用痕顕著	右左 加工有	79.60	25.65	21.5	完形（基部、尖端とも少々欠く） 厚手断面三角	瀬戸俊春氏
7	〃	〃	〃	サヌカイト	――	右 基部側のみ加工？ 左 加工有	右左 加工有	(75.60)	37.90	(34.9)	大形、打瘤除去、茎部細く打面小	〃
8	〃	〃	〃	黒曜石	――	右左 加工無し	右左 加工有	－	22.75	－	二稜線、尖端部欠、打瘤除去	〃
9	〃	〃	〃	〃	――	右左 加工無し	右左 荒い加工有	(49.05)	30.35	(11.5)	稜二本、幅広型	坂本　司氏
10	〃	〃	〃	サヌカイト	――	右左 加工無し	右左 荒い加工有	70.40	29.70	20.0		小野　博氏
11	〃	〃	〃	黒曜石	少々欠 右加工有	右左 加工無し	右左 加工有	(68.35)	33.70	(19.20)	打瘤除去、薄手幅広、稜線二本	〃
12	生石	IV 層	〃	〃	――	右 自然面のまま 左 表面に加工	右 主剝離面に加工 左 表面にも加工	(55.50)	32.45	(14.7)		県教委調査
13	〃	III 層	〃	〃	――	―― 右左 基部側加工無し	右左面とも表面に加工	(26.95)	(29.30)	(4.3)		〃
14	〃	II 層	〃	〃	右 主剝面に加工痕 左 表面に加工痕	右左 使用痕のみ	右 自然面 左 表面に加工	44.85	28.05	7.6	完形	〃
15	磯道	II 層	〃	〃	少々欠	右 浅いblunting 左 加工無し	右左 blunting加工	57.95	16.35	5.4	ほぼ完形、打瘤除去	肥前町調査
16	〃	III 層	第8－2図	〃	未調整	右左 加工無し	右 表面よりblunting 左 裏面よりblunting	(67.05)	31.40	(16.6)	横広剝片、未製、打瘤残	〃
17	原	表採	〃	〃	左右とも加工無 右 使用痕有	右 使用痕有 左 加工痕有	右左 加工有	60.10	22.35	11.2	完形、二稜線、やや厚手	瀬戸俊春氏
(18)	〃	B 区 ローム I	考古学集刊 4－4（P10）	〃	――	右左 加工無し	右左 加工有	(22)	13		特殊加工、ナイフb	明治大学調査
(19)	〃	B 区 ローム II	〃（〃）	〃	――	右 ―― 左 加工無	右 加工無 左 加工有	(17)	(17)		〃　ナイフb	〃
(20)	〃	表採	〃（P25）	〃	右左加工無	右左 加工無し	右左 加工有				完形	富樹憲次氏
(21)	〃	〃	〃（〃）	〃	――	右 加工無し 左 加工有(全？)	右左 加工有	－				〃
22	猿口	〃	第8－2図	〃	少々欠	右 ）加工無し 左 ）使用痕全線に有	右左 細かいリタッチ	49.20	19.15	5.70		瀬戸俊春氏
23	牟田辻	III層上層	〃	〃	左に大きく反る先端まで加工	右 軽いリタッチ 左 入念な加工	右左 加工有	69.95	29.60	18.7		県教委調査
24	東山	表採	〃	サヌカイト	――	右左 加工無し	右左 荒い加工有	(57.80)	37.00	(24.3)		瀬戸俊春氏
(25)	畦木場	〃	第65-1図3	黒曜石	少々欠 加工有	右 加工有 左 不明	右左 入念な加工	(50.15)	28.65	(11.9)	打瘤除去	原口決泰氏
26	押川	弥生前期 墓壙	第8－2図	サヌカイト	上半部欠除	左右とも加工痕なし 右辺裏面に使用痕有	右左 入念な加工	(58.15)	27.35	(18.0)	厚手の縦長剝片を素材	県教委調査



第８－１図　上場出土剝片尖頭器断面三角尖頭器実測図



第８－２図　上場出土剝片尖頭器・断面三角尖頭器実測図



第７－４図　川原田遺跡　出土遺物実測図

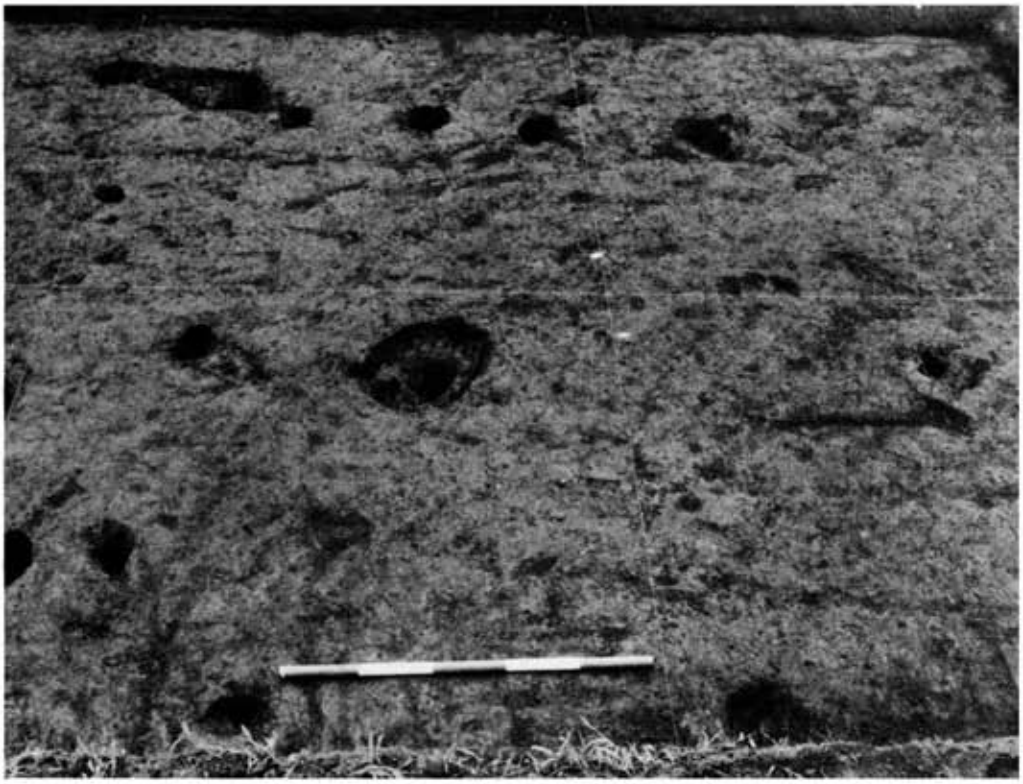
縄文時代　石鏃62は表土層出土の駒形鏃である。

4．上場出土の剝片尖頭器〔第８図〕　ナイフ形石器Ｆ類に分類されている器種で、剝片尖頭器とよばれていたものである。上場でも中部・南部から26点の剝片尖頭器が出土している。（第３表）中でも川原田遺跡からは11点と群を抜いて多く、また、その素材である厚手の縦長剝片も多く出土している。黒曜石製が多いがサヌカイト製も５点あり、磯道遺跡では横広剝片を素材にした未製器がIII層より出土している。

清水宗昭氏の基本形式で分類すると、Ｉ型（萩原博文氏のナイフ形石器Ｆ４類）は第７図の６と第65図の３の２点だけである。尖端部が欠失しているためＩ類かII類かが不明のものは、第７図の７、第８図の８、９、24、26がある。II型（萩原氏のＦ２類）に第８図の４、５、10、11がある。III型に第８図の６、７、12、14、15がはいる。

27～32は断面三角形の尖頭器である。主剝離面調整の例は少なく、素材に横広剝片を用いている資料が殆どである。

第９図　川原田遺跡　確認調査風景



第10図　川原田遺跡　II区柱穴群

第11図　川原田遺跡　a区II上層遺物出土状況

1　細石核　　2　剝片尖頭器　　3　細石核

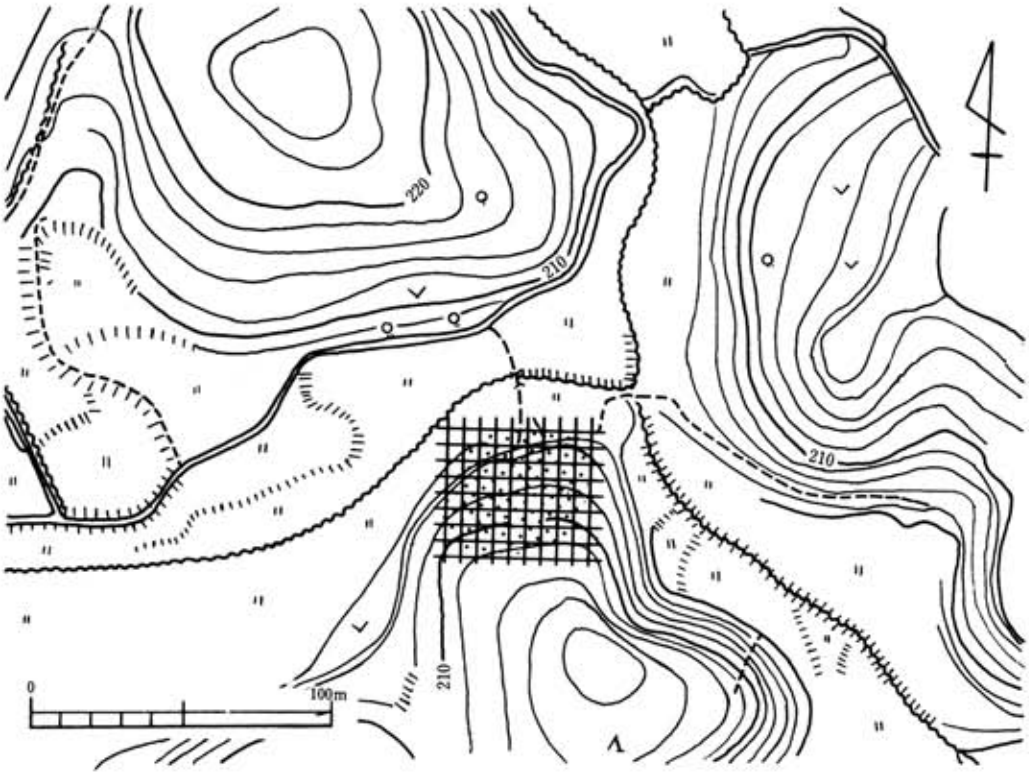
4　石刃　　5　剝片尖頭器・石刃

第12図　川原田遺跡　石器出土状況

2. 荒　谷　遺　跡

所　在　地　　唐津市菅牟田字荒谷488の第１番地

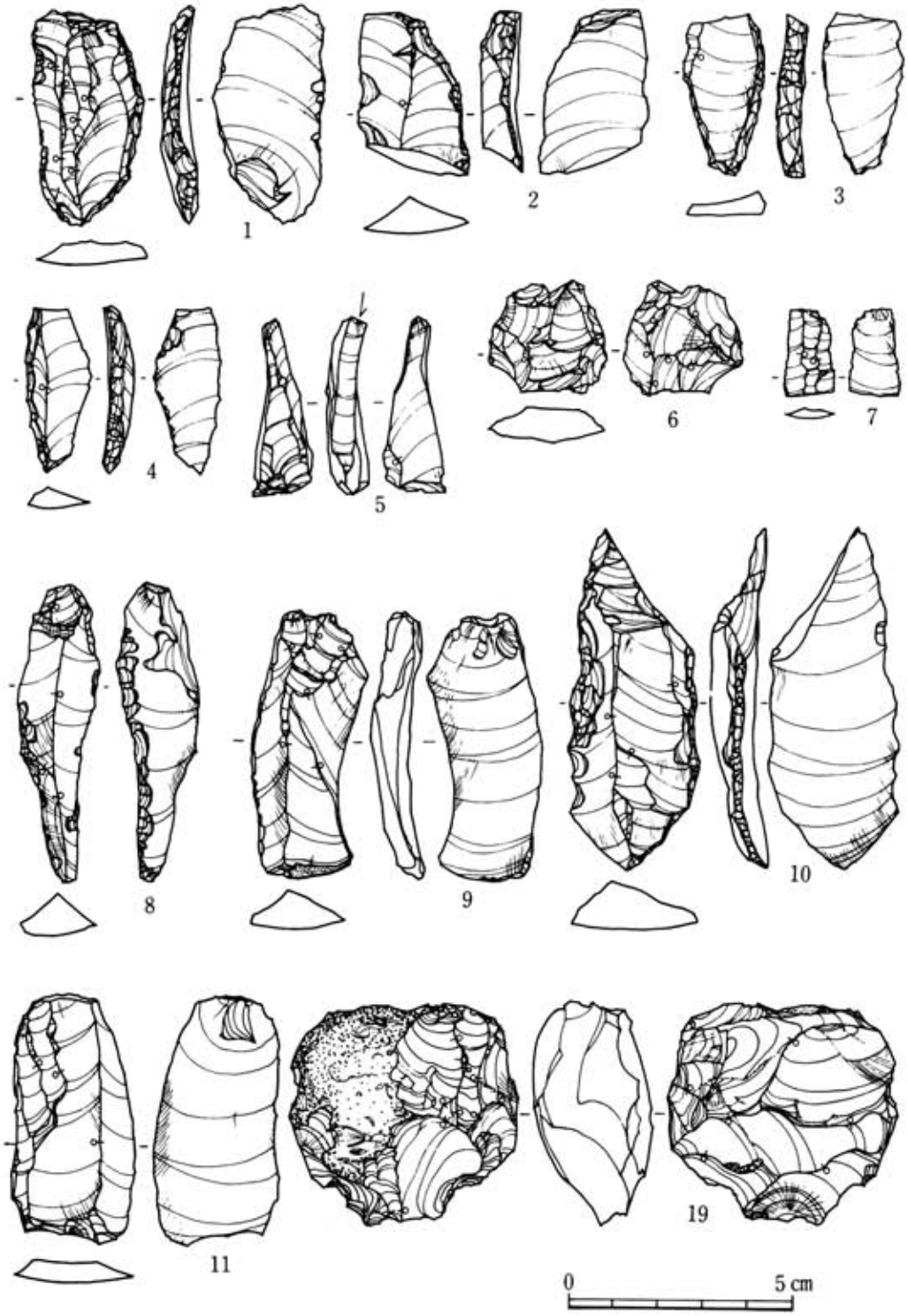
調査年月日　　昭和54年５月１日～５月９日



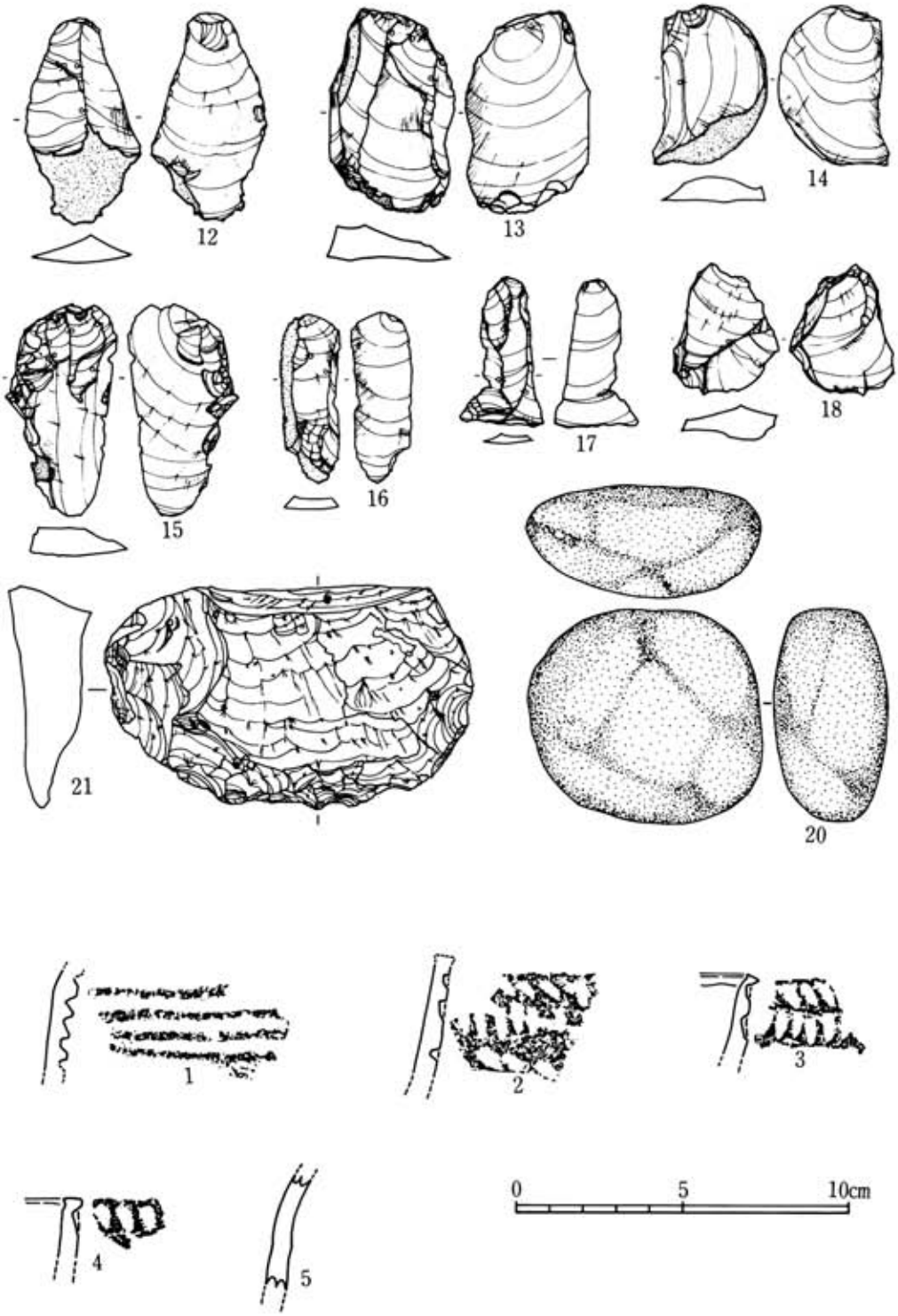
第13図　荒谷遺跡の地形と発掘調査地点

上場台地の南東端部に位置する、小丘陵西斜面の緩斜地標高204mに20m四方と推定される旧石器時代の小遺跡である。西側の山間部には水田が広がり、その用水は遺跡のそばを通って平地に落ちる。地元の古老の話では隣近する圃場内にも黒曜石製品が出土する場所が点在しているということである。上場水利事業「山田38団地」農地造成工事に先立って実施した確認調査で遺跡の存在を確認した。農政局との協議により埋土保存にしている。

Ｂ１区の土層は、表土層（約14cm）、II層(24～25cm)は礫を含む黄褐色粘土質土層、III層は基盤の玄武岩の風化礫層である。II層及びIII層が旧石器時代の遺物包含層であり、特に上層部に遺物は集中している。出土遺物は369点で、そのほとんどが旧石器時代の遺物である。（第14図・15図）II層上層出土は、７、８、17、18。II層下層出土は、２、４、10、13、16、19。III層上



第14図　荒谷遺跡　出土遺物実測図

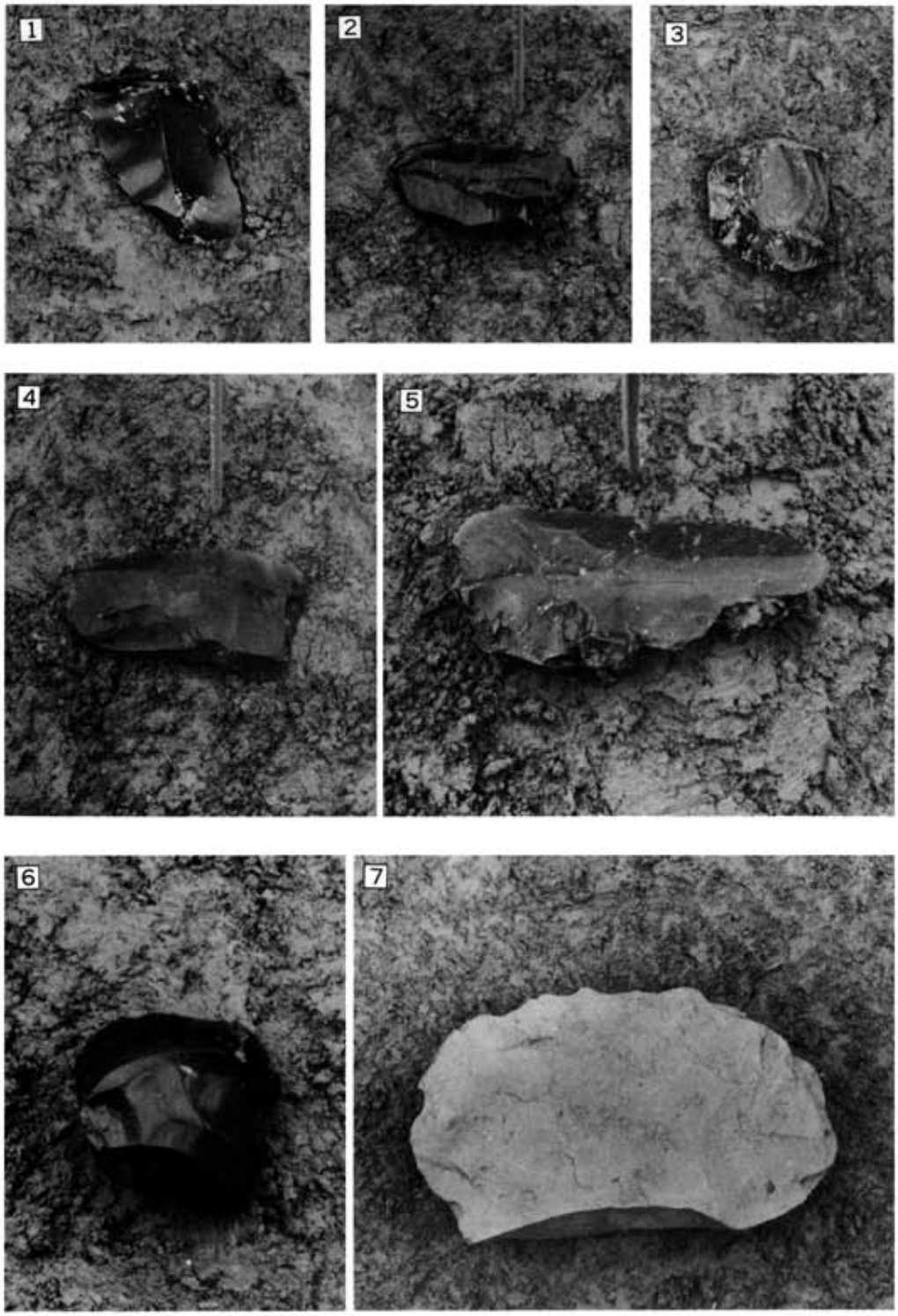


第15図　荒谷遺跡　出土遺物実測図

層出土は15で、他は表土層出土である。荒谷遺跡の剝片の特徴は、1、2、9～13の縦長剝片や刃器状剝片にみられるように幅広の素材を得ているところにあろう。それを、ナイフ形石器2、3、Uフレ1、9～12として用いている。5も同タイプの素材を用いた彫器と推定される。1～4はナイフ形石器、8は右辺裏面に加工を施した細身のスクレイパーである。15は不純物の多い黒曜石製の横広タイプの剝片である。原石はほとんどが良質の漆黒色の黒曜石であるが、6は淀姫系の灰黒色の黒曜石である。

縄文時代の遺物は第15図の通りである。前期の曽畑式土器片、石鏃、スクレイパー、つまみ形石器、剝片等が出土した。土器片はいずれも薄手で、胎土に多くの滑石粉末を混入し、刺突文、平行線文、無文で淡褐色を呈す。スクレイパー21は安山岩製の横広の大形剝片を素材にし三辺に調整を施している。

第16図　荒谷遺跡遠景(西より)



1　ナイフ形石器　　2．4　Uフレ　　3．6　石核

5　縦長剝片　　6　スクレイパー

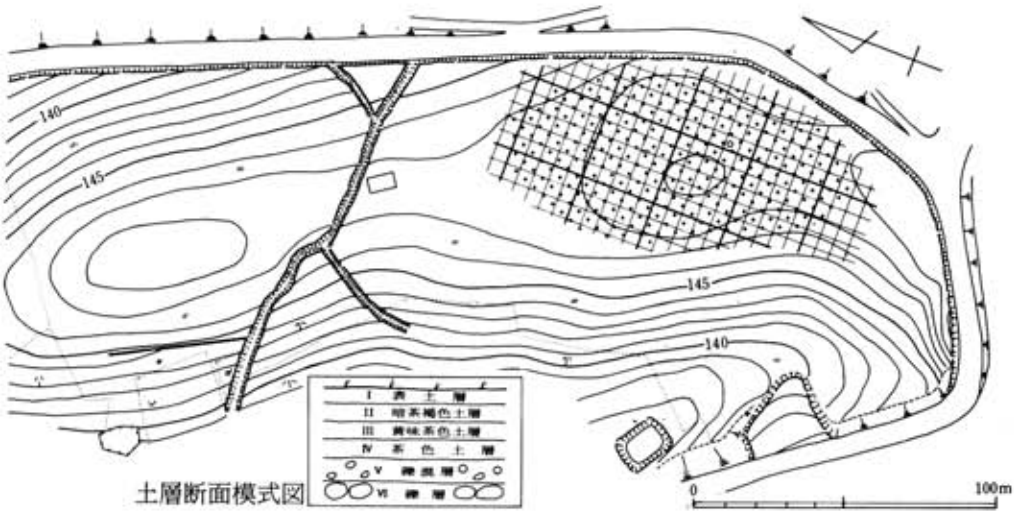
第17図　荒谷遺跡　石器出土状況

鶴牧遺跡群

3．尾山遺跡

所　在　地　　東松浦郡肥前町入野字尾山2543の1番地

調査年月日　　昭和54年10月15日～10月25日

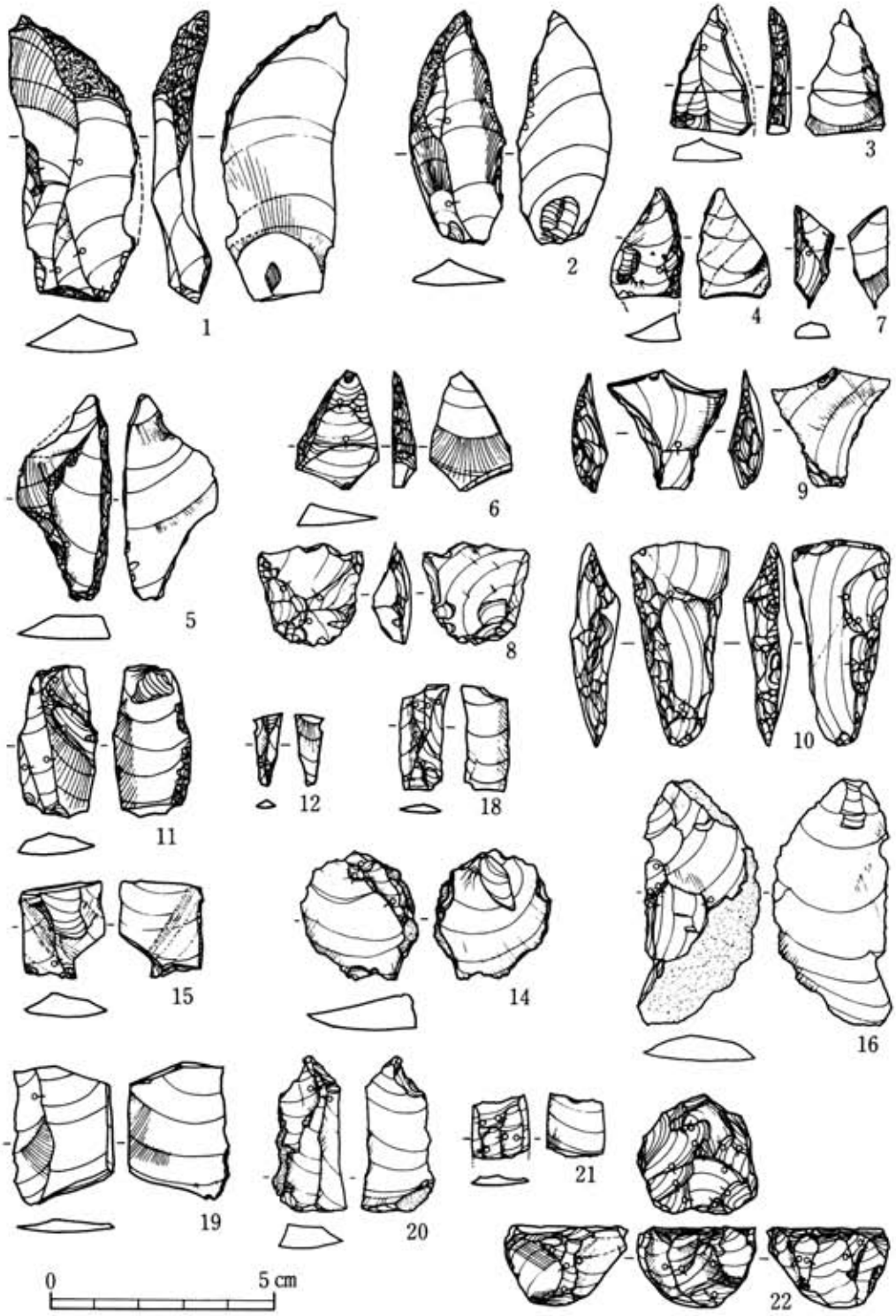


第18図　尾山遺跡の地形と発掘調査地点

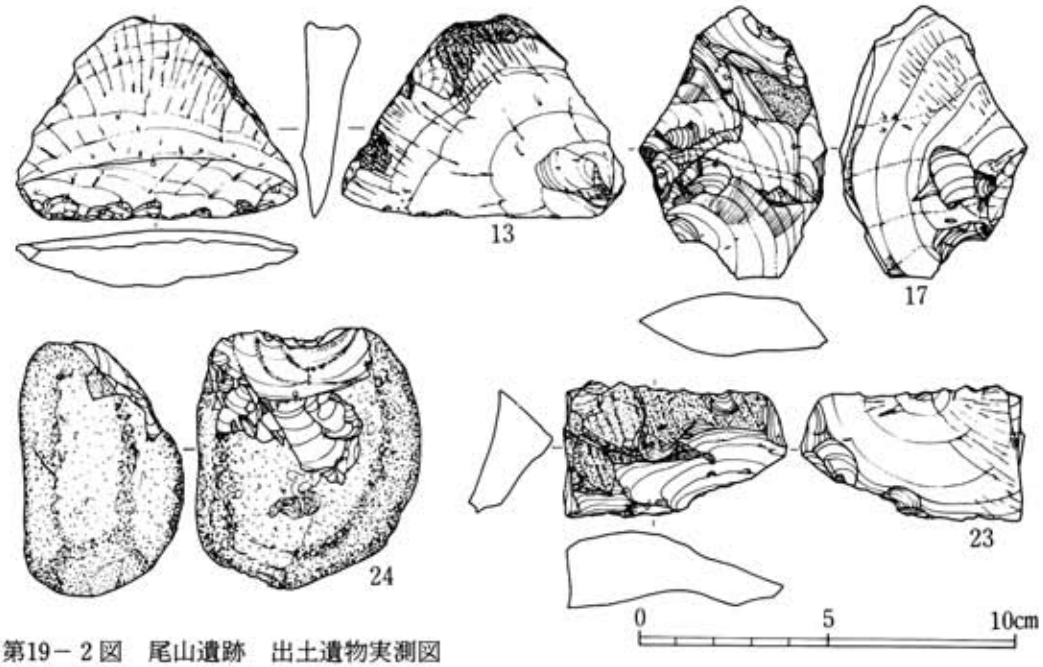
入野半島の根冠部、標高148mの丘陵上に在る小規模の旧石器時代の遺跡である。

昭和54年、上場農業水利事業「入野12ニ団地」の農地造成工事の施行に先立って実施した確認調査により遺跡の存在を確認した。遺跡が丘陵上にあるため土砂の流出が甚だしく、遺物の出土は点在であり、ブロックの存在は確認できなかった。

尾山遺跡の土層断面模式図は第18図の通りである。II層から縄文系土器細片、石鏃、石核、剥片、砥石、III層からナイフ形石器(1)、台形石器(9)、土器片、IV層からナイフ形石器(2)、台形様石器(10)、V層からナイフ形石器（3、4）、剥片等が出土した。II層が縄文時代、IV、V層は旧石器時代の遺物包含層と推定される。II層より8、13、14、22、III層より1、9、11、15～17、23、IV層より2、10、18、V層より3、4、19が出土し、他は時期不明の土壙、表土層からの出土である。16I区の土壙(第20図) はV層と地盤に掘り込まれ、2.65mと1.12mを測る長円形を呈する。埋土は単層で旧石器時代の遺物と思われる剥片・削片が27点出土した。



第19－1図　尾山遺跡　出土遺物実測図



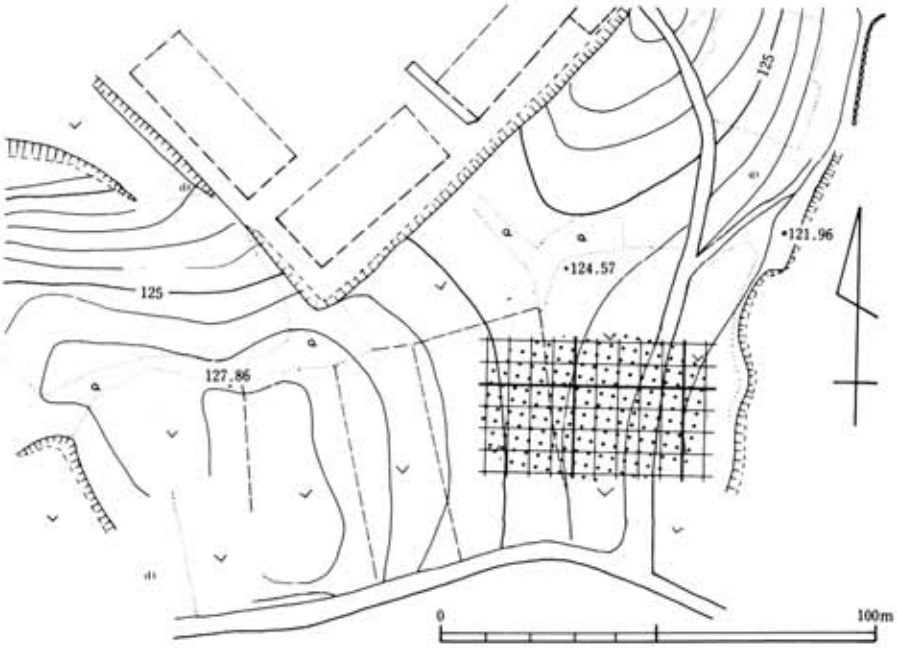
第19－2図　尾山遺跡　出土遺物実測図

第20図　尾山遺跡　16Ⅰ区遺構

4．ニツチ（丹土）遺跡

所　　在　　地　　東松浦郡肥前町入野乙字ニツチ472～500の１番地

確認調査年月日　　昭和55年10月27日～11月11日



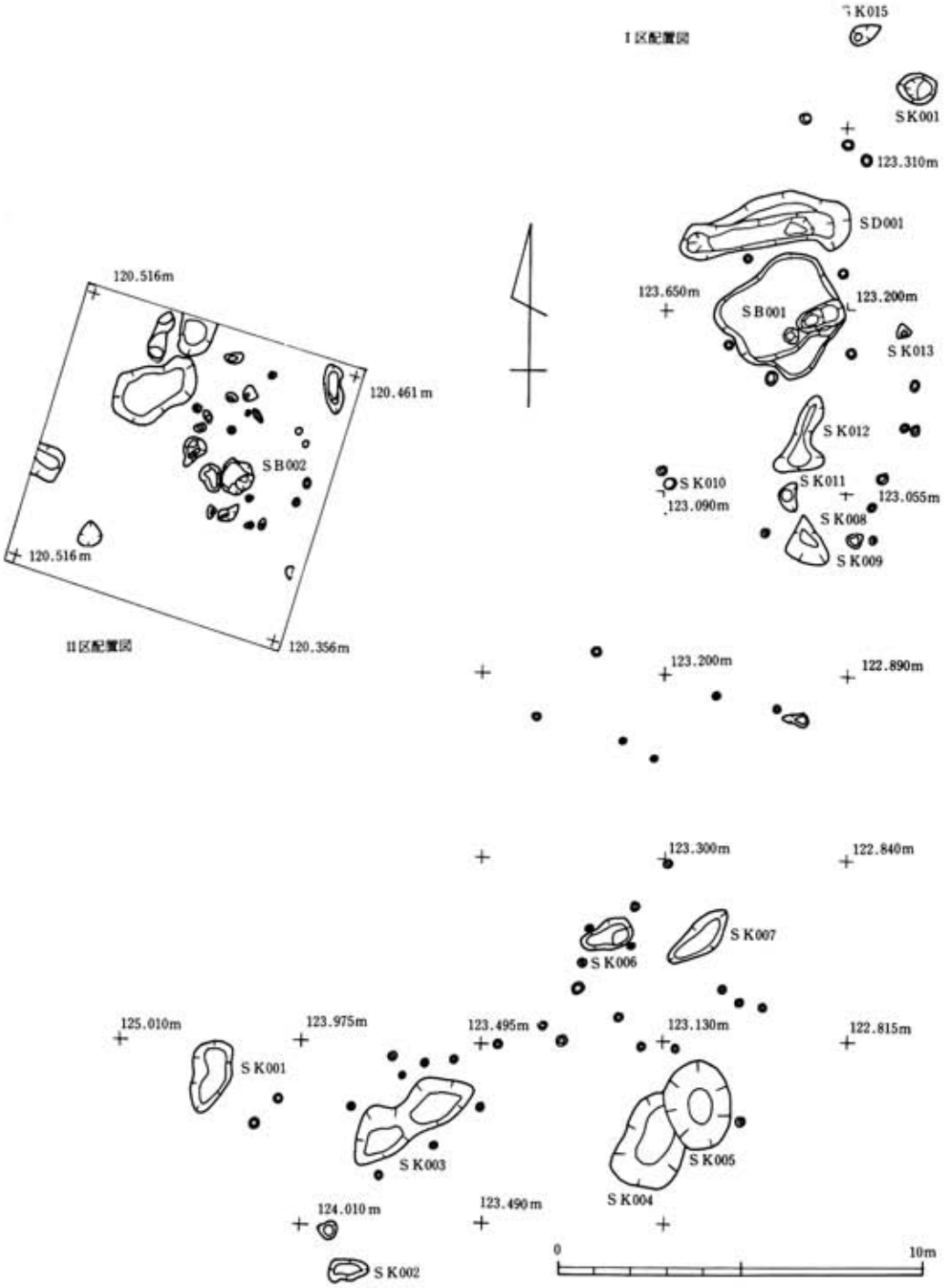
第21図　丹土遺跡の地形と発掘調査地点

丹土遺跡はコッポ遺跡の南西約400mに位置し、北に延びる舌状台地（標高125m）の東緩斜面に広がる。東の小谷には水田が開ける。

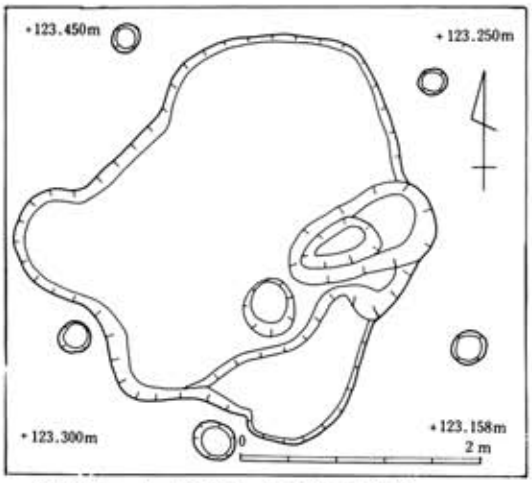
上場農業水利事業「入野12イ団地」農地造成工事の施行に先行して、発掘調査を実施した。今回の調査は遺跡の南東部の切土部分約800m²を対象にし、九州農政局との協議により、他は盛土による保存とした。

1．遺　　構〔第22図〕

検出された遺構は、住居跡２基、土壙、柱穴である。SB001竪穴住居跡〔第23図〕は、上面が削平されていると思われ、底面のみが残存している。平面は3.3mと3.0mを測る隅丸方形に近い。南寄りにこれに伴う卵形の土壙と小土壙が検出された。周囲に径23～32cmを測る柱穴が５個所検出された。遺構内より土器細片、黒曜石剝片が出土した。SB002住居跡〔第24図〕はII区中央部に在る。上部が削平されていると思われ、柱穴が残存している。平面は直径約3.3mの円形を呈し、柱穴は２穴並列で７個所検出された。中央南寄りに２基の土壙をもつ。SK003大形土

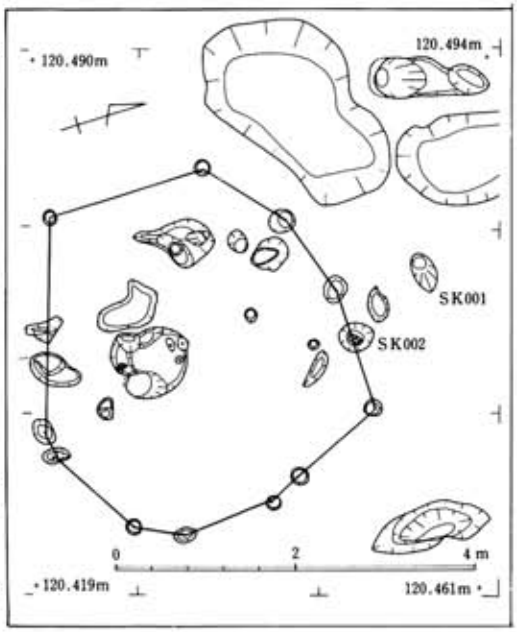


第22図　丹土遺跡　遺構配置図



第23図　丹土遺跡　ＳＢ001建物跡

第24図　丹土遺跡　ＳＢ002建物跡⟶

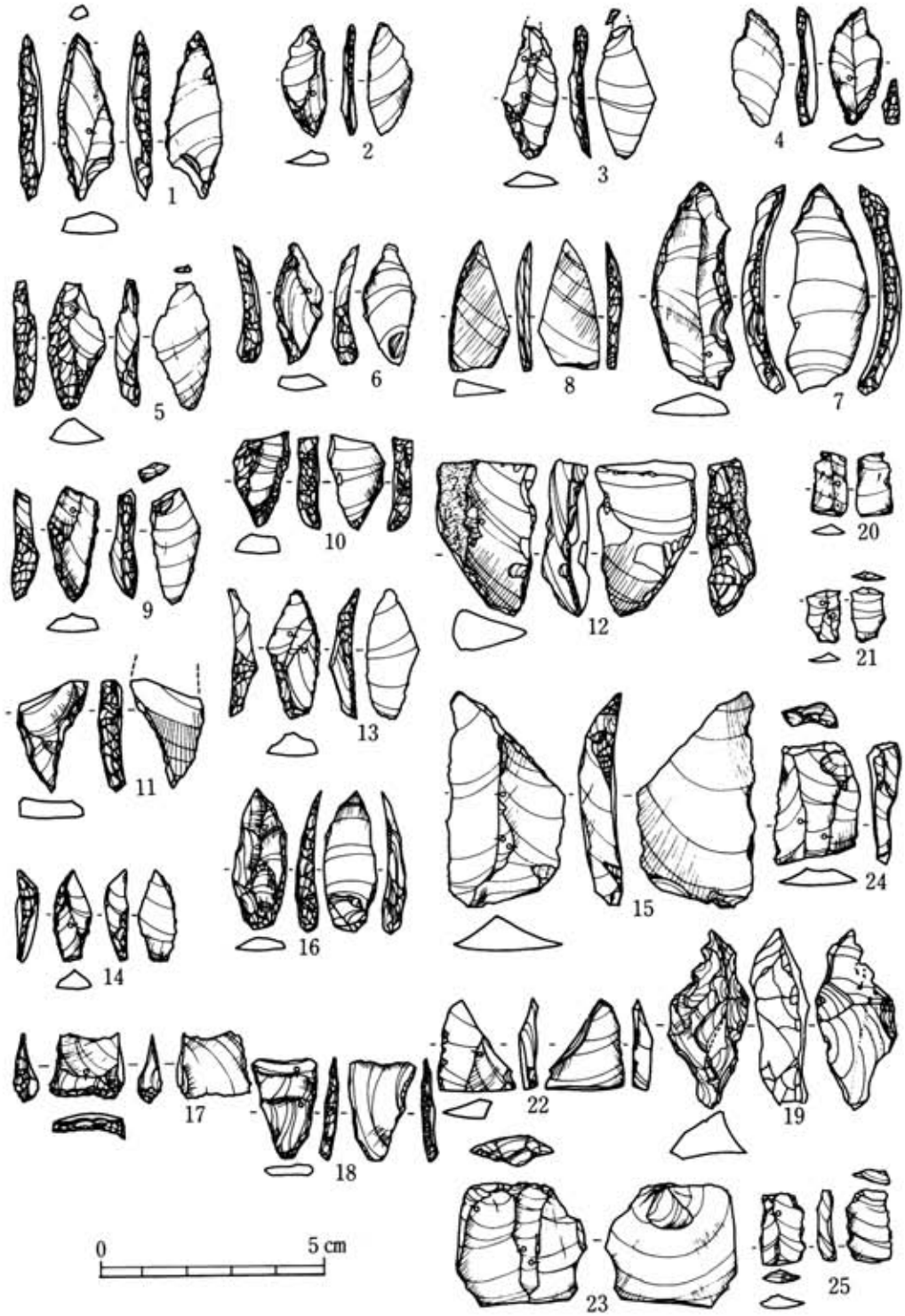


壙は長軸3.85mの双楕円形を呈し、周囲に６個所の柱穴が並ぶ。SK006土壙は長軸1.47mを測り卵形を呈す。隣接した２個所の柱穴をもつ。ＳK004土壙は隅丸方形。ＳK005土壙は楕円形を呈す大形土壙である。いずれも縄文時代晩期の遺構である。

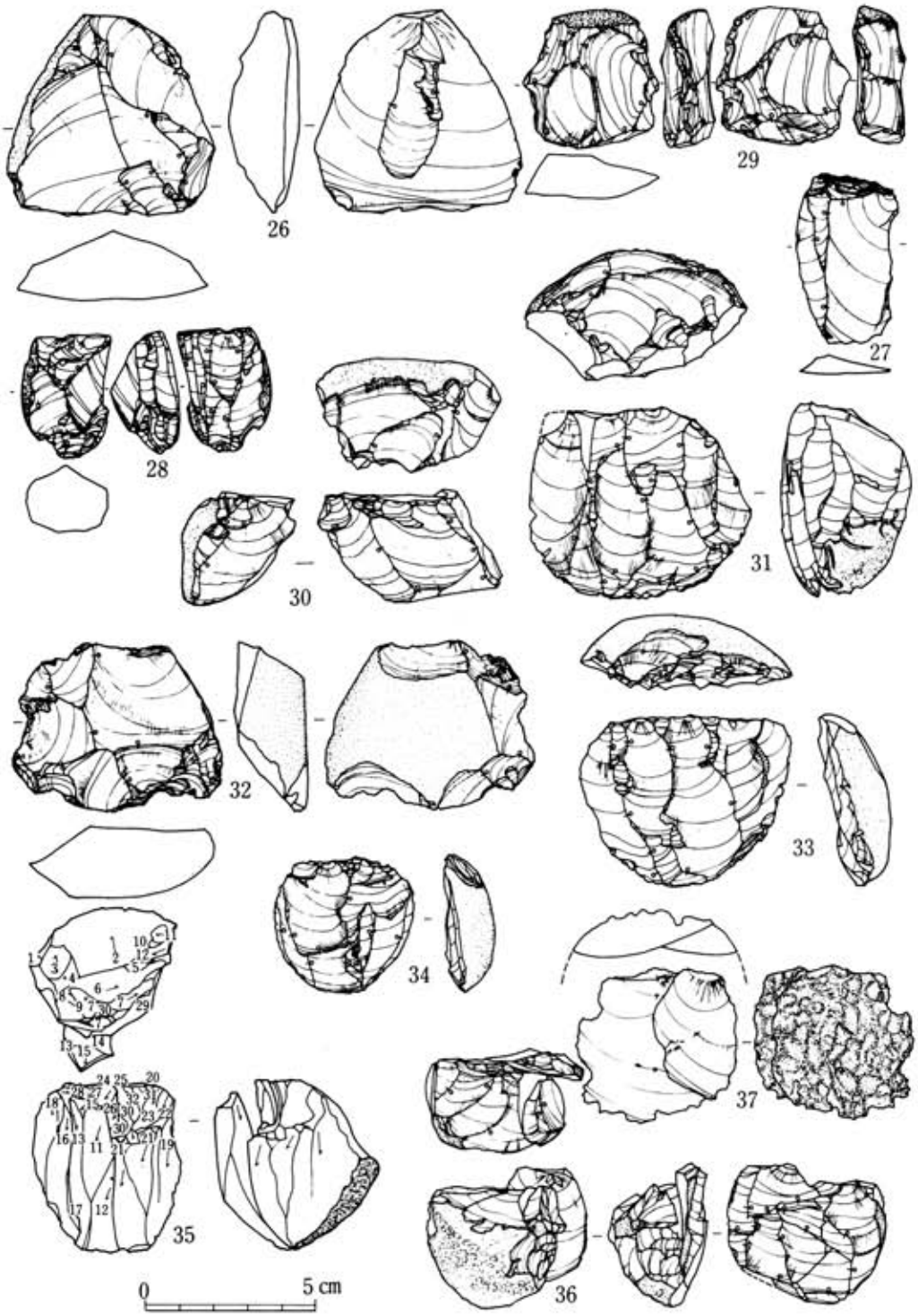
２．出土遺物

旧石器時代〔第25図〕　１～16はナイフ形石器である。１～12は表土層、13、14はII層上層、15はＳK005、16はＳK050より出土した。17は台形石器で基部までプランティング加工をしっかりと施している。18は小形の台形様石器である。いずれも表土層出土。19はIII層出土の断面三角尖頭器である。20、21は表土層出土の細石刃である。22～25は縦長の刃器状剥片である。26は横広型の大形剥片。27は左縁に使用痕を有す剥片である。28は細石核。29～34は石核で、29～32は表土層、33、34はII層出土である。35～37は接合資料である。35は残核に２枚の剥片が接合する。36は円礫の黒曜石製残核に、打面再生剥片と剥片が接合する。37は２枚の剥片が接合する資料である。残核、剥片で観察できる限り単設打面の石核より剥片剥離を行っている。26、32、37で見られるように横広の剥片剥離も行われているが、その製器は19のみで台形様石器は見られない。

縄文時代　晩期と推定される土器細片や、石鏃、石核、剥片等が出土した。



第25－１図　丹土遺跡　石器実測図



第25－２図　丹土遺跡　石器実測図

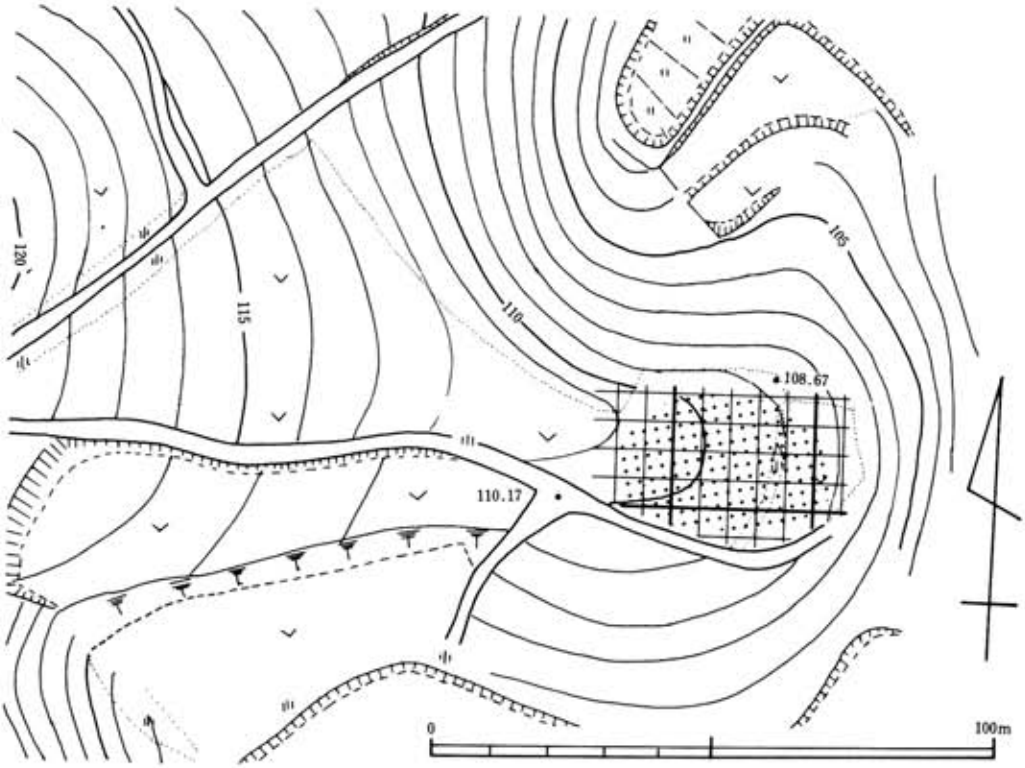
第26図　丹土遺跡Ⅰ区（東より）

第27図　SK003土壙

5．コ　ッ　ポ　遺　跡

所　　在　　地　　東松浦郡肥前町入野乙字コッポ籔241～246番地

調 査 年 月 日　　昭和55年９月１日～10月25日



第28図　コッポ遺跡の地形と発掘調査地点

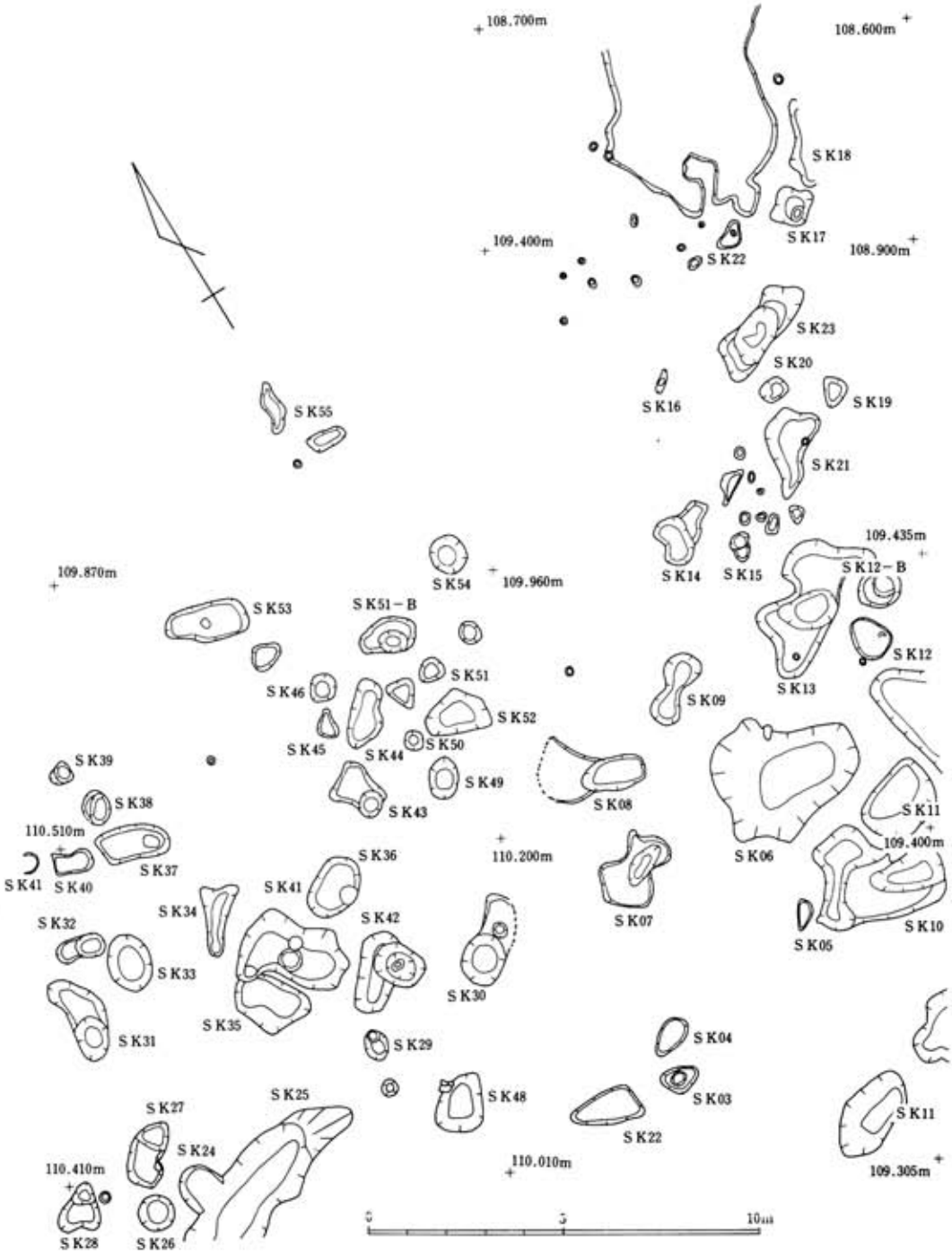
卓状を呈する入野半島のほぼ中央部に位置し、近隣には低丘陵の縁辺部に小遺跡が点在する。遺跡は三方を湧水の豊富な湿田に囲まれた小丘陵上に広がる。標高110mを測り、東西60m、南北30mに広がるものと推定される。

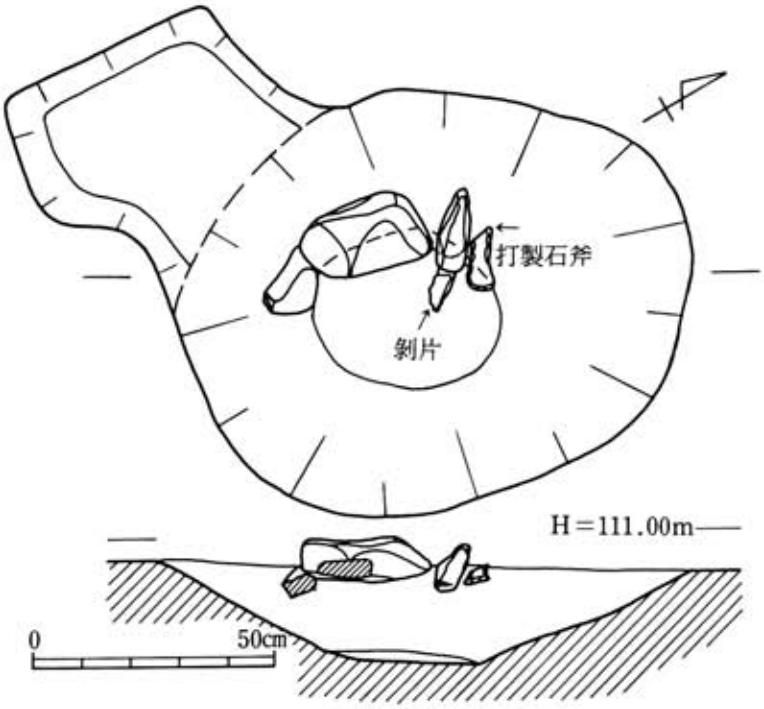
上場農業水利事業「入野12イ団地」農地造成工事に先行して発掘調査を実施した。今回の調査は遺跡の東区約1,000m²を対象にし、西区は農政局との協議により、盛土による保存にした。

1．遺　　構〔第29図〕

検出された遺構は、土壙約50基、炉跡１個所、焼土３個所、柱穴約20個所があり、丘陵上部に集中している。遺構は北、東の傾斜面には少なく、南緩斜面に遺跡は広がっていたものと推定される。SK30土壙〔第36図〕は径約125cmと100cm、深さ20cmを測る楕円形を呈し、壁面が一面に焼け、炉跡と思われる。SK63〔第30図〕は、暗褐色粘質土の埋土に炭化物小片、焼土小塊

第29図　コッポ遺跡遺構配置図





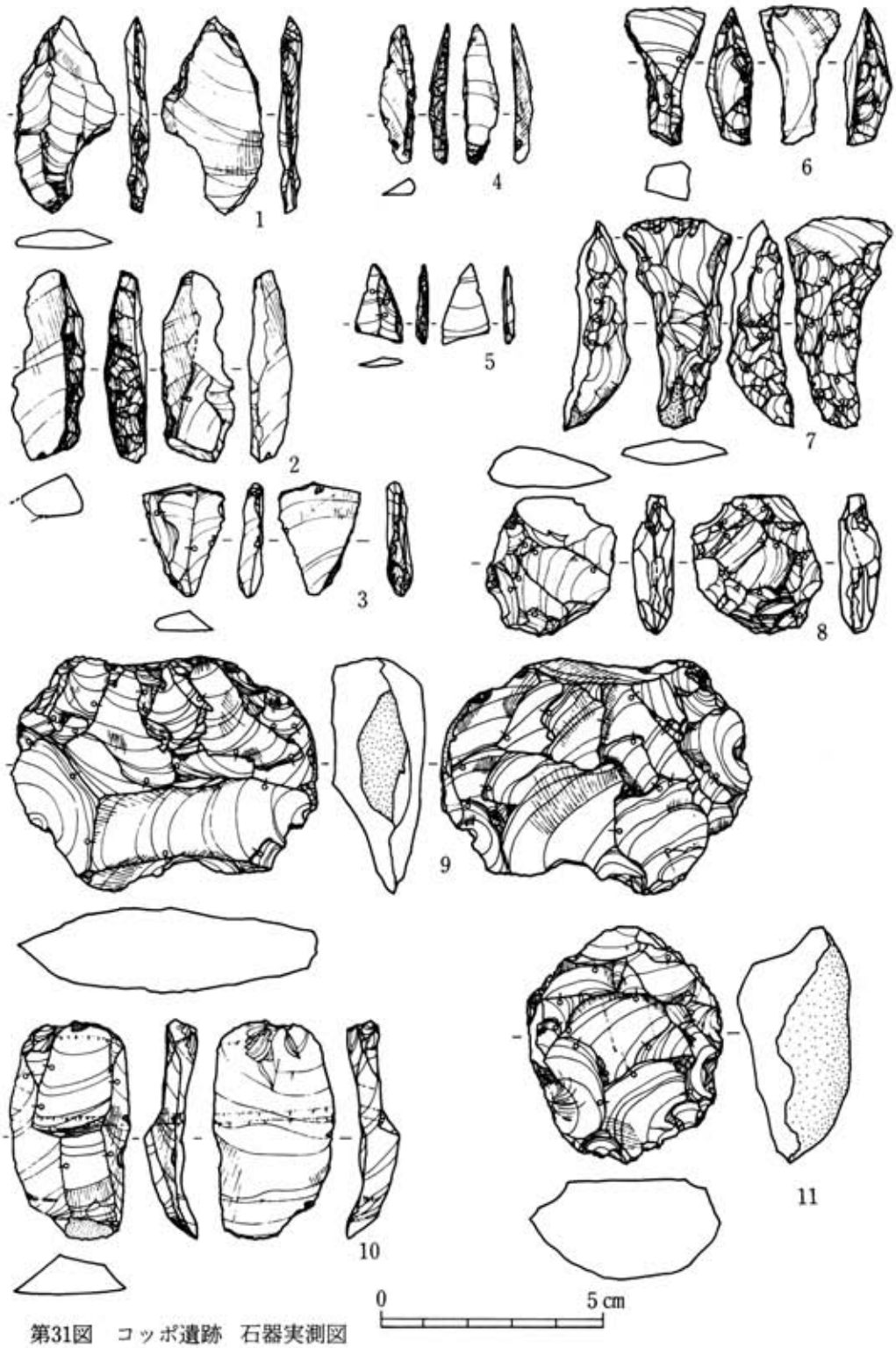
第30図　コッポ遺跡　SK63土壙実測図

を含み、打製石斧、安山岩製剝片、土器細片等が出土した。焼土はSK41土壙に2個所、SK36土壙に1個所のっていたが、土壙との関係は不明。また表土層や埋土内から旧石器時代のナイフ形石器、台形石器、石刃等が出土したが、包含層を確認することはできなかった。

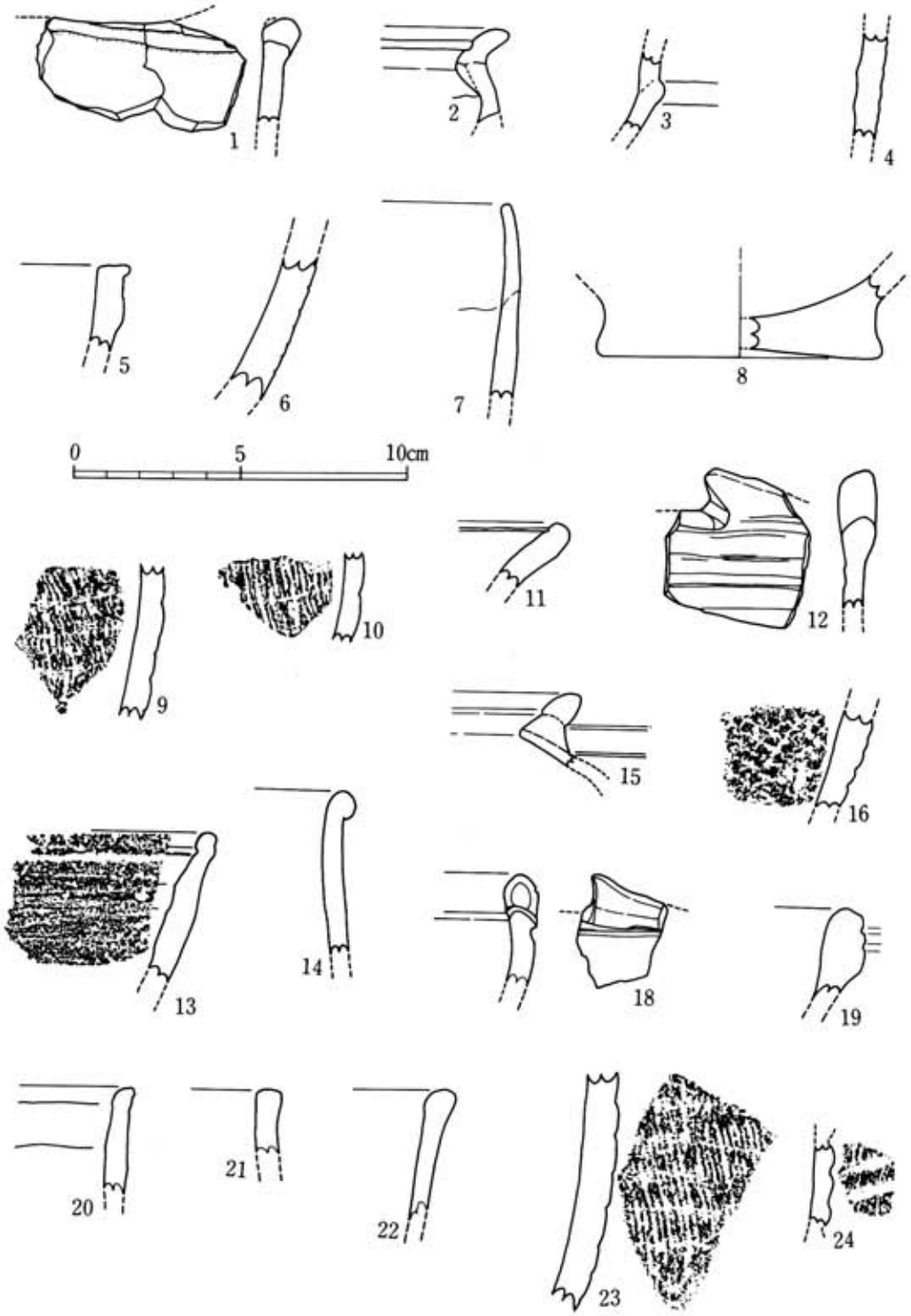
2．出土遺物

旧石器時代〔第31図〕　1～5ナイフ形石器。1（SK11出土）は横広で大形の薄手である。刃部を大きく作出する。裏面刃部に使用剝離痕が大きく残る。2（表土層出土）は大形厚手で、ブランティング加工を表面より施す。右側辺刃部側を大きく欠失している。4（表土層出土）は細身小形で木葉形を呈し、刃部を明確には作り出していない。基部側でブランティング加工を表裏両面より施す。6、7は台形様石器。6は横広の厚手剝片の基部側を素材にしている。両側縁を調整しほぼ左右対称のバチ形に整えている。7は自然面をもつ横広厚手剝片を素材にして両側縁を粗く調整している。主剝離面にも両側より入念な調整を施している。8ラウンドスクレイパー。原石は東浜系の黒曜石で、両面に四方から調整を加えている。9は薄手多面体残核を素材にしたスクレイパー。下辺から左辺に使用痕がみられる。10は縦長刃器状剝片で、両辺に使用痕がみられる。11円礫の四方から不定形剝片剝離を行った残核。

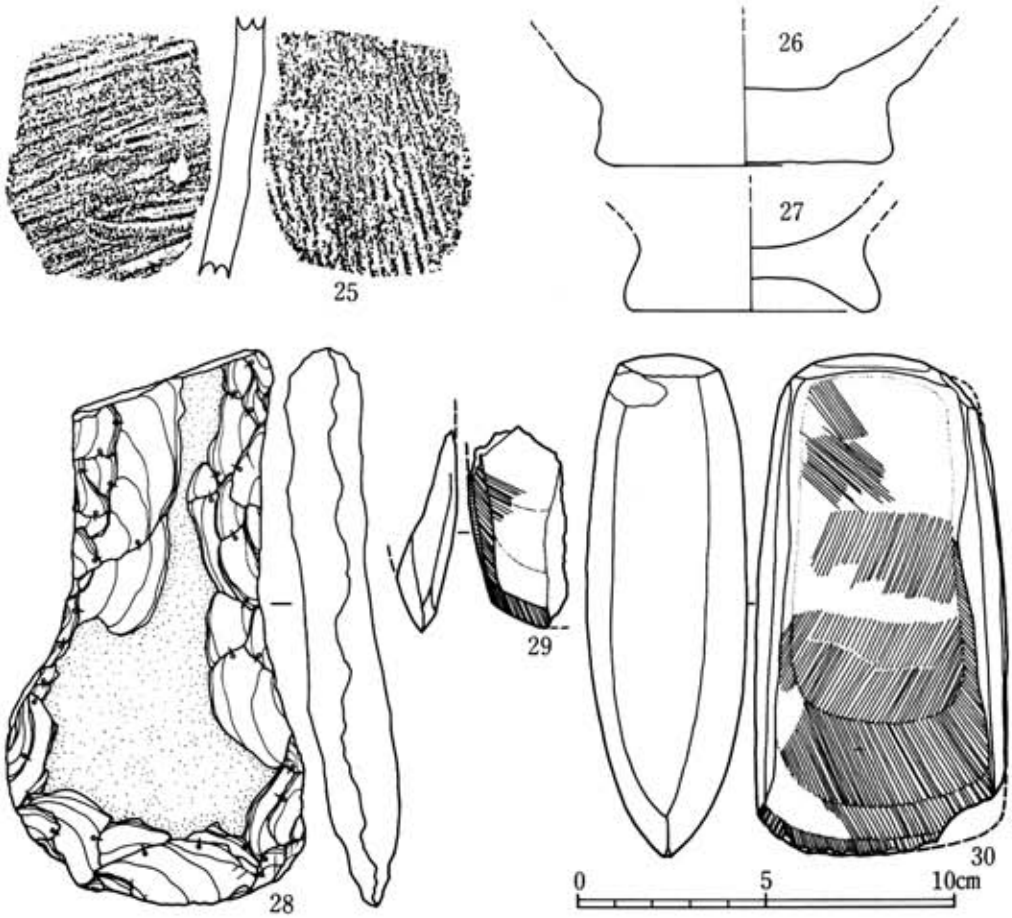
縄文時代〔第32図〕　1 SK16出土。深鉢のリボン状尖起のつく口縁部片。外端部が肥厚する。2～4 SK24出土。2は浅鉢口縁部。外面は横方向の篦磨き。3は突帯をもつ鉢口縁部。4は深鉢胴部片で、外面は横方向の条痕調整。5、6はSK25出土。6は山形押型文土器で埋土の中



第31図　コッポ遺跡　石器実測図



第32－1図　コッポ遺跡　土器実測図



第32－2図　コッポ遺跡　土器・石斧実測図

に混入していた。7はSK28、深鉢の口縁部。薄手の器壁をもち、内外面とも剝落がはげしい。8はSK29出土。深鉢の底部片。胎土に砂粒を多く含む。9、10はSK31出土。組織痕調整の深鉢胴部片である。11はSK33出土。浅鉢の口縁部。内面上端近くに浅い沈線を有す。内外面とも研磨による調整痕がみられる。12～14はSK57出土。12はリボン状突起がつく口縁部の深鉢である。内面は条痕調整を施し、黒褐色を呈す。外面は剝落がはげしい。13の内面は横方向のナデ調整を施し、口縁端下に沈線が一条走る。口縁端部がわずかに肥厚する。14は口縁端を外側に曲げて肥厚させた深鉢である。暗黄褐色を呈す。15はSK60より出土した浅鉢の口縁部。浅い沈線が二条走る。内外面とも横方向の研磨調整。16はSK60に混入していた楕円押型文土器の胴部片。18～27は表土層出土。18はリボン状突起をもつ。19は大きく肥厚する口縁部外面に二条の沈線が走る。23、24は組織痕をもつ胴部片。28はSK63出土の打製石斧。比較的薄手の玄武岩製剝片を素材にして両面に粗調整加工を施している。刃部は片刃を意識して剝離させているものと思われる。頭部は両側辺からの剝離で細身になる。29、30は表土層出土の磨製石斧。

第33図　コッポ遺跡遠景（南より）

第34図　コッポ遺跡中央区（南より）

第35図　(右) SK041炉跡、(手前) SK036炉跡、(左上) SK030炉跡

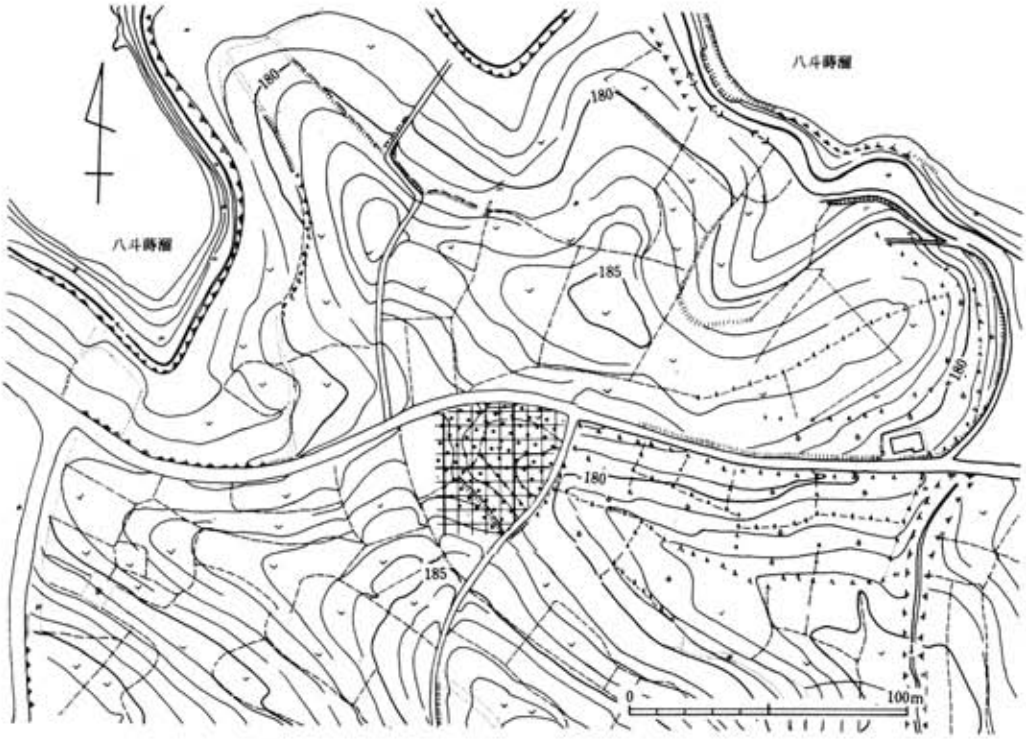
第36図　SK030土壙

八斗蒔遺跡群

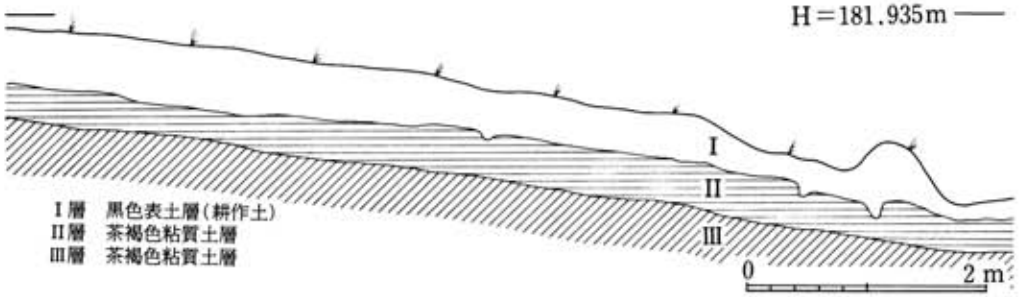
6．高地木場遺跡

所　在　地　　東松浦郡肥前町大字新木場字高地木場1623の14・1623の13・1626の1番地。大字瓜ヶ坂笹山775の1,776番地

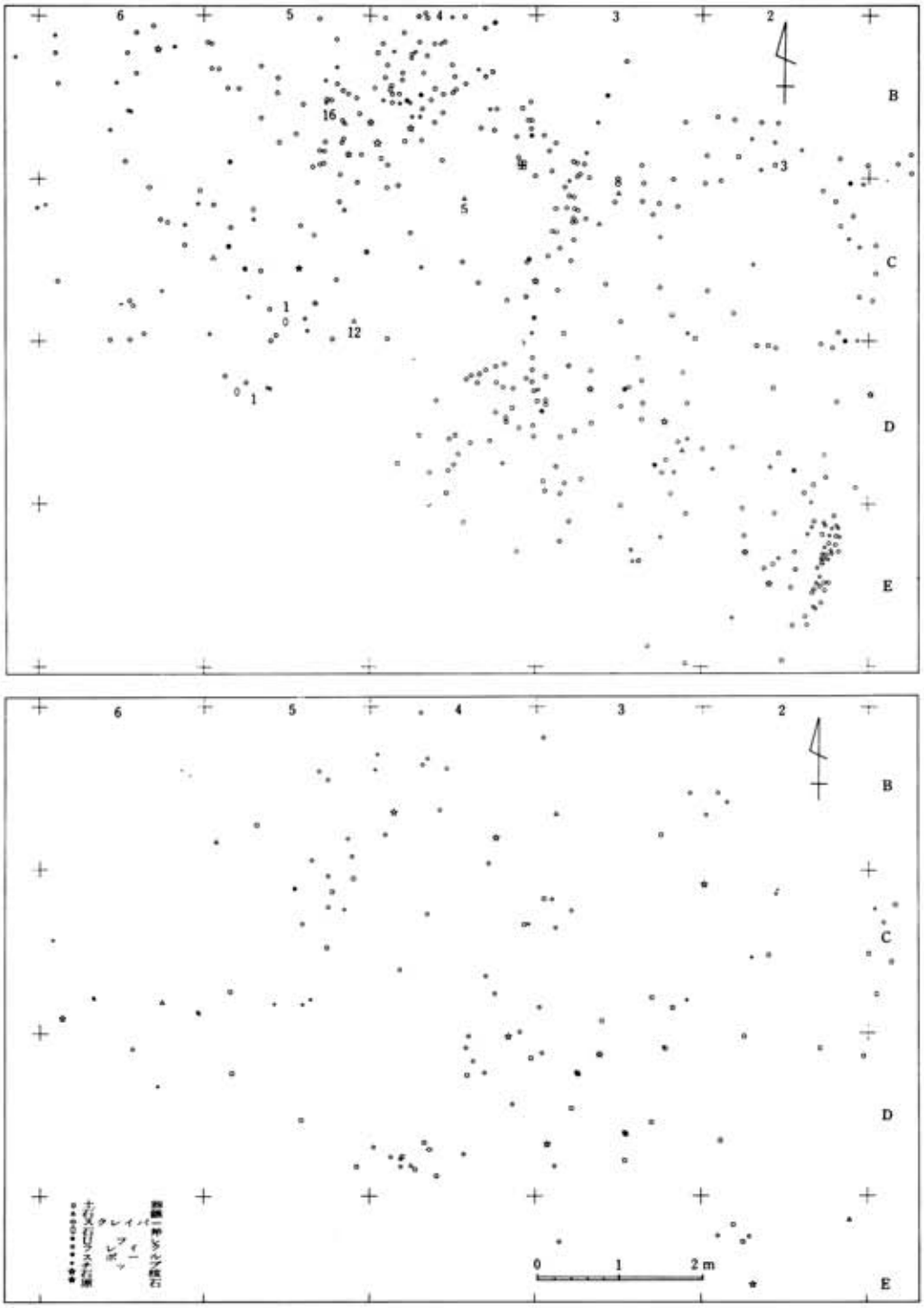
確認調査年月日　　昭和54年5月11日～6月2日



第37図　高地木場遺跡の地形と発掘調査地点



第38図　高地木場遺跡　BI区東壁土層断面図



第39図　高地木場遺跡　ＢＩ区遺物分布図（上・Ⅱ層上層，下・Ⅱ層下層）

遺跡は八斗蒔溜の西岸低丘陵上の西斜面に広がる。旧石器時代のナイフ形石器、細石刃と縄文時代の石鏃、石斧などの遺物が多量に採集されている。

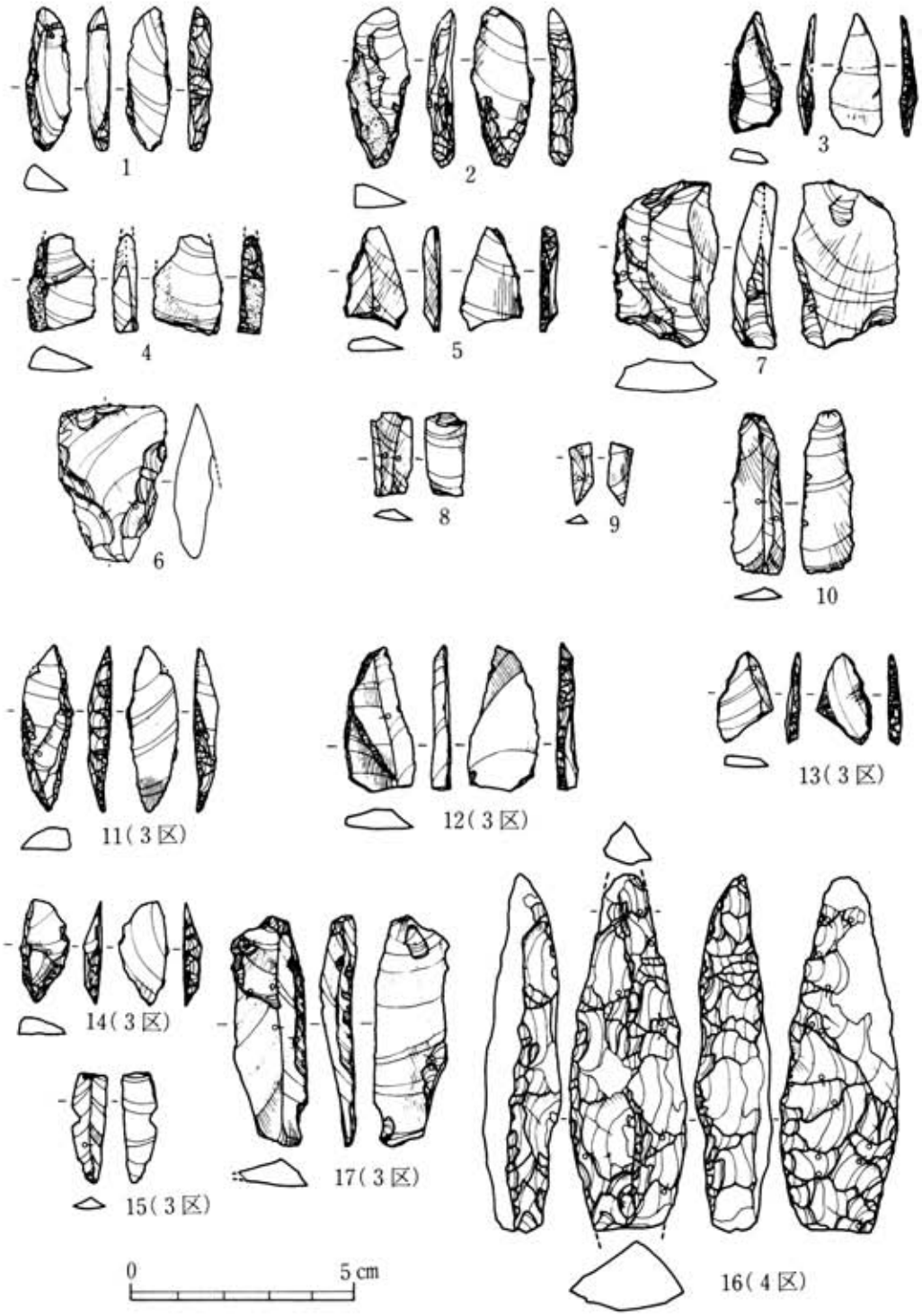
昭和54年県営畑総事業「満越工区」畑地区画整理工事の施行に先立ち発掘調査を実施した。地区内の丘陵上や斜面に7地点の遺物散布地が確認されたが、その殆どの地点では自然流出や畑地開墾のため土層が薄く、遺構や遺物包含層を確認することはできなかった。特に周知の遺跡であった高地木場では、基盤である礫層の上に10～30cmの耕作土がのっている状態で、遺跡の確認はできなかった。ナイフ形石器や細石刃等の旧石器時代の遺物は広い範囲で表採できるが、包含層は確認できなかった。八斗蒔溜に面した北傾斜地点で包含層を検出したが盛土保存にした。遺跡の西区のＢＩ区〔第39図〕で示しているように小規模の範囲で縄文晩期の遺物包含層が検出された。

出土遺物

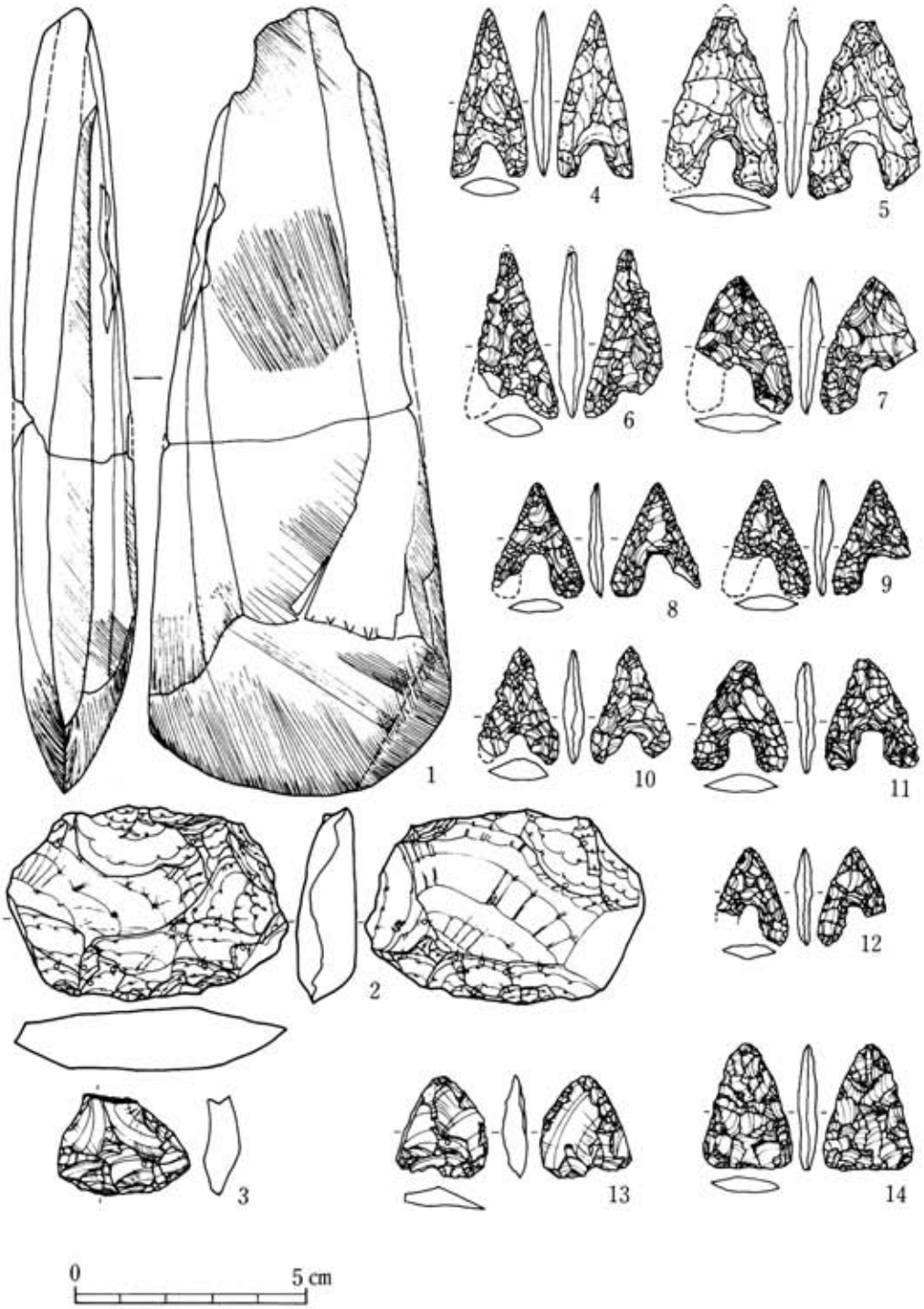
旧石器時代　〔第40図〕　1～5はナイフ形石器。1は厚手細身の黒曜石製剥片を素材にして、刃部を長く作出している。プランティングは左辺に施し、その上半は表裏両面より施している。2も厚手であり、主剥離面の末端部を加工している。4は自然面を残すが黒曜石円礫を素材に用いている。6は台形様石器。表裏とも左右両辺より調整加工を施し整った形状を示す。7は彫器。黒曜石製不定形剥片を素材にして、その末端部を主剥離面より打面作出調整を行っている。右辺に使用痕がつく。8～9は細石刃で、8は中間部、9は末端部である。10はブレイドで右縁辺に使用痕がみられる。

縄文時代　〔第41図〕　1は扁平片刃磨製石斧。II層上層より折断されたものが出土した。全面に研磨痕がみられる。2は安山岩製のスクレイパーで三辺に両面からの剥離調整が施されている。3は小形の短形スクレイパーで両面に加工がみられる。4以降は石鏃である。13、31～31は剥片鏃。29、36は磨製石鏃である。

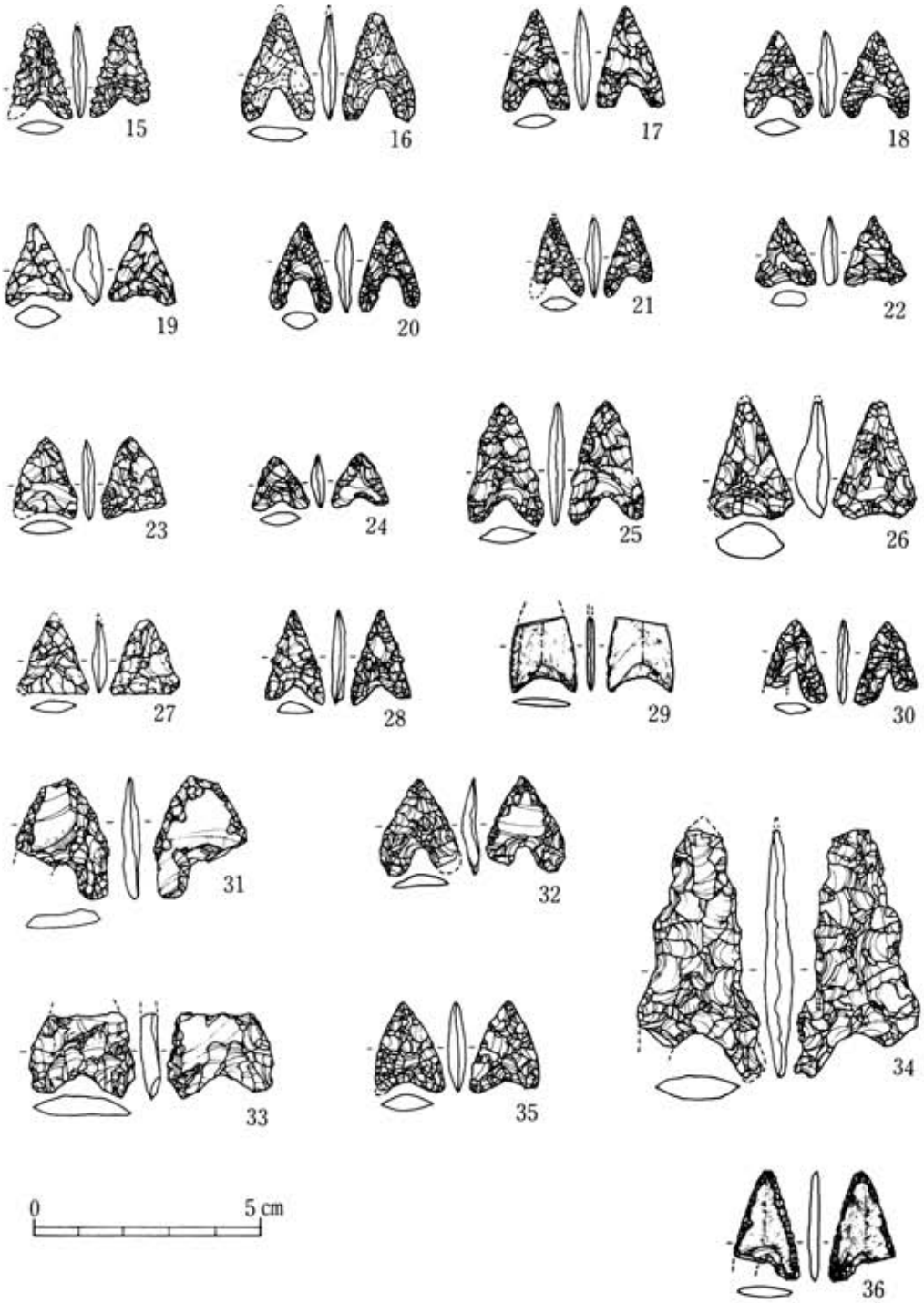
他の区の資料　〔第40図〕　いずれも表土層からの出土で、包含層からは検出できなかった。11～14ナイフ形石器。厚手細身の黒曜石製ブレイドを素材にし、刃部は短く、明確には作出していない。14は小形の切出し形のタイプで刃部を明確に作り出している。15はスモールブレイド。16は4区出土の三稜尖頭器。黒曜石製の厚手縦長剥片を素材にし、左右対象に調整している。先端部を欠失しているが現器長78.5mm、最大器幅26.1mm、最大器厚16.8mm、重さ29.5gを測る大形品である。17は3区出土のブレイドで右縁辺に使用痕をもつ。



第40図　高地木場遺跡　石器実測図



第41－1図　高地木場遺跡　石器実測図



第41－2図　高地木場遺跡　石器実測図

第42図　高地木場遺跡　北区遠景(東より)

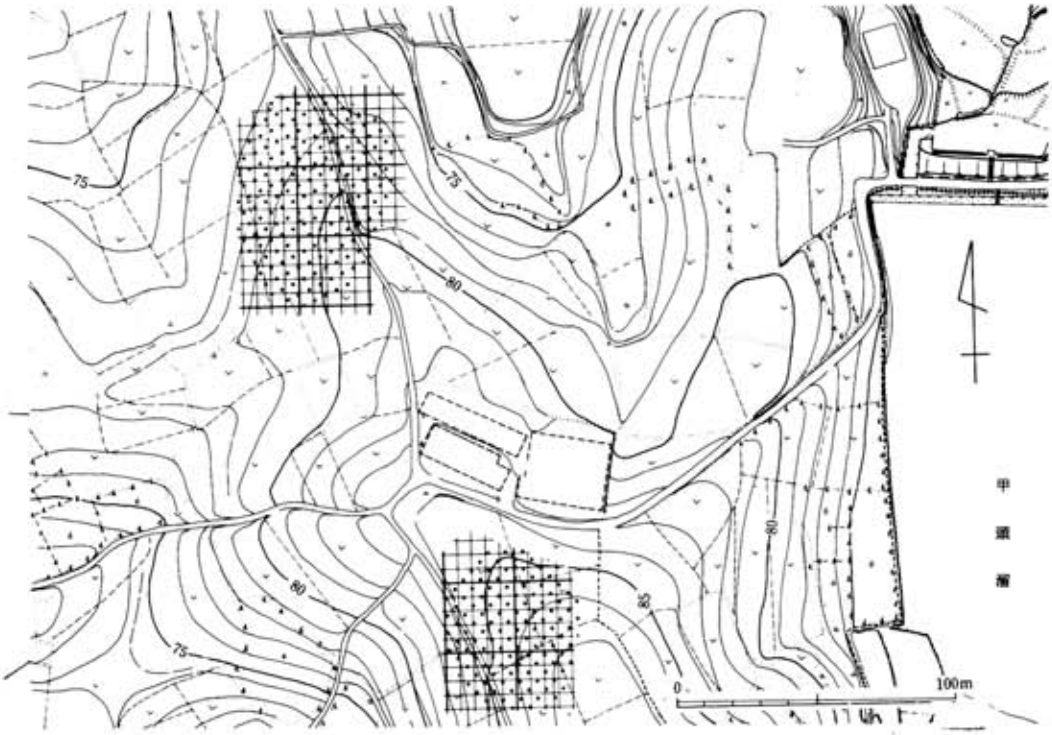
第43図　高地木場遺跡　II層遺物出土状況

普恩寺遺跡群

7. 敷　田　遺　跡

所　在　地　　東松浦郡玄海町大字普恩寺字上の口1154番地

調査年月日　　昭和54年6月11日～7月19日

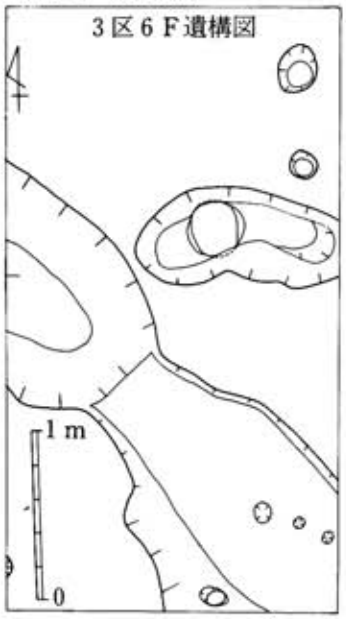


第44図　敷田遺跡の地形と発掘調査地点

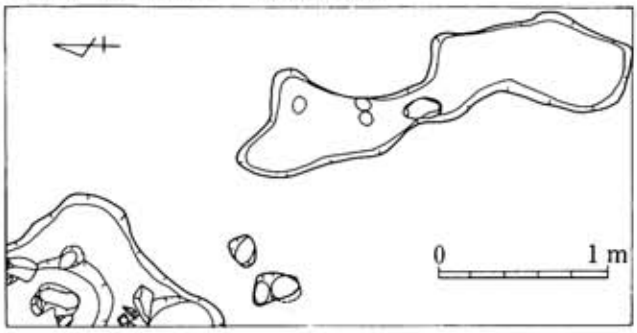
東松浦半島の西北端に突出する値賀崎の根冠部に普恩寺遺跡群は在る。標高75～90mの波状的な段丘上に遺物散布地が密集している。この遺跡群の北には岩盛古墳群、普恩寺古墳がある。普恩寺、敷田、甲頭、平尾、浜野浦遺跡等からは旧石器時代から縄文時代にかけての遺物が採集されてきている。

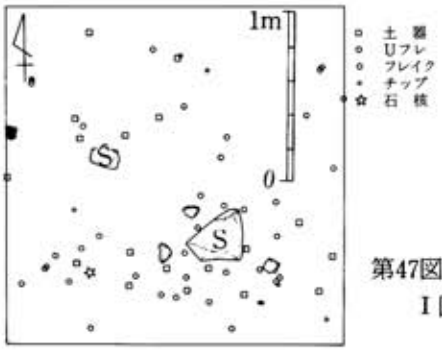
県営畑総事業「普恩寺工区」の施行に先立って発掘調査を実施した。昭和54年4月の踏査により13地区の遺物散布地を確認した。4地区は施行区から除外され、9地区を調査した。その結果、殆ど全域にわたって土砂の流出が著しく、遺構、包含層は確認できなかった。8区、11区、13区において土壙、柱穴等が検出されたが、覆土からの出土遺物は黒曜石削片が殆んどで縄

第45図　敷田遺跡
3区6F遺構図



第46図　敷田遺跡　　8B遺構図





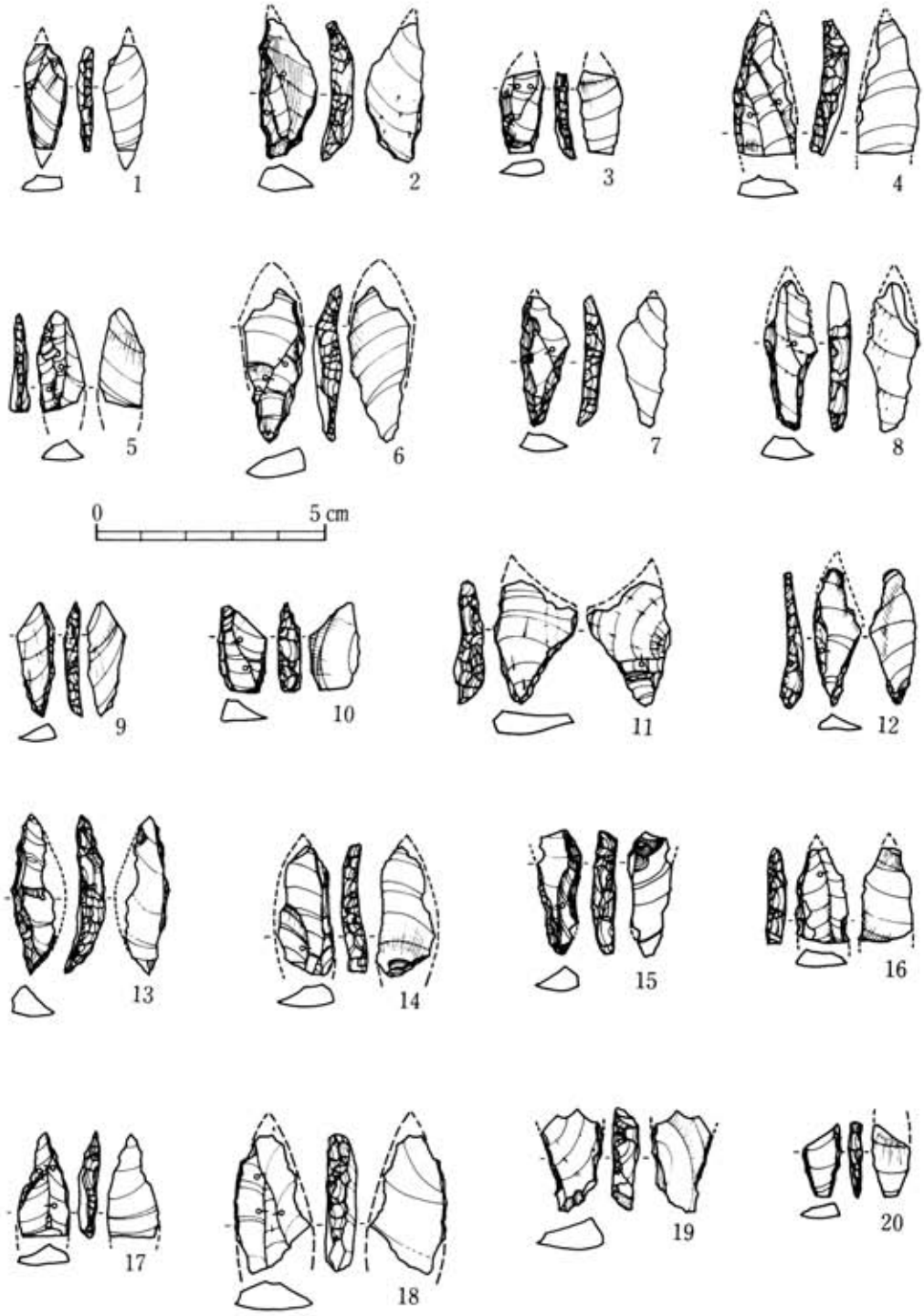
第47図　敷田遺跡
I区5L遺物分布図

文時代の遺構と推定されるが詳細は不明。第47図は1区のグリッドで、第II層に掘り込まれた土壙である。第46図は第II層の赤褐色粘質土層内のブロックであり、石器製作跡と推察される。

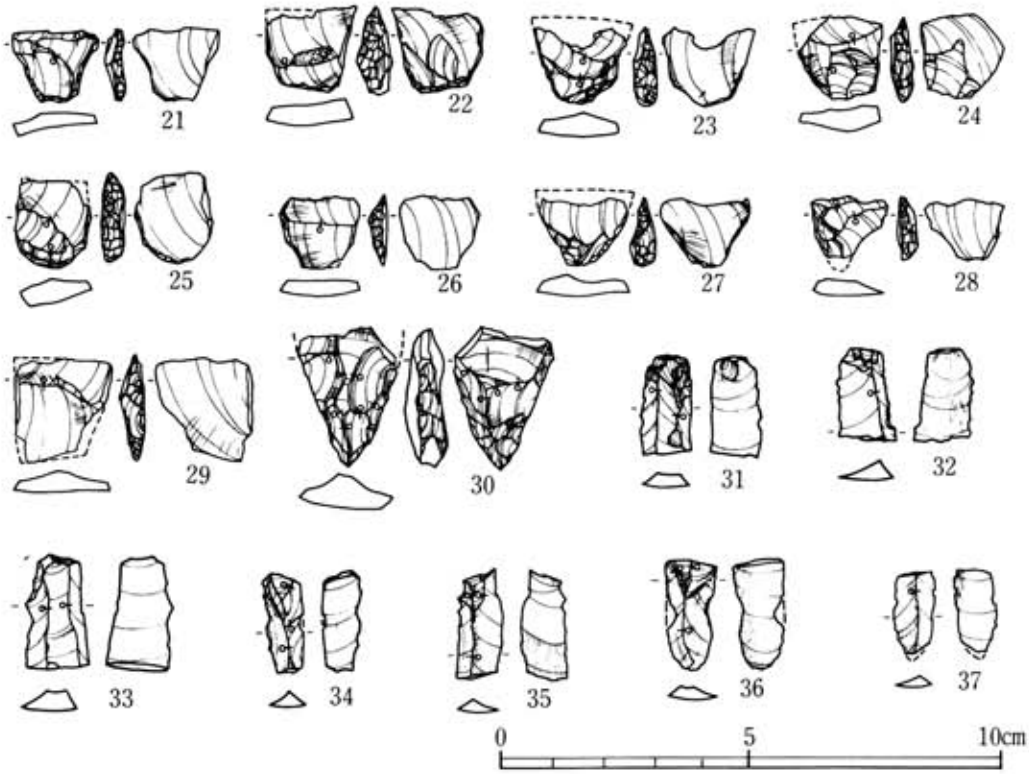
出土遺物

旧石器時代　〔第48図〕　1～20ナイフ形石器。1～6は刃部を意図的に作出しない木葉形タイプで、中・小形が多い。7～12は刃部を作出した切り出し形のタイプ。11は横広剝片を素材にし、打瘤除去を行っている。21～29は台形石器。黒曜石製縦長剝片の胴部を素材にして、両側辺基部にプランティング加工を施している。30は表裏両面に調整加工を施した台形様石器である。31～37は細石刃。31～33は頭部、34～35は胴部、36～37は尾部と、各々折断されている。

縄文時代　〔第49図〕　1～3は尖頭状石器である。安山岩製で両面加工を施している。2は黒曜石製で入念な調整加工を両面に施している。4～9はスクレイパーである。4は円礫黒曜石の自然面を残した縦長剝片を素材にして両面に加工を施し、断面は薄い半円形状を呈す。5は安山岩製で薄手の縦長剝片を素材にし、中央部に抉りをもつ。調整は両面より施す。7、8は安山岩製の粗い加工のラウンドスクレイパーである。9は器厚の厚いコアスクレイパーである。10、11は残核。出土した石鏃は、第52、53図の通りである。今回の調査により227点の石鏃が出土した。これまでに普恩寺在住の池田一氏によって当遺跡で採集された遺物が値賀小



第48－1図　敷田遺跡　出土遺物実測図



第48－2図　敷田遺跡　出土遺物実測図

学校郷土室に保管されているが、その中に石鏃が 253点ある。片岡肇氏（岩戸口遺跡群の発掘調査）の基準によりタイプ分類をすると第4表の通りである。

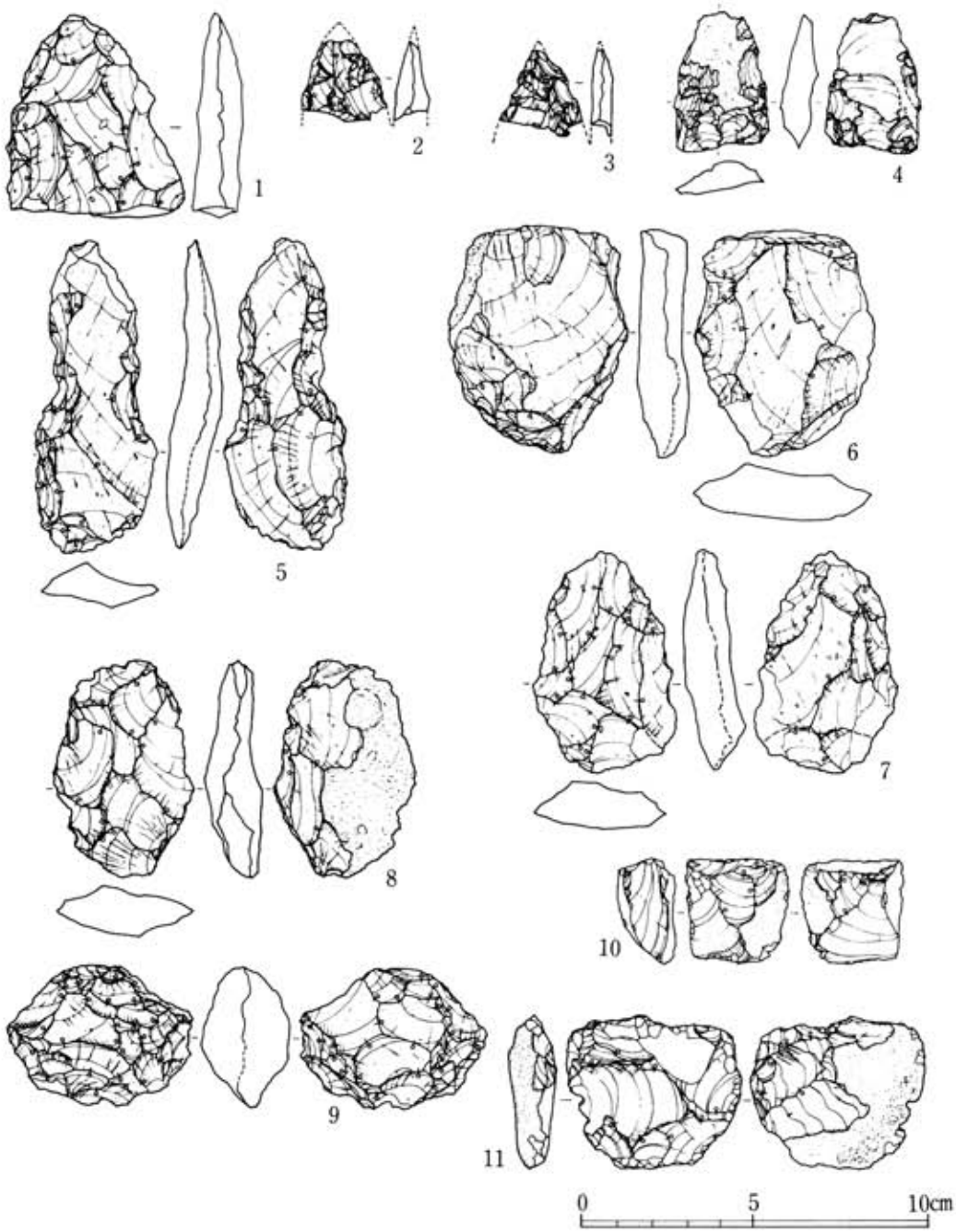
側縁　A：まっすぐなもの
　　B：丸くふくらむか屈折するもの
　　C：その他
基部　a：逆刺の役目を果たさない
　　b：逆刺の役目を果たす
　　b_1：抉りがない
　　b_2：浅い抉り
　　b_3：深い抉り

第4表　敷田遺跡出土石鏃形態分類

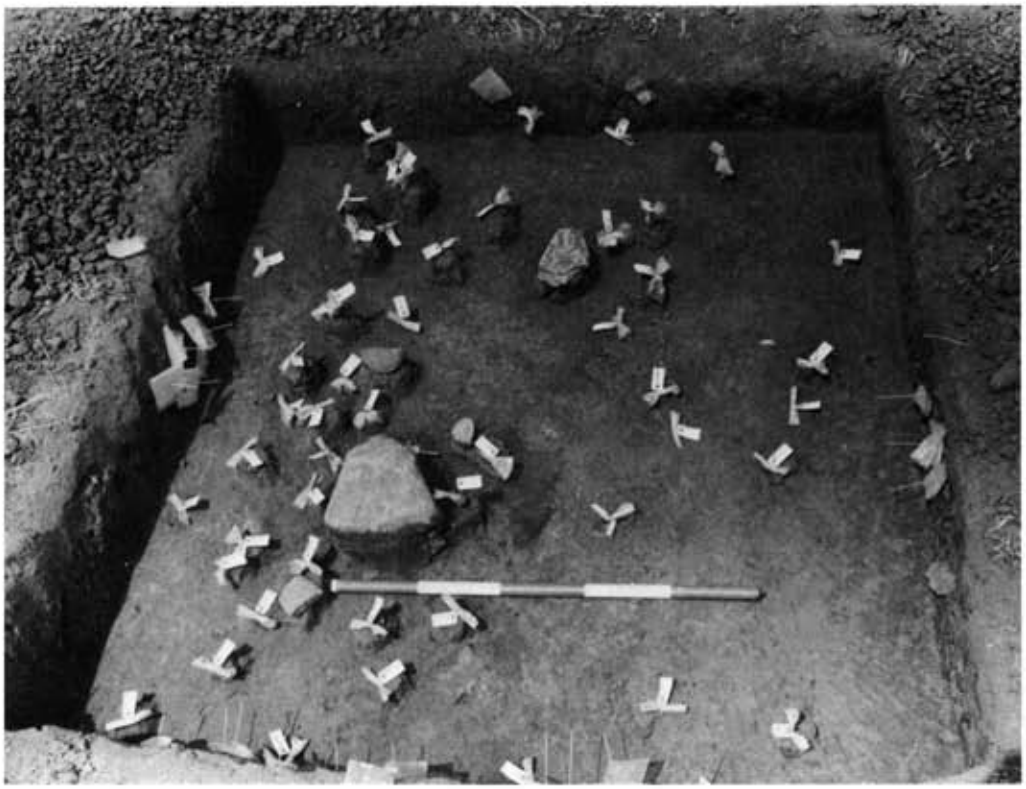
	a	b_1	b_2	b_3	計
A	4 (13.3%)	2 (6.7%)	11 (36.7%)	13 (43.3%)	30 〈18.1%〉 (100%)
B	35 (32.7%)	10 (9.7%)	21 (19.6%)	41 (38.4%)	107 〈64.4%〉 (100%)
C	10 (35.4%)	4 (13.8%)	5 (17.2%)	10 (34.5%)	29 〈17.5%〉 (100%)
	49 (29.5%)	16 (9.6%)	37 (22.3%)	64 (38.6%)	166 〈 100%〉 (100%)

側縁のタイプは、丸くふくらむB型が約3分の2を占め、残りをAとC型が折半する。基部タイプは、a型が約30%を占め、抉りの深いb_3型が39%と多く平基式のb_1型は10%である。土器片は磨耗が著しく、細片であるため時期不詳。

古墳時代　8区を中心とした広範囲の表土層に、須恵器片が散布していたが、関連する遺構は検出することができなかった。

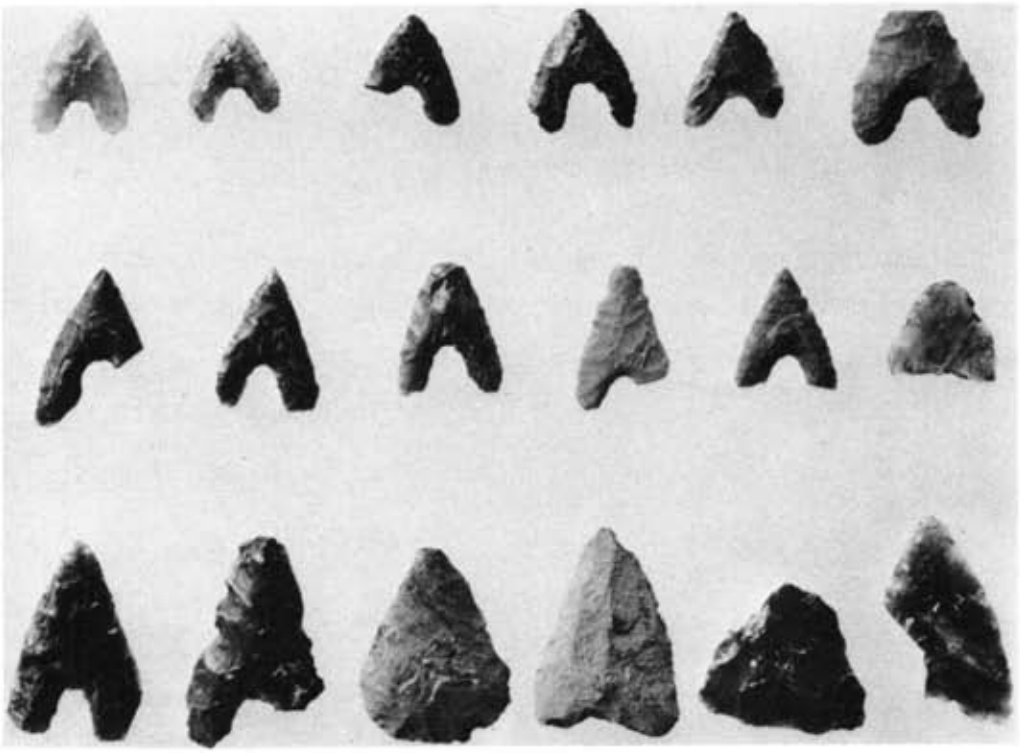

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
0
5
10cm

第50図　敷田遺跡　確認調査風景



第51図　Ⅰ区５Ｌ、グリッドⅡ層

第52図　石鏃（1）

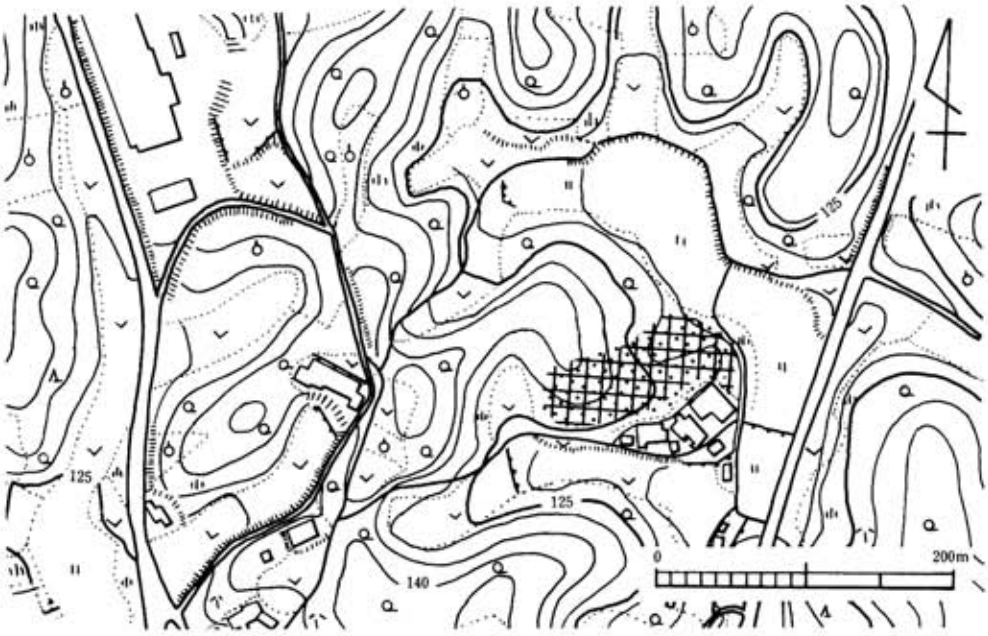


第53図　石鏃（2）

8. かんねお遺跡

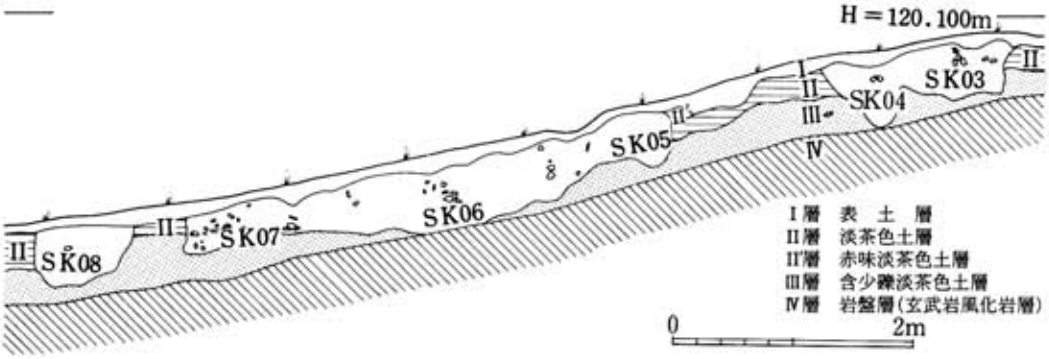
所　　在　　地　　東松浦郡鎮西町岩野字橋の元173の1番地

確認調査年月日　　昭和55年11月11日～11月18日

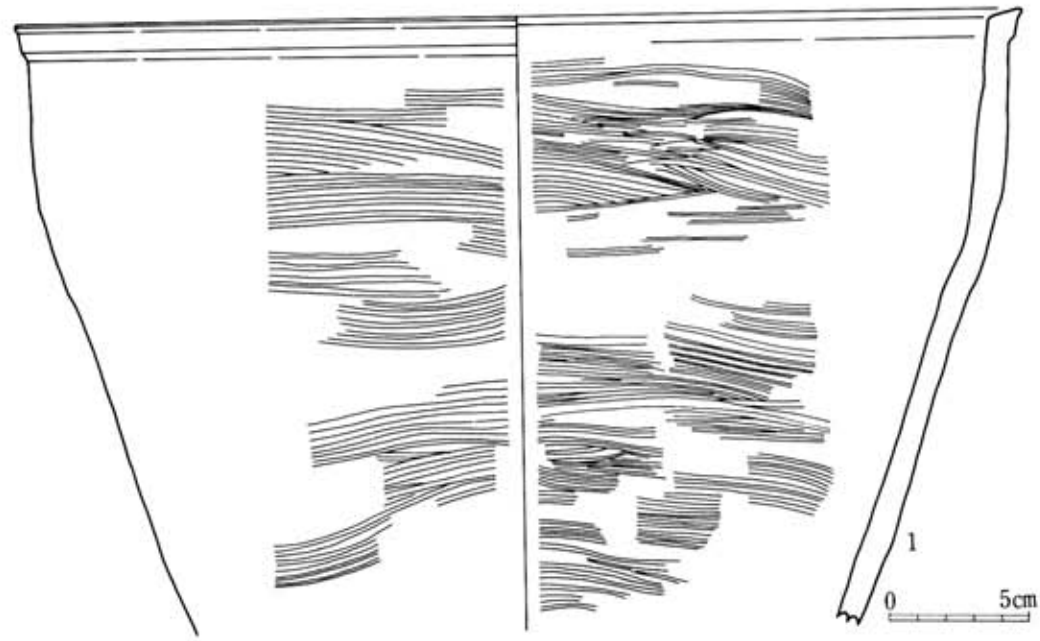


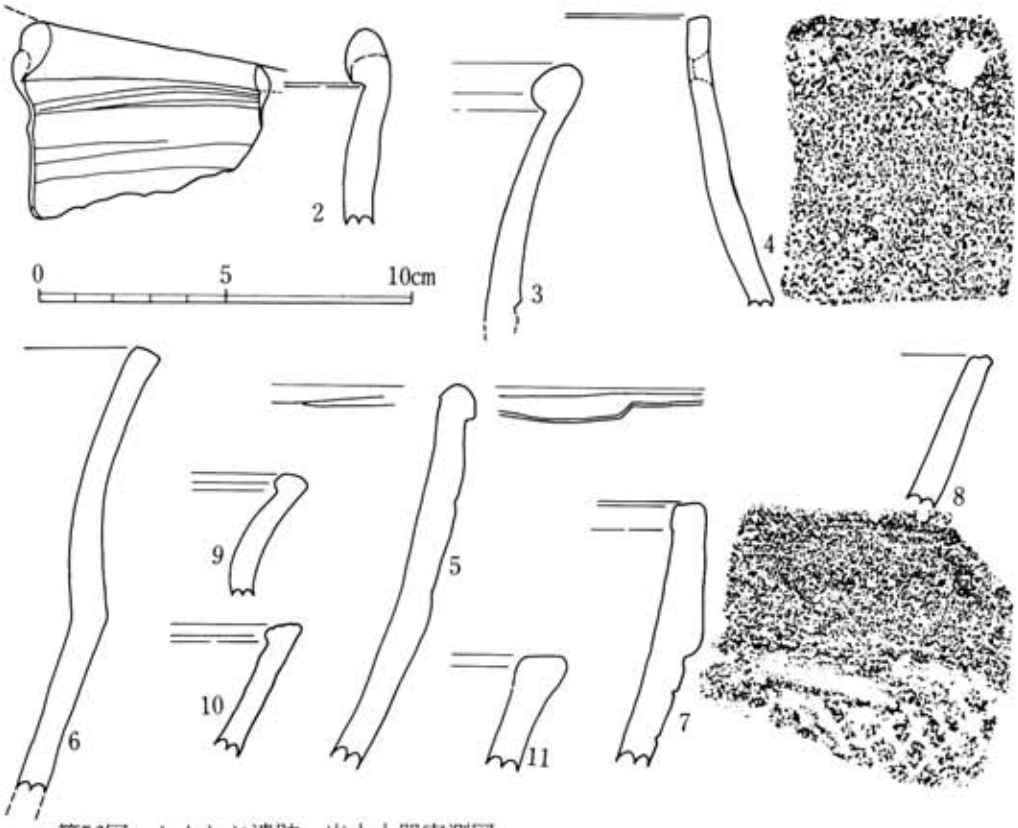
第54図　かんねお遺跡の地形と発掘調査地点

上場台地の東崖は急斜をなして玄海灘に接するが、かんねお遺跡はその卓上部の縁辺部に位置する。標高125mの丘陵の東斜面尾根部に広がる縄文晩期から弥生中期までの小集落跡である。近隣には原、猿口、中川原、早田、加倉、赤川原等の遺跡が点在する。

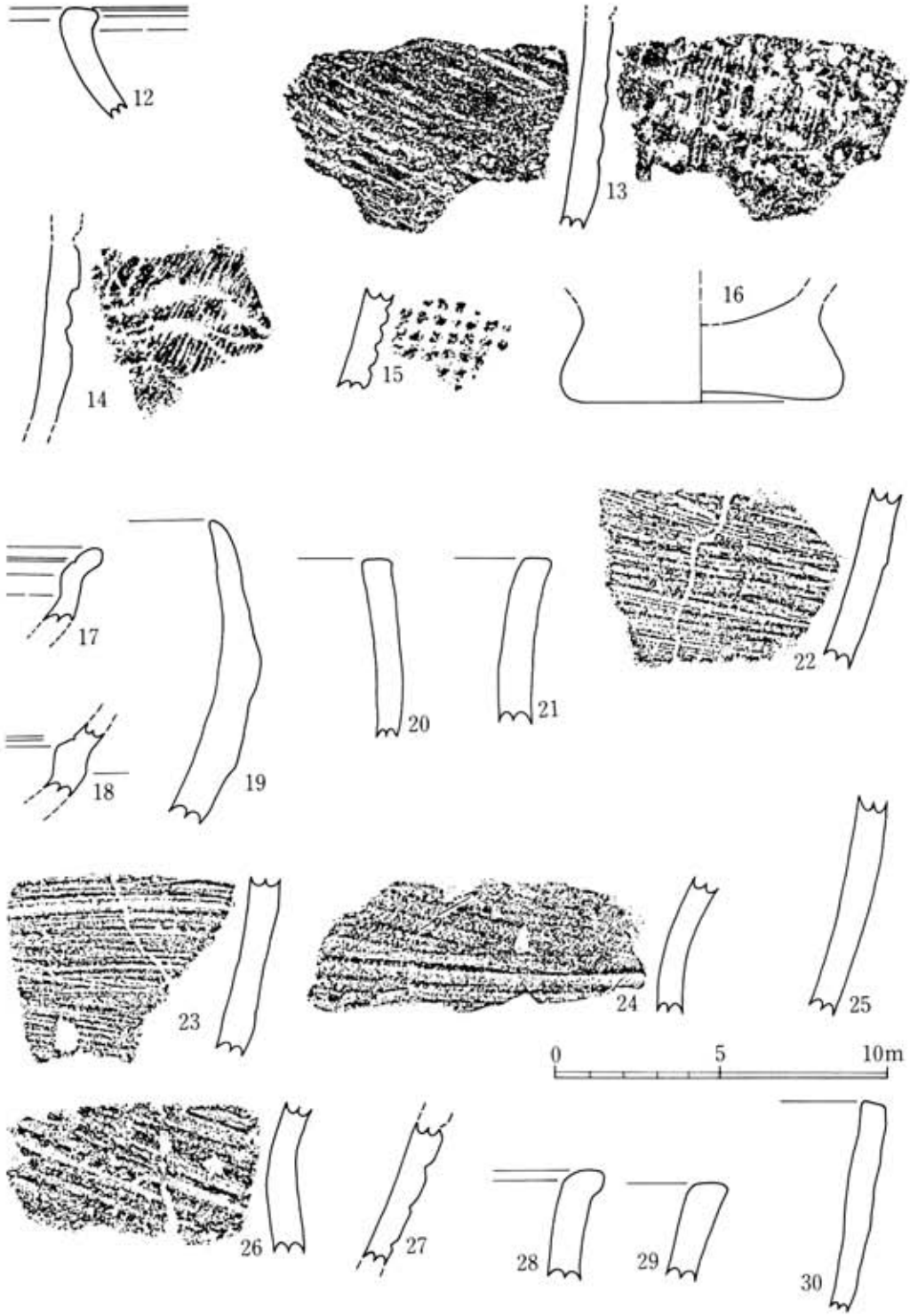


第55図　かんねお遺跡　I区南壁土層断面図

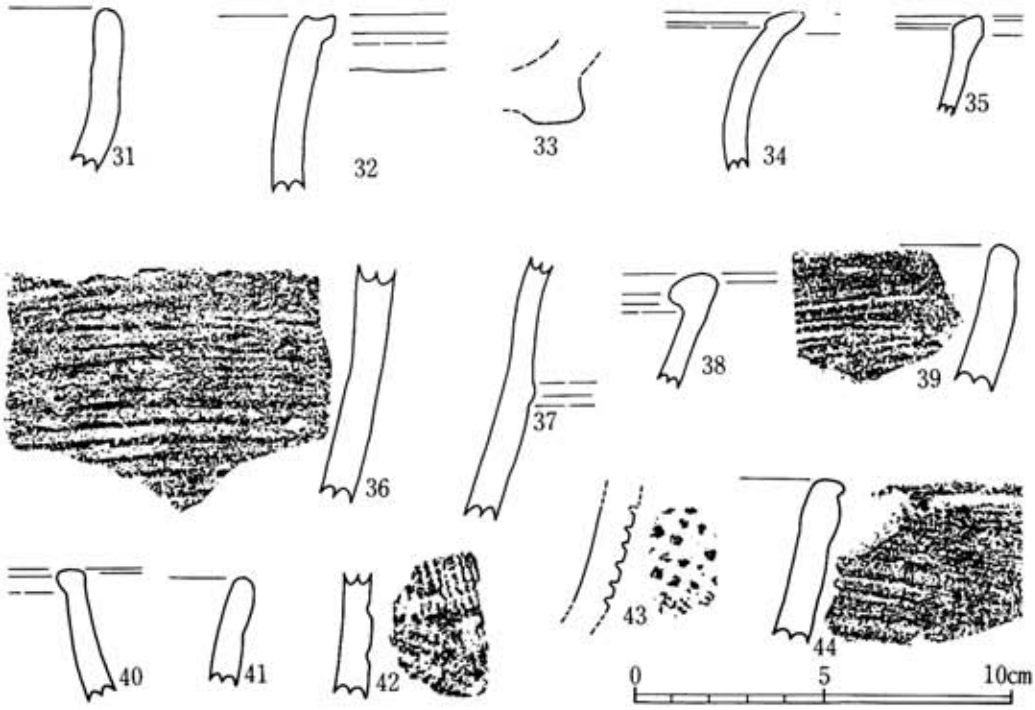




第56図　かんねお遺跡　出土土器実測図



第57－1図　かんねお遺跡　出土土器実測図



第57－2図　かんねお遺跡　出土土器実測図

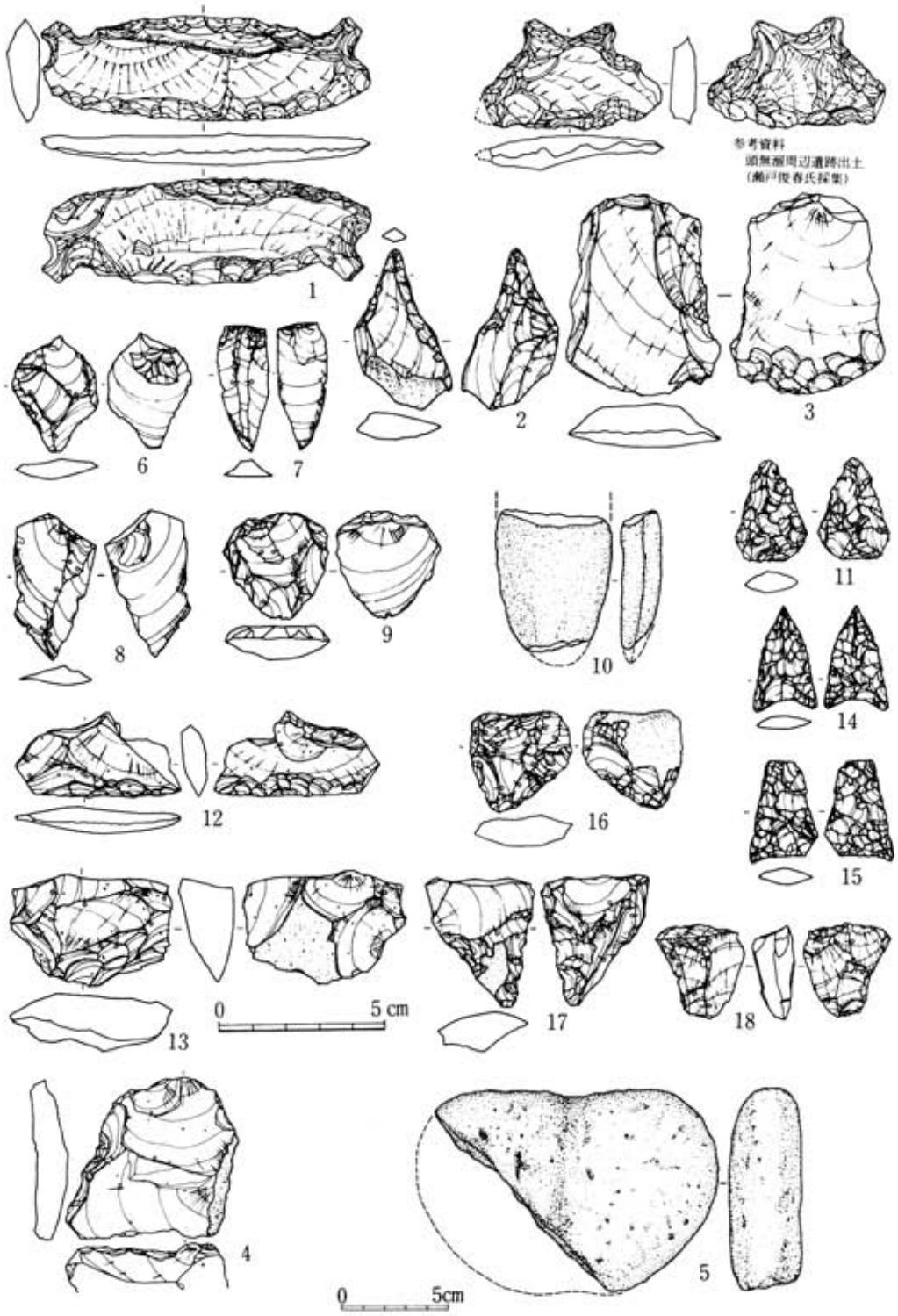
昭和55年9月25日に、上場農業水利事業「打上47団地」農地造成工事に施行に先行して踏査を行い、11月に確認調査を実施した。すでに遺跡の北区は削平され、雑木林の北崖面に遺構が露出していたが、遺跡はこの雑木林内にも広がっているものと推察される。

1．遺　　構〔第55図〕

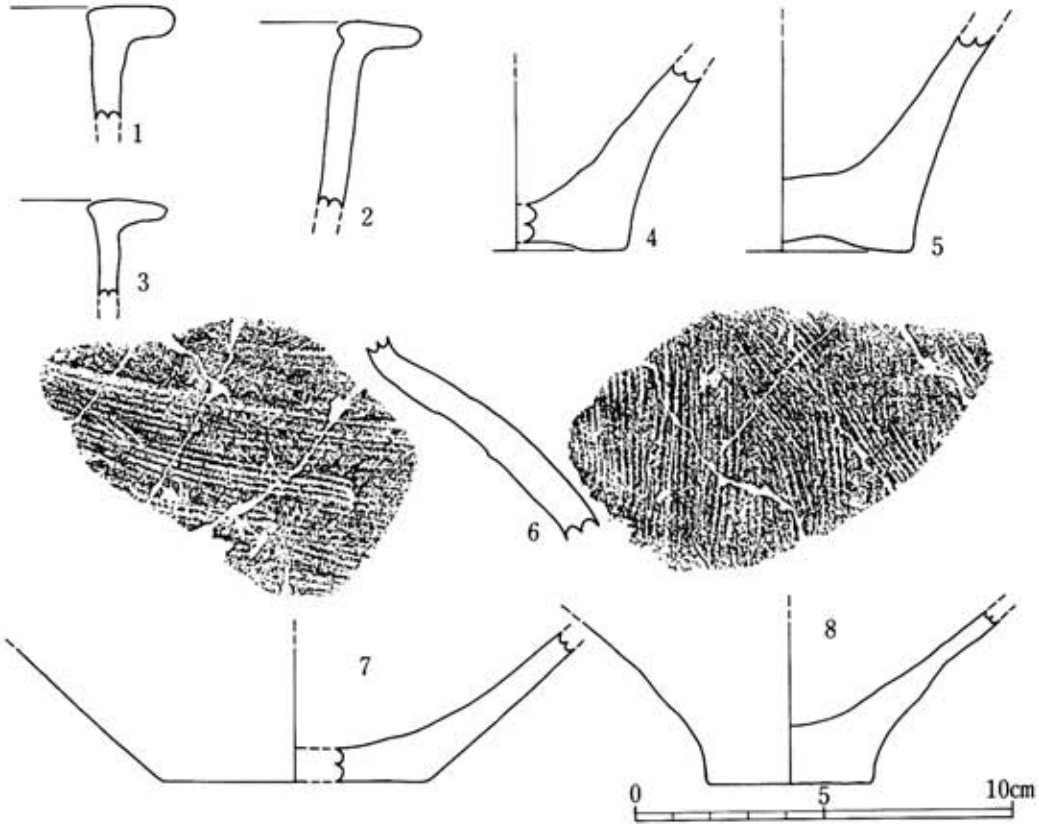
A区で崖面に11個所、北斜面に2個所の土壙が検出された。いずれも縄文晩期と推察される。SK03 から SK08 は隣接し遺物の出土も多い。A区の東丘陵縁部に位置するD区では、第II層が弥生中期中葉の遺物包含層であるが農政局との協議により盛土工法で保存することにした。A区の西B、C区、谷むかいのE区では遺跡の確認はできなかった。

2．出土遺物

縄文時代　〔第56・57図〕　1～18は表土層出土。1平坦ぎみの口縁端部は内傾し、わずかに外側に張り出す。胴部上半はやや外彎し、下半は直線的に下がる。内外面とも粗く貝殻条痕で調整している。底部欠失。内面黒褐色、外面は茶褐色で二次焼成の黒斑がみられる。胎土に砂粒雲母を含み焼成は良好。2はヒレ状突起の付く口縁部片。外面はナデ、内面は篦状工具による調整。内外面とも暗茶褐色で、焼成は良好。胎土に多量の雲母を含む。4は補修孔をもつ口縁部片。7は胴部に組織痕を有する深鉢の口縁部。肥厚する口縁部は内傾ぎみに立ち上がり、



第58図　かんねお遺跡　石器実測図



第59図　かんねお遺跡　土器実測図

内端部は張り出す。内外面とも黒褐色を呈し、胎土に砂粒を多く含む。19～21はII層出土。19は口縁部が薄く、内傾する深鉢。肩部が張り出し、胴部は剝落が著しいが組織痕がつくものと思われる。22～25は SK01 出土。26は SK02 より、27、28は SK03、29、30は SK04、31～35は SK06、36～43は SK07、44は SK10 より出土した。〔第58図〕 1～9表土層出土。1は安山岩製の双抓横型石匙。横広の剝片を素材にして縁辺を入念に調整している。2、黒曜石製両面加工の石錐。横広剝片を素材にしている。3、4は安山岩製スクレイパー。4は大形で左線下縁に加工を施す。5は玄武岩の平坦な円礫を素材にし、中央部に簡単な凹みのついた石錘。6は右辺刃縁部に使用痕のついた横広型剝片。7、8は縦長剝片。10～13は SK06 出土。10は両側辺に稜が通るノミ形磨製石斧。11は基部が大きく外彎する石鏃。12、13は安山岩製スクレイパー。14は SK07 出土。淀姫系黒曜石製の駒形石鏃。肩が高いタイプ。15～18はD区II上層出土。

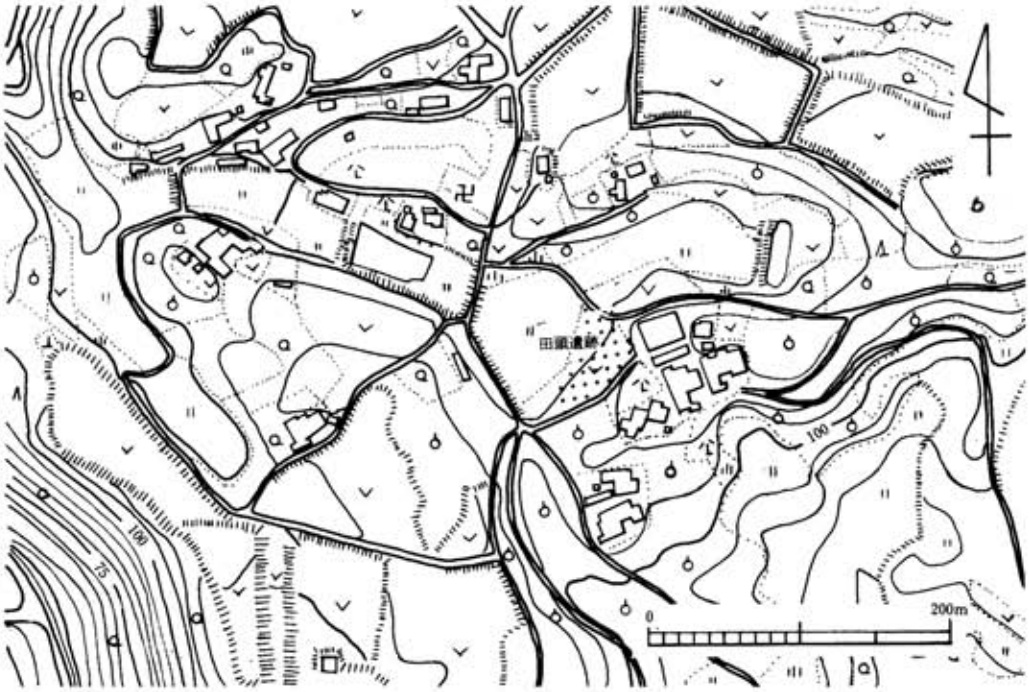
弥生時代　〔第59図〕　D区II層上層より甕1～5、壺6～8等が出土した。

第60図　かんねお遺跡　遠景(西より)

第61図　かんねお遺跡　SK06土壙

9. 田　頭　遺　跡

所　在　地　　東松浦郡鎮西町打上大字通字田頭1700番地

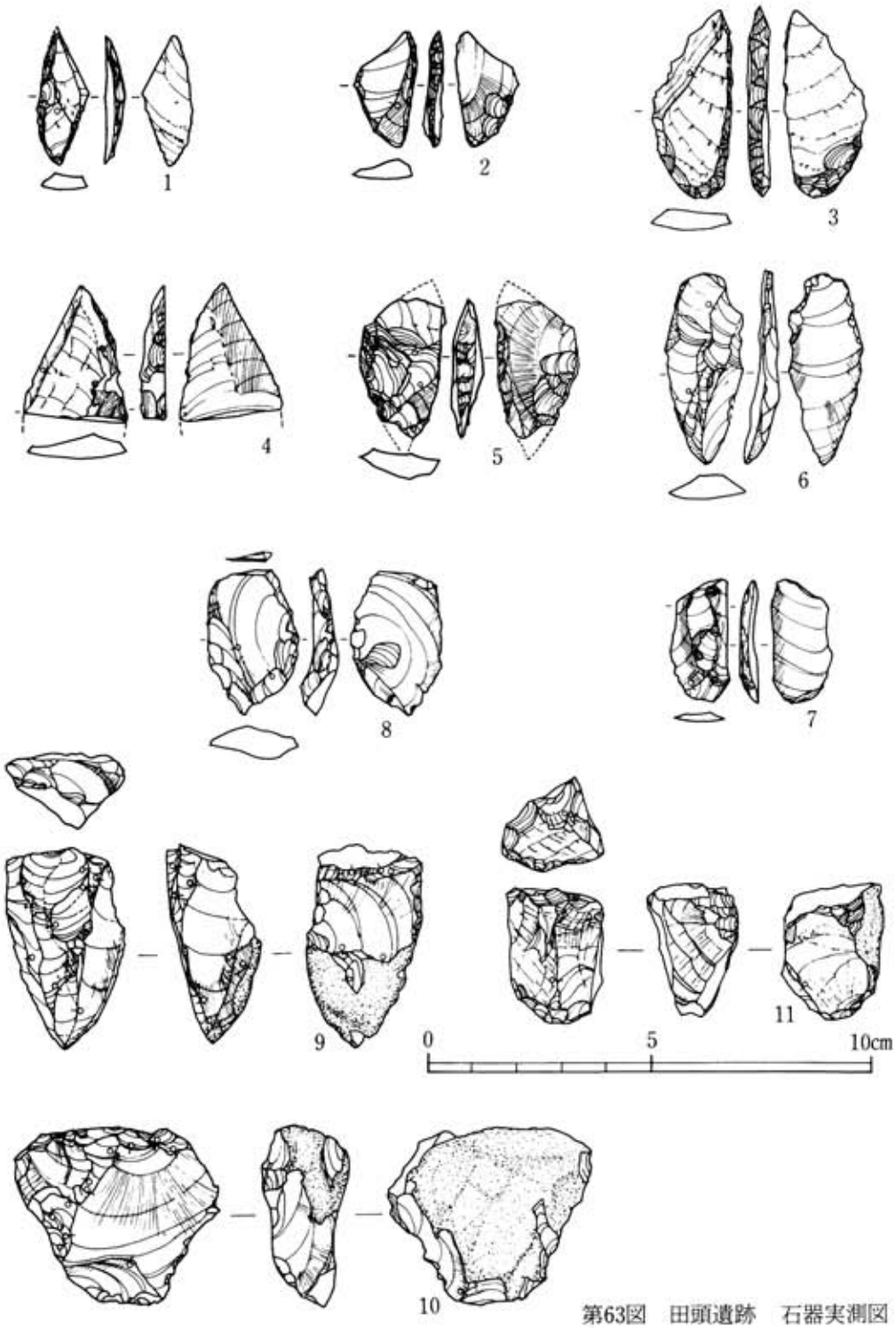


第62図　田頭遺跡の地形

田頭遺跡は、打上中学校とその北側に落ちこんだ谷をへだてて向かいあう丘陵部の標高110mを測る北側緩斜面に位置している。

1　周辺の遺跡

田頭遺跡の近隣には縄文時代系の剝片、削片が採集できる地点がある程度で遺跡の存在は確認されていない。先土器時代の遺跡としては、南東25km（以下いずれも直線距離）のところに原遺跡がある。南1.5kmに藤原遺跡がありナイフ形石器、トラピーズ、マイクロブレイド、マイクロコア等を採集している。打上中学校の南側に谷部の水田をへだてて向かいあう丘陵部からもナイフブレイド、旧石器系の剝片等を採集しているが倉庫建設のため全面削平され、湮滅してしまった。原遺跡をふくめ、これらはいずれも縄文時代の遺跡とも複合している。縄文時代の遺跡としては、上記のほかに南東 1.5kmの付近に早田尾箱遺跡、南南東１km付近に打上東渕山遺跡がある。中野遺跡は、東北東2.4kmのところにある。また、海底貝塚として知られる赤松遺跡は、西北西2.4kmにある。また、東約800mの山頭遺跡でミカン園造成中に甕棺が出土したが、その破片は唐津二中に保管されている。さらに農地開発がすすめられて地形は一変し、完全



第63図　田頭遺跡　石器実測図

に湮滅してしまった。古墳時代の遺跡は少なく、前記中野遺跡の近くに鬼塚古墳がある。この古墳は、封土はすべて流出し、巨大な玄武岩の石室が露出している。天井石が石室内に落ちこんでいるため、くわしいことはわからないが南へ開口した横口式古墳と思われ、古墳時代後期の築造と推定される。

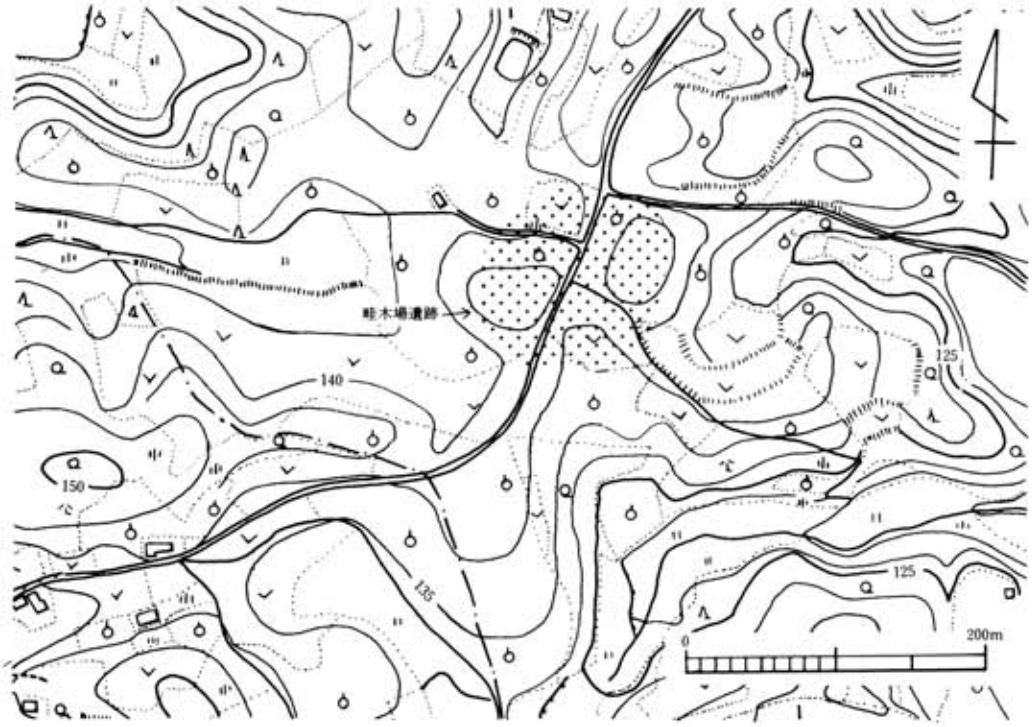
2　遺跡の概要と遺物

田頭遺跡は6年前踏査中に発見したものである。打上台地上に存在する小丘陵の一つで、北側と西側のゆるやかな傾斜地を15年ぐらい前に削平して造成した畑地であり、畑地の全面が遺跡ではなく、東区の西約15m、南北約30mの範囲であろう。北側にわずかに傾斜し、水田面との比高は約1.5mである。石器、剝片等の散布は少なく前記のように他の旧石器遺跡が縄文時代と複合しているのに対し、田頭遺跡は旧石器時代に属する石器や剝片だけである。

これまでに採集されている遺物の主なもの〔第63図〕は、ナイフ型石器5点、台形様石器1点、剝片約60点である。石材はいずれも良質の黒曜石である。ナイフ形石器は完形3点（小形のもの2点、比較的大形のもの1点)、刃部のみで基部を折損したもの2点(いずれも大形)である。1は小形の切出形を呈するナイフ型石器である。刃部は基部方向からの剝離によって作出され、先端部に向かって狭くなっている。背部はゆるやかに外彎し、ブランティング加工はすべて裏面からおこなわれているが、基部の末端部はきわめて細かな潰しが加えられている。右辺は刃部末端から直線で基部末端に達し鋭く尖る。細部加工は裏面からおこなわれているが、背部のブランティングよりやや大きい。打瘤の方向は刃部を除いて先端部にあり、基部末端の表面には母岩の自然面がわずかに残っている。刃部には使用痕が認められる。2は三角形に近い形状のナイフ形石器である。刃部の作り出し面が非常に広いのが特徴である。刃部はわずかに内彎しており、先端部と基部側をわずかに欠失している。背部は基部から先端方向に直線的にのびるが、先端部近くで内側にややカーブしている。ブランティングはすべて裏面からおこなわれている。左辺はやや外彎して基部に至る。3は比較的大形のナイフ形石器である。不透明のやや質の劣る黒曜石で茶色の縞模様が入っている。刃部の稜線は刃部線に併行している。背部は直線的に、左辺はやや外彎して基部に達するが、その末端部は円く調整されている。4は大形のナイフ形石器で下半分を欠失する。5は1点だけの台形石器であるが、半透明の良質の黒曜石製である。横長剝片を素材にしたもので、右辺中央部に打瘤がある。裏面は左辺から右上方向へ数回の剝離をおこなって器形調整を施している。右側辺のブランティングはほぼ全面に裏面からなされているが、右側辺の細部加工は交互剝離をともなっている。6、7は縦長剝片、8は横長剝片である。9～11は石核である。9は良質の黒曜石の円礫である。円礫の一端に打撃を加えて打面を作り出し一定の刃器状剝片が得られるようにした石核である。かなりの剝片を剝離したものと思われる。これらの採集遺物はすべて打上中学校に保管されている。(原口泱泰)

10. 畦 木 場 遺 跡

所　在　地　　東松浦郡鎮西町石室字畦木場



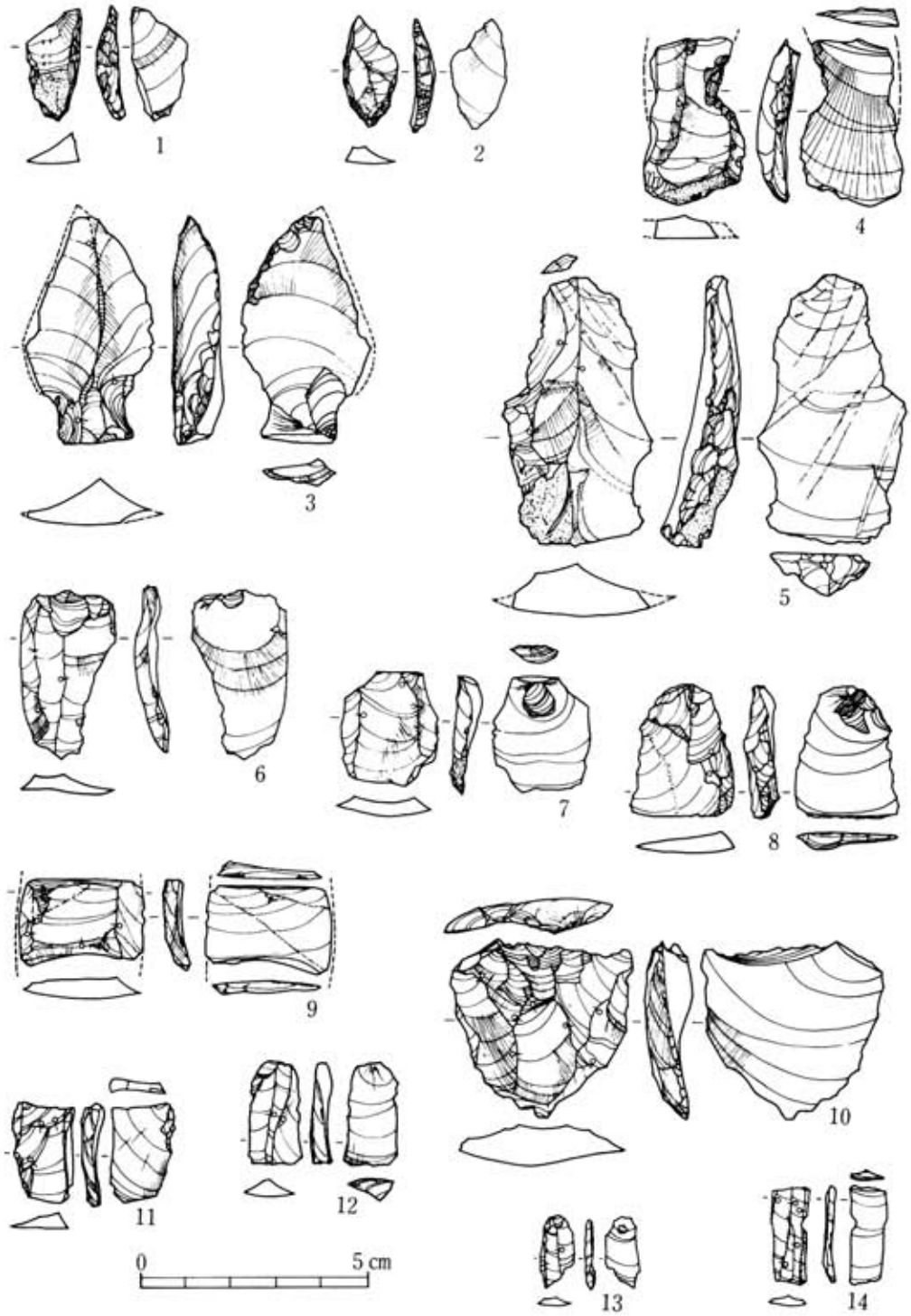
第64図　畦木場遺跡の地形

唐津、鎮西、玄海の三市町が隣接する上場台地のほぼ中央部にあり、標高約140mを測る。東西に延びる丘陵鞍部南緩斜面の、東西南北とし約100mの範囲内に遺物は散布する。耕作土の状況からみて遺物包含層の残っている可能性は強いと思われる。

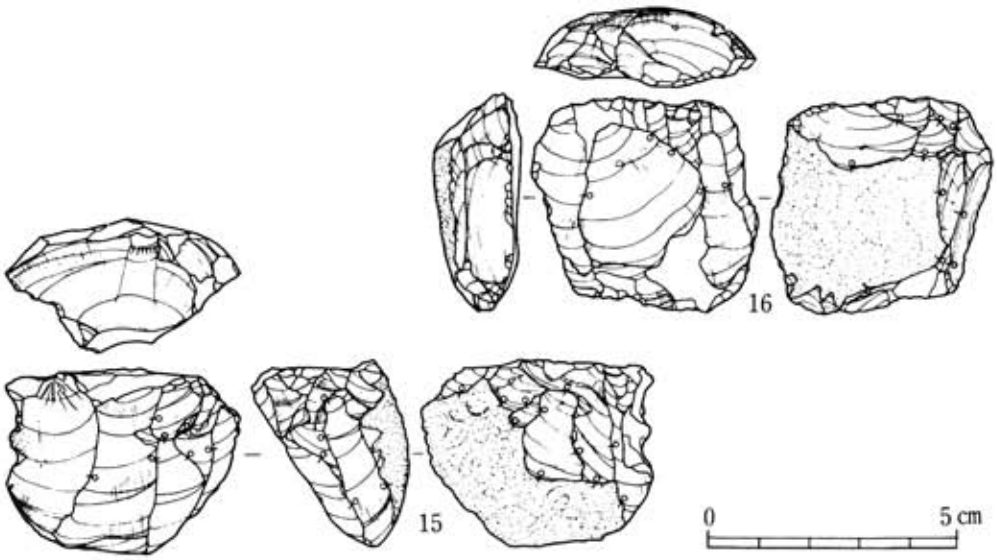
畦木場遺跡付近の踏査はまだ十分ではないが、畦木場遺跡の南に隣接してもう1ヵ所旧石器遺物の散布地がある。旧石器時代の遺跡としては、上石室に畦木場遺跡の北100mに山田平遺跡があり、剥片が採集されている。丸林遺跡は北西600mにある。

縄文時代の遺跡としては、畦木場遺跡の北800mに萩の前遺跡がある。最近ここで舟底型細石核を採集したが遺物の量は少ない。棚田遺跡は、北西750mにある。

表採した資料〔第65図〕は、ナイフ型石器、マイクロブレイド、剥片尖頭器、掻器、石核等である。ナイフ型石器は2点あるがいずれも小形である。打面は表裏面ともに先端部側にあり、



第65－1図　畦木場遺跡　石器実測図



第65－2図　畦木場遺跡　石器実測図

広い刃部面をもつ。1はわずかに先端部を欠く。ブランティング加工は、表裏両面から施されており、基部側表面は自然面が残る。このナイフ型石器は、刃部面に不整形なリングが走る。背部はゆるやかに外彎し、細部加工はいずれも、裏面からおこなわれている。3は剝片尖頭器。断面が幅広い三角型の剝片を素材にしたもので基部両側辺を裏面から抉っている。右辺の側辺調整は表面から細部加工が加えられているが、先端に近い部分の加工はやや大きく剝離されている。左側部に欠失が見られる。打瘤が残存し、素材に打面調整は施されていないが剝離面調整がみられる。4はコンケイブスクレイパーである。右側辺上半に抉り加工が裏面より施されている。もう1点の掻器は、上縁が中ほどから右上方にそり上がった長方形をしており、左にはナイフ型石器状の刃部をつくりだし、右端部は浅い角度の剝離をもって刃部を造成したと思われる。左側刃部に小さな刃こぼれがみられるが、使用痕と考えられる。13、14は細石刃。13は尾部欠失、14は中間部である。ともに半透明の良質の黒曜石を素材にしている。1を除いて使用の痕跡を示している。15、16は石核。ともに良質の黒曜石の円礫を原石にしている。15は打面と剝片剝離面との角度は約60度を測る。

この遺跡からは以上のような先土器時代の遺物のほか、縄文時代の石鏃も5点採集しているが主体はあくまで先土器時代の遺跡と推察される。畦木場遺跡の採集遺物は、打上中学校に保管している。(原口泱泰)

お　わ　り　に

上場の埋蔵文化財の研究史をふり返ってみると、大きく三つの時期をとらえることができよう。第Ⅰ期は、昭和25年３月に鏡山山頂遺跡において細石刃が発見され、九州における旧石器文化研究の第一歩が始まり、以後上場各地において次々と遺跡が発見された。全国的にも有数の旧石器時代の遺跡集中地として注目され、昭和33年に分校入口遺跡、35年に女山・笹の尾遺跡、38年に原遺跡が発掘調査され、上場の旧石器研究は第Ⅰ期においてピークに達した。しかし、遺物包含層である火山灰層が貧弱であることや、良好な岩陰遺跡に恵まれていないこともあって、昭和40年代は、個々による表採資料を中心として遺跡の確認が行われてきたが、研究上は盛り上がりの少なかったのが第Ⅱ期である。この間、みかん園造成や小規模開発により遺跡が破壊されてきている。それでも、昭和42年に赤松海岸貝塚、45年に大友甕棺遺跡、46年神集島鬼塚、47年に甕塚、50年に小川島貝塚等で発掘調査が行われたが、未だ調査報告は出ていない。昭和52年から上場開発等の大規模開発の事前調査を、県・市町村教育委員会で取り組み、名護屋城跡及び陣跡の保存整備事業、県立博物館における肥前町百田洞穴調査、また、大友遺跡の範囲確認調査等も実施されてきている。この時期が第Ⅲ期といえよう。上場農業水利事業において国営で約1,000haの農地造成、県営で約3,300haの畑地の区画整理が計画されているが、この中には多くの遺跡が含まれ、再び遺跡周辺の地形が大きく変わることが予想される。従って、第Ⅱ期までに確認された遺跡の集約、及び遺跡から出土した遺物の総点検が今日緊急に必要な課題であろう。

旧石器時代の遺物包含層を検出できる遺跡は少ないが、生石遺跡の４層の包含層以来、尾山遺跡のⅡ・Ⅲ層（縄文時代）とⅣ・Ⅴ層（旧石器時代）を確認した。また、川原田・荒谷遺跡等で２層の包含層を確認したが、テフラの貧弱な上場でも良好な文化層をもつ遺跡の存在を暗示しているといえよう。集落を形成するのに必要な一定の広がりをもつ包含層を確認することによって、これらの遺跡の性格づけを行うことが今後の課題である。

上場開発と文化財保護については、相入れない要素をもつが、開発事業の前々年度に予備調査を完了し、農地造成設計の中で、遺跡の範囲は最大限「盛土」による保存で対処していくことが緊急の課題であるといえよう。

あ と が き

1．この報告書は農業基盤整備事業に係る発掘調査記録である。

2．本報告書の作製担当は次の通りである。

(1) 遺物実測　堀川義英　寺田和正　藤原倫子　隈本鍈子　白津トモエ　野田英治　田島龍太

(2) トレース　堀川義英　寺田和正　隈本鍈子　白津トモエ　渡辺幸子　野田英治　山上龍

(3) 写　　真　堀川義英

(4) 執　　筆　9．田頭遺跡 10．畦木場遺跡を原口泱泰氏にお願いし、他は堀川が行った。

(5) 編　　集　堀川義英

3．出土遺物の整理は、堀川、田島、寺田、隈本、白津、渡辺が行い、出土資料は県文化課唐津分室に保管している。

4．富桝憲次、河児哲司、原口泱泰各氏をはじめ山口一秋、前田藤三郎、入船勇、前田貞子各氏の御協力を得た。厚く感謝の意を表したい。

昭和56年3月31日　　堀　川　義　英　記

参　考　文　献

(1) 松岡　史　「唐津市史　第二編1～4章」　唐津市史編纂委員会　1962

(2) 唐津東高郷土研究部「まつうら　復刊8～16号」　東高郷土研究部　1960～1979

(3) 河児哲司　富桝憲次　志佐惲彦　山崎猛夫他　「佐賀県の遺跡」　県教育委員会　1964

(5) 堀川義英　「生石遺跡」　佐賀県教育委員会　1978

(6) 〃　「牟田辻・中野遺跡」　〃　1979

(7) 岩松要輔　「切立遺跡」　多久工高郷土研究会　1964

(8) 森　醇一郎　「新郷土」　新郷土刊行協会　1969

(9) 〃　「肥前町百田洞穴」　佐賀県立博物館　1980

(10) 萩原博文　「西南日本における旧石器時代石器群の様相」　考古学研究第26巻4号　1980

(11) 白石浩之　「西南日本におけるナイフ形石器終末期の予察」　神奈川考古

(12) 清水宗昭　「剝片尖頭器について」　古代文化

(13) 小田静夫　「台形石器について」　物質文化18　1971

(14) 岩松要輔　「末盧国24号」　松浦史談会　1968

佐賀県文化財調査報告書第62集

上場の文化財(I)

昭和56年3月31日

発行 佐賀県教育委員会
編集 佐賀市城内一丁目

印刷 佐賀印刷社
佐賀市高木瀬町長瀬1136－54